

私立大学 学生生活白書 2018

Student Life Report

私立大学 学生生活白書 2018

[発行] 平成30年9月

[編集者] 学生委員会学生生活実態調査分科会 分科会長 北條英勝

[発行者] 一般社団法人日本私立大学連盟

学生委員会 担当理事 土屋恵一郎

委員長 神澤信行

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館別館7階

TEL 03-3262-3603 / FAX 03-3262-3604 (教学支援課)

URL <http://www.shidairen.or.jp/>

[企画・制作協力・印刷] 株式会社アンド・ディ

〒105-0004 東京都港区新橋6-9-6 12東洋海事ビル5F

TEL 03-5408-6555 / FAX 03-5408-6551

URL <https://www.and-d.co.jp/>

©無断転載はご遠慮ください

進学目的・理由/
充実度/期待

経済

ライフ(大学生生活)

正課教育

正課外活動

留学

不安・悩み

進路・就職

身についたこと



STUDENT LIFE REPORT 2018

私立大学 学生生活白書 2018

まえがき

日本私立大学連盟の学生委員会が平成29年10月に実施した「第15回学生生活実態調査」の分析結果として『私立大学学生生活白書2018』を、ここにお届けいたします。

本書の分析に用いた「第15回学生生活実態調査」は、前回の「第14回調査」（平成26年10月実施）以降の変化の把握を重視しつつも、時代の趨勢をふまえるとともにWEB調査化にともない調査項目を見直し、合計59の質問項目を設定しました。調査の実施にあたっては、各加盟大学のご協力を得て、加盟121大学、12,369人の学生諸君から貴重な回答（回収率25.2%）をいただくことができました。本書は、加盟大学の学生諸君の学生生活の実態に関する分析結果を、今回調査を含む3回分（7年間）の時系列比較を中心にとりまとめています。

今回の調査結果の主要な特徴としては、これまで漸増傾向が続いてきた「所属学部・学科の満足度」と「学生生活の充実度」とがともに減少に転じた点があげられます。この背景には、「よい成績をとること」「専門的知識・技術を習得すること」「就職に有利だと思う」といった実利面を重視し、インターンシップへの参加率が急増する一方で、正課外の活動への参加や友人関係の形成などについての興味・関心が低下するなど、現代学生の実利志向・現実志向がかかわっていると考えられます。そこで本書の冒頭には、学生の満足度の低下にフォーカスし、その背景にある諸要因を検討する特集ページ（「フォーカス」）を用意しました。

また、これまではあまり検討がなされてこなかった、入試方法別に集計した結果および学部系統別に集計した結果の特徴を概観するページ、そして「学生の経済状況と奨学金」や「留学について」「インターンシップの参加意向と【身についたと実感できる力】」など、近年注目されているトピックについての分析ページを「サマリー」として設けています。

今後も、私立大学を取り巻く環境はますます変化し、それともなって学生の多様化がさらに進んでいくものと考えられます。そのような状況の中、本書から現代学生の生活実態、そのニーズや志向の特徴と変化などを的確に把握し、大学教育と学生支援の諸課題をご検討いただくことで、各加盟大学がよりきめ細かな学習支援・学生生活支援をおこなう上でご利用いただければ幸いです。

最後に、調査にご協力いただいた各加盟大学の教職員ならびに学生諸君に改めて厚く御礼申し上げます。また、調査の実施や分析にかかわられたすべての皆様に心より感謝を申し上げます。

平成30年9月

学生生活実態調査分科会
分科会長 **北條 英勝**

目次

各章まとめ・総括	1
フォーカス／サマリー	2
調査概要	21
基本事項	23
1章：進学目的・理由／充実度／期待	24
2章：経済	32
3章：ライフ（大学生生活）	40
4章：正課教育	48
5章：正課外活動	54
6章：留学	66
7章：不安・悩み	70
8章：進路・就職	76
9章：身についたこと	80
委員名簿	83
一般社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覧	84

1章：進学目的・理由／充実度／期待

- ・前回までは増加傾向にあった【所属学部・学科の満足度】【学生生活の充実度】は今回で減少に転じた。

2章：経済

- ・経済状況は「余裕がある」層が増加するも、学費の負担を感じる学生の割合が増加。

3章：ライフ（大学生活）

- ・「大学の勉強」「資格の取得」への興味が増加する一方で、人間関係形成や課外活動への興味は低下。

4章：正課教育

- ・前回まで増加傾向にあった正課教育の満足度は全般に低下。

5章：正課外活動

- ・課外活動への参加率は大幅に減少。インターンシップの参加率が上がり、一般化しつつある。

6章：留学

- ・留学未経験者の33.2%は意向があるものの、実際の経験者は全体の9.2%に留まる。

7章：不安・悩み

- ・「就職や将来の進路」に関する不安は減少。一方で「友人等との対人関係」に悩む学生が増加。

8章：進路・就職

- ・「就職できるかどうか」の不安は減り、「就職すること自体」への不安が増加。給与・福利厚生など、待遇を重視する傾向が高まる。

9章：身についたこと

- ・【身についたと実感できる力】は全般に減少。満足度・充実度向上のカギは「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「専門的知識をもとに論理的に考える力」「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」。

総括

【所属学部・学科の満足度】【学生生活の充実度】や【正課教育の満足度】は前回調査まで増加傾向にあったが、今回の調査で減少に転じた。その背景として「大学の勉強」「資格の取得」など実利面を重視し、インターンシップへの参加率が急増する一方で、人間関係形成や課外活動への参加など他者と関わることへの興味は低下するなど、学生の「実利志向化」「内向き志向化」が影響しているようである。今回の分析によって【正課教育の満足度】と【学生生活の充実度】の両方が高いことが【所属学部・学科の満足度】の向上に効果的であることが分かっている。今後、大学としても正課教育の充実のみならず、学生生活の充実についても取り組んでいくことが求められている。

◆ 1998年から着実に増加していた【所属学部・学科の満足度】の「よかった」の割合が、減少に転じた。

- ・総合満足度の指標として設定している【所属学部・学科の満足度】について、設問を開設して以降の時系列データをすべて掲載したのが下のグラフである。
- ・「よかった」の割合は、1987年から1998年までは57%前後で推移した後、1998年以降は着実に増加してきたが、前回から今回にかけて徐々に減少した。
- ・これを性別にみると、男女とも1998年以降は「よかった」が増加傾向にあった。男性は全体と同様に前回から今回にかけて減少に転じているが、女性は前回から減少していたことがわかる。

■ 所属学部・学科の満足度（全体／単一回答）

Q12 所属する学部・学科に入学してよかったと思いますか。（一つだけ）

			よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
●凡例						
全体 時系列						
	全体【1987】	(n=17,727)	56.1%	13.4	30.4	0.2
	全体【1990】	(n=14,721)	58.3	12.2	29.1	0.5
	全体【1994】	(n= 7,805)	58.4	7.9	32.9	0.8
	全体【1998】	(n= 8,000)	56.0	7.3	36.2	0.6
	全体【2002】	(n= 7,349)	61.2	5.9	32.0	0.8
	全体【2006】	(n= 6,639)	67.4	4.8	27.4	0.5
	全体【2010】	(n= 7,117)	68.7	4.3	26.5	0.5
	全体【2014】	(n= 6,791)	70.5	4.0	25.2	0.3
	全体【2017】	(n=12,369)	67.5	4.6	27.9	—
男性 時系列						
	男性【1987】	(n=12,053)	54.7	14.4	30.8	0.1
	男性【1990】	(n= 9,771)	55.7	13.6	30.0	0.6
	男性【1994】	(n= 4,642)	55.6	9.6	34.0	0.8
	男性【1998】	(n= 4,421)	52.2	8.5	38.6	0.7
	男性【2002】	(n= 3,954)	57.5	7.8	33.9	0.9
	男性【2006】	(n= 3,546)	63.8	6.2	29.6	0.4
	男性【2010】	(n= 3,689)	63.9	5.9	29.7	0.6
	男性【2014】	(n= 3,515)	67.9	4.9	26.9	0.3
	男性【2017】	(n= 5,518)	64.0	6.2	29.8	—
女性 時系列						
	女性【1987】	(n= 5,654)	59.2	11.2	29.4	0.1
	女性【1990】	(n= 4,950)	63.3	9.3	27.2	0.2
	女性【1994】	(n= 3,160)	62.5	5.5	31.2	0.8
	女性【1998】	(n= 3,575)	60.7	5.7	33.2	0.4
	女性【2002】	(n= 3,372)	65.5	3.8	30.0	0.7
	女性【2006】	(n= 3,057)	71.5	3.0	25.0	0.5
	女性【2010】	(n= 3,385)	74.1	2.6	23.0	0.4
	女性【2014】	(n= 3,267)	73.5	2.9	23.4	0.2
	女性【2017】	(n= 6,851)	70.3	3.2	26.4	—

※【1987】【1990】の選択肢は「入学してよかった」「よかったとはいえない」「どちらともいえない」

フォーカス：満足度の現状分析 ①学生の目的・意識・行動の変化

※前ページでみた通り、1998年から増加傾向にあった「所属学部・学科の満足度」の「よかった」の割合が減少に転じた。ここからは、その原因や背景を探る。まず、大学生の大学に対する意識や進学目的、行動を概観する。

◆強くなる学生の“実利・現実志向”

・学生の大学に求めるものが、より「専門的知識・技術の習得」や「就職」「良い成績」にシフトし、友人作りや大学生活を楽しむことや他者と積極的に関わっていくことの優先順位が下がっている。

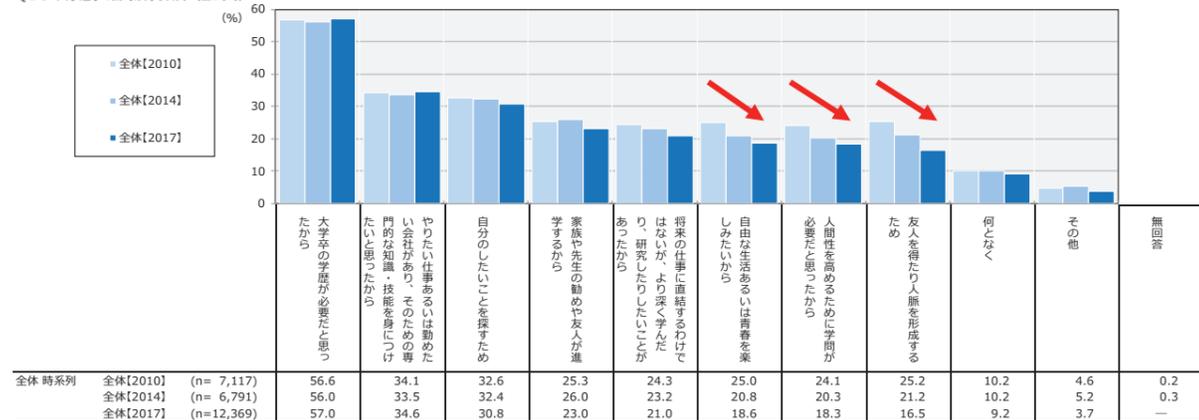
・スコアが**増加**傾向の項目：
 「就職に有利だと思ったから」 (所属大学の選択理由)
 「専門的知識・技術を習得すること」 (大学生活で大切なこと)
 「よい成績をとること」 (大学生活で大切なこと)

・スコアが**減少**傾向の項目：
 「自由な生活あるいは青春を楽しみたいから」 (大学進学のための目的)
 「人間性を高めるために学問が必要だと思ったから」 (大学進学のための目的)
 「友人を得たり人脈を形成するため」 (大学進学のための目的)
 「勉学のほかに学生生活をエンジョイできそうだったから」 (所属大学の選択理由)
 「よい友人・先輩を得ること」 (大学生活で大切なこと)
 「クラブ・サークル活動で活躍すること」 (大学生活で大切なこと)

・そうした学生の意識を反映してか、課外活動への参加は、「積極的に参加している」+「参加しているが熱心ではない」+「参加しているが活動していない」の合計で、前回(70.2%)から今回(63.0%)にかけて大きく低下している。
 ・一方で、就職につながるインターンシップへの参加率は増加傾向にある。特に「4年」は前回から参加率が倍増した。(「4年」の「すでに参加した」前回21.3%→今回45.2%)
 ・また、大学生活で「身につけたい力」について1年生の回答をみると、「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」「計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」「留学体験や留学生との交流等による異文化理解力」は前回から5ポイント以上低下しており、対人スキルに繋がるような能力は相対的に重視度が下がっていると言えよう。

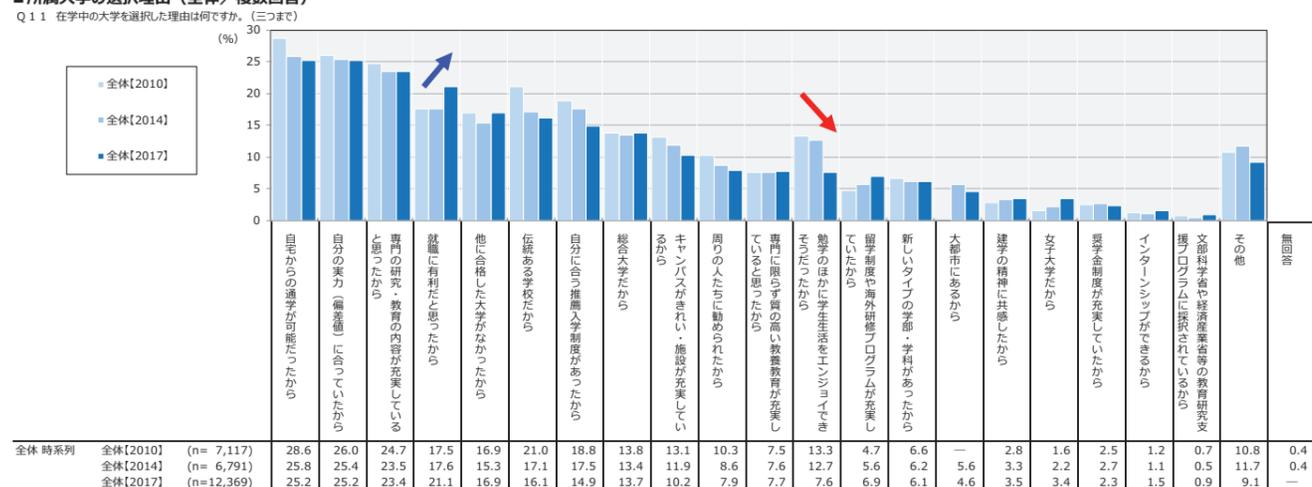
■大学進学目的 (全体/複数回答)

Q10 大学進学目的は何ですか。(三つまで)



■所属大学の選択理由 (全体/複数回答)

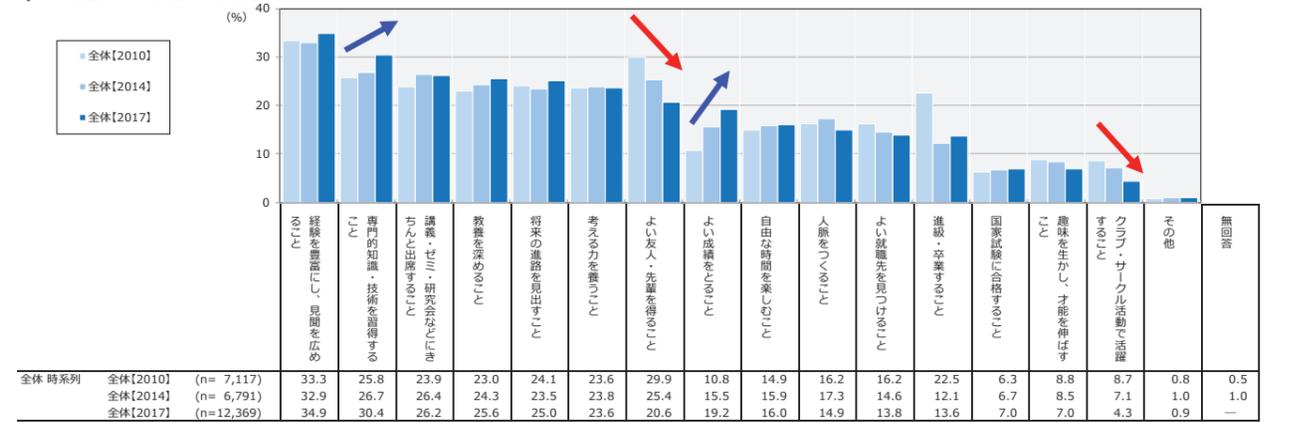
Q11 在学中の大学を選択した理由は何か。(三つまで)



※「全体【2017】」で降順ソート ※「建学の精神に共感したから」は2014年文言変更、2010年までは「建学の精神に共鳴したから」/2014年から「大都市にあるから」が追加

■大学生活で大切なこと (全体/複数回答)

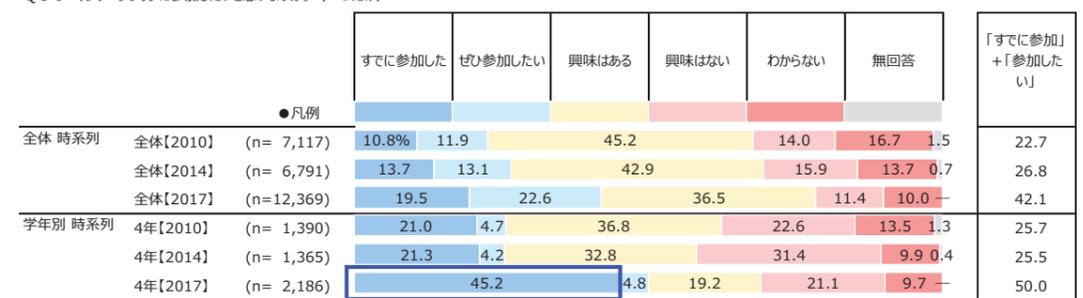
Q26 大学生活の中で大切なこと何ですか。(三つまで)



※「全体【2017】」で降順ソート

■インターンシップへの参加意向 (全体/単一回答)

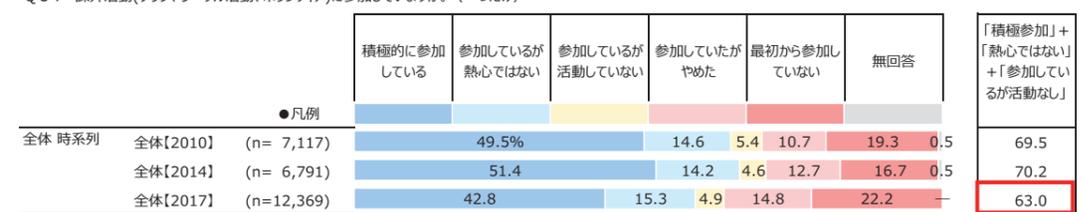
Q36 インターンシップに参加したいと思いますか。(一つだけ)



Q36.03

■課外活動への参加 (全体/単一回答)

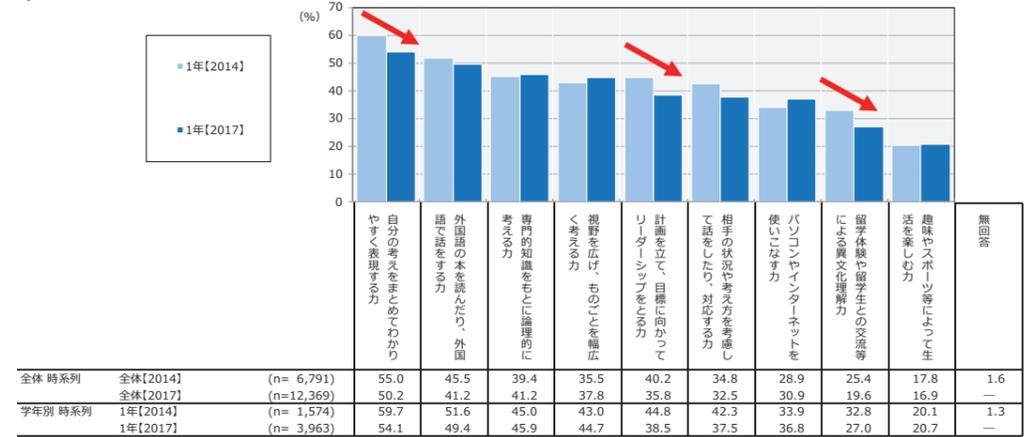
Q37 課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティア)に参加していますか。(一つだけ)



Q37.03

■身につけたい力 (全体/複数回答)

Q59 今後、大学生活で身につけたい力は何ですか。(すべて)



※「全体【2017】」で降順ソート

Q59.03

フォーカス：満足度の現状分析 ② [身についたと実感できる力] と充実度・満足度との関係

◆ 大学生生活で [身についたと実感できる力] があると回答した学生ほど、[大学生生活の充実度] も [[授業等、正課教育全体] 満足度] も高い。

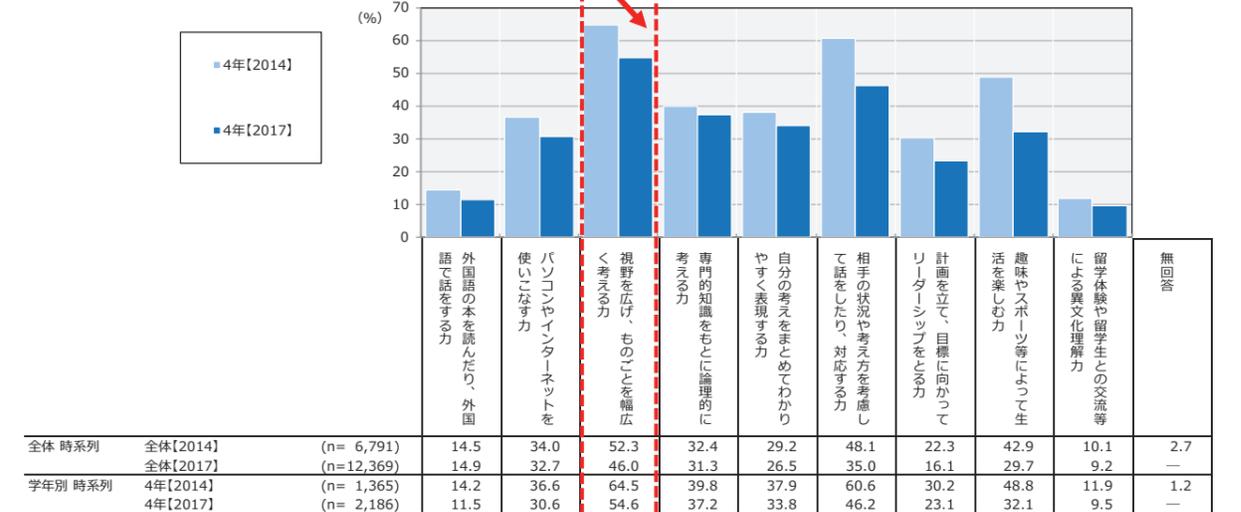
- 「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」が身についたかどうかは、[大学生生活の充実度] [[授業等、正課教育全体] 満足度] の両方に影響する。
- 大学生生活で [身についたと実感できる力] について、「身についた」と回答した学生と、しなかった学生とでは、[大学生生活の充実度] [[授業等、正課教育全体] 満足度] に差があり、「身についた」と回答した学生の方が [大学生生活の充実度] [[授業等、正課教育全体] 満足度] が高いものがほとんどである。
- [身についたと実感できる力] と [大学生生活の充実度]** : 「充実」+「まあ充実」のスコア差が10ポイント以上の項目
 「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」 (幅広く考える力習得)
 「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」 (プレゼンテーション能力涵養)
 「計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」 (リーダーシップ涵養)
- [身についたと実感できる力] と [[授業等、正課教育全体] 満足度]** : 「大変満足」+「満足」のスコア差が10ポイント以上の項目
 「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」 (外国語習得)
 「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」 (幅広く考える力習得)
 「専門的知識をもとに論理的に考える力」 (専門的知識習得)
- 3ページで、昨今の学生の“実利・現実志向”の高まりを指摘したが、そうした状況下でも、外国語、幅広く考える力、専門的知識や、プレゼンテーション能力、リーダーシップが「身についた」と実感できることが、満足・不満足に分けるポイントであることがわかる。
- しかし、大学生生活で [身についたと実感できる力] について「4年」の回答をみると、すべての項目で前年から低下している。[大学生生活の充実度] と [[授業等、正課教育全体] 満足度] 両方と関連性の高い「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」は前年から9.9ポイント低下。このような傾向が [大学生生活の充実度] と [[授業等、正課教育全体] 満足度] の低下にも繋がっていると考えられる。

■ 大学生生活の充実度 (全体/単一回答)

凡例	「充実」+「まあ充実」					「充実」+「まあ充実」	ONとOFFの差 (ポイント)
	充実している	まあ充実している	普通である	あまり充実していない	充実していない		
全体[2017]	30.8%	41.6	19.9	5.2	2.5	72.4	
Q58 外国語の本を読んだり、外国語で話をする力	ON (回答) (n=1847) 42.1	37.2	13.3	5.1	2.2	79.4	8.2
	OFF (回答) (n=10522) 28.9	42.3	21.1	5.2	2.6	71.2	
身についたと実感できる力	ON (回答) (n=4048) 30.3	42.6	19.9	5.0	2.2	72.9	0.7
	OFF (回答) (n=8321) 31.1	41.1	19.9	5.2	2.7	72.2	
視野を広げ、ものごとを幅広く考える力	ON (回答) (n=5687) 36.3	41.8	16.5	3.7	1.7	78.1	10.5
	OFF (回答) (n=6682) 26.2	41.4	22.8	6.4	3.2	67.6	
専門的知識をもとに論理的に考える力	ON (回答) (n=3866) 34.6	44.2	15.8	4.0	1.5	78.8	9.3
	OFF (回答) (n=8503) 29.1	40.4	21.8	5.7	3.0	69.5	
自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力	ON (回答) (n=3277) 40.1	41.2	13.6	3.1	1.9	81.4	12.2
	OFF (回答) (n=9092) 27.5	41.7	22.2	5.9	2.7	69.2	
相手の状況や考え方を考慮して話したり、対応する力	ON (回答) (n=4325) 36.2	41.8	16.3	4.2	1.6	77.9	8.5
	OFF (回答) (n=8044) 28.0	41.5	21.8	5.7	3.0	69.4	
計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力	ON (回答) (n=1996) 46.1	40.2	9.8	2.7	1.2	86.3	16.6
	OFF (回答) (n=10373) 27.9	41.8	21.8	5.6	2.8	69.7	
趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力	ON (回答) (n=3679) 37.0	41.9	15.6	3.5	1.9	79.0	9.4
	OFF (回答) (n=8690) 28.2	41.4	21.7	5.9	2.8	69.6	
留学体験や留学生との交流等による異文化理解力	ON (回答) (n=1139) 42.9	37.2	13.3	4.4	2.2	80.2	8.5
	OFF (回答) (n=11230) 29.6	42.0	20.6	5.2	2.6	71.6	

■ 身についたと実感できる力 (全体/複数回答)

Q58 大学生生活でこれまでに身についたと実感できる力はどのようなことですか。(すべて)



※「全体[2017]」で降順ソート

Q58.03

■ [授業等、正課教育全体] 満足度 (全体/単一回答)

凡例	「大変満足」+「満足」					「大変満足」+「満足」	ONとOFFの差 (ポイント)
	大変満足	満足	どちらともいえない	不満	大変不満		
全体[2017]	7.0%	44.6	38.8	7.2	2.4	51.6	
Q58 外国語の本を読んだり、外国語で話をする力	ON (回答) (n=1847) 12.9	48.2	30.6	6.2	2.0	61.2	11.3
	OFF (回答) (n=10522) 6.0	43.9	40.2	7.4	2.5	49.9	
身についたと実感できる力	ON (回答) (n=4048) 7.8	45.4	38.0	7.0	1.8	53.1	2.3
	OFF (回答) (n=8321) 6.7	44.2	39.2	7.3	2.7	50.8	
視野を広げ、ものごとを幅広く考える力	ON (回答) (n=5687) 7.8	50.1	33.8	6.4	1.8	57.9	11.6
	OFF (回答) (n=6682) 6.4	39.8	43.0	7.8	2.9	46.2	
専門的知識をもとに論理的に考える力	ON (回答) (n=3866) 8.6	50.1	32.5	7.2	1.6	58.7	10.3
	OFF (回答) (n=8503) 6.3	42.1	41.7	7.2	2.8	48.4	
自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力	ON (回答) (n=3277) 8.8	49.0	33.9	6.4	1.9	57.8	8.4
	OFF (回答) (n=9092) 6.4	42.9	40.6	7.5	2.6	49.4	
相手の状況や考え方を考慮して話したり、対応する力	ON (回答) (n=4325) 7.2	48.2	36.0	6.8	1.8	55.4	5.8
	OFF (回答) (n=8044) 6.9	42.6	40.3	7.4	2.7	49.6	
計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力	ON (回答) (n=1996) 10.0	47.2	33.3	7.1	2.4	57.2	6.7
	OFF (回答) (n=10373) 6.5	44.0	39.9	7.2	2.4	50.5	
趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力	ON (回答) (n=3679) 5.9	45.1	39.1	7.3	2.6	51.0	-0.8
	OFF (回答) (n=8690) 7.5	44.3	38.7	7.1	2.4	51.8	
留学体験や留学生との交流等による異文化理解力	ON (回答) (n=1139) 9.9	49.9	30.5	7.0	2.7	59.8	9.0
	OFF (回答) (n=11230) 6.7	44.0	39.6	7.2	2.4	50.8	

フォーカス：満足度の現状分析 ③正課教育満足度と学生生活充実度との組み合わせによる分析

- [[授業等、正課教育全体]満足度]と[学生生活の充実度]の回答の組み合わせから、下表のように学生を4つのグループに分類し、分析を行った。

■正課教育満足度・学生生活充実度の分類方法

Q14 学生生活の 充実度	○ 充実している まあ充実している	Q30-⑥ [授業等、正課教育全体]満足度			
		大変満足	満足	どちらともいえない	× 不満 大変不満
× 普通である あまり充実していない 充実していない	○	正課教育満足度○ 学生生活充実度○	正課教育満足度× 学生生活充実度○		
	×	正課教育満足度○ 学生生活充実度×	正課教育満足度× 学生生活充実度×		

◆ [[授業等、正課教育全体]満足度]と[学生生活の充実度]とでは、[学生生活の充実度]の方が、[所属学部・学科の満足度]への影響度が大きい。

- まず[所属学部・学科の満足度]をみると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層が最も高いが(「よかった」89.2%)、これに次ぐのは「正課教育満足度×学生生活充実度○」(66.2%)の層である。つまり、[[授業等、正課教育全体]満足度]と[学生生活の充実度]を比べると、[学生生活の充実度]の方が[所属学部・学科の満足度]に及ぼす影響力が強いことがわかる。
- 「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層に分類された学生は全体の43.2%で、4つの分類の中で最も高い。この層は課外活動やボランティアの参加率が高く、「自分のことを何でも話せる友人」が「いる」割合も高い。また「大学に入ってよかったと思う点」において「友人を得たこと」「知識や技術が身についたこと」が高く、「身についたと実感できる力」は全般に高い。
- 一方、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層は、課外活動やボランティアの参加率が低く、「自分のことを何でも話せる友人」が「いる」割合は比較的低い。「大学に入ってよかったと思う点」において「友人を得たこと」「知識や技術が身についたこと」は全体に比べて低く、「身についたと実感できる力」は全体的に低い。
- つまり、[[授業等、正課教育全体]満足度]と[学生生活の充実度]、両方も重視すべきではあるが、[所属学部・学科の満足度]向上のためにより効果的なのは[学生生活の充実度]の向上である、という示唆が得られる。

■正課教育満足度・生活充実度の分類 (全体/単一回答)

Q14 学生生活の充実度・Q30-⑥ [授業等、正課教育全体]満足度の回答組み合わせから作成

●凡例		正課教育満足度○ 学生生活充実度○	正課教育満足度○ 学生生活充実度×	正課教育満足度× 学生生活充実度○	正課教育満足度× 学生生活充実度×
		全体【2017】 (n=12,369)	43.2%	8.4	29.2
性別	(n=5,518)	38.7	9.2	30.2	21.9
	(n=6,851)	46.8	7.8	28.4	17.0

■所属学部・学科の満足度 (全体/単一回答)

Q12 所属する学部・学科に入学してよかったと思えますか。(一つだけ)

●凡例		よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
		全体【2017】 (n=12,369)	67.5%	4.6	27.9
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○ 学生生活充実度○ (n=5,343)	89.2	0.9	10.0	
	正課教育満足度○ 学生生活充実度× (n=1,038)	56.6	5.4	38.0	
	正課教育満足度× 学生生活充実度○ (n=3,614)	66.2	3.4	30.4	
	正課教育満足度× 学生生活充実度× (n=2,374)	25.4	14.4	60.2	

■課外活動への参加 (全体/単一回答)

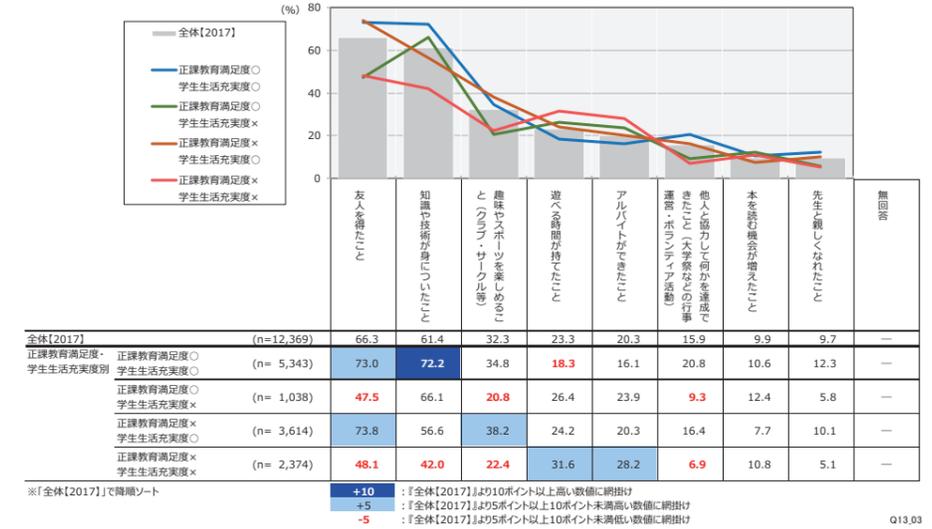
Q37 課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティア)に参加していますか。(一つだけ)

●凡例		積極的に参加している	参加しているが熱心ではない	参加しているが活動していない	参加していたがやめた	最初から参加していない	無回答	「積極参加」+ 「熱心ではない」+ 「参加しているが活動なし」
		全体【2017】 (n=12,369)	42.8%	15.3	4.9	14.8	22.2	
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○ 学生生活充実度○ (n=5,343)	50.2	14.2	4.3	12.6	18.7		68.7
	正課教育満足度○ 学生生活充実度× (n=1,038)	22.7	18.3	5.9	18.8	34.3		46.9
	正課教育満足度× 学生生活充実度○ (n=3,614)	49.2	14.4	4.7	14.3	17.4		68.3
	正課教育満足度× 学生生活充実度× (n=2,374)	25.2	17.7	6.1	18.8	32.2		49.0

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：**-5**

■大学に入ってよかったと思う点 (全体/複数回答)

Q13 大学に入ってよかったと思うのは、どのような点ですか。(三つまで)



■大学入学後のボランティア活動への参加有無 (全体/単一回答)

Q44 大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。(一つだけ)

●凡例		ある	ない	無回答
		全体【2017】 (n=12,369)	24.5%	75.5
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○ 学生生活充実度○ (n=5,343)	27.6	72.4	
	正課教育満足度○ 学生生活充実度× (n=1,038)	17.8	82.2	
	正課教育満足度× 学生生活充実度○ (n=3,614)	25.9	74.1	
	正課教育満足度× 学生生活充実度× (n=2,374)	18.3	81.7	

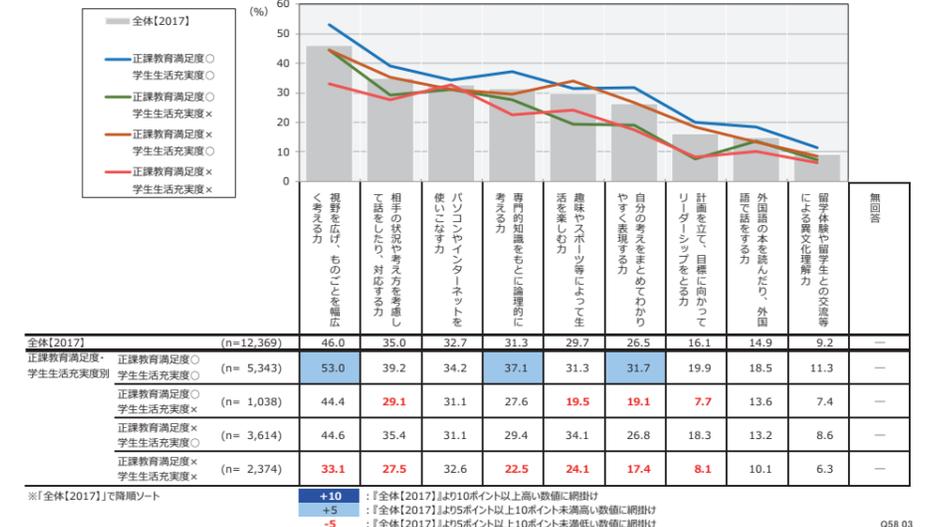
■自分のことを何でも話せる友人の有無 (全体/単一回答)

Q50 現在、自分のことを何でも話せる友人がいますか。(一つだけ)

●凡例		いる	いない	無回答
		全体【2017】 (n=12,369)	80.3%	19.7
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○ 学生生活充実度○ (n=5,343)	85.9	14.1	
	正課教育満足度○ 学生生活充実度× (n=1,038)	67.1	32.9	
	正課教育満足度× 学生生活充実度○ (n=3,614)	84.2	15.8	
	正課教育満足度× 学生生活充実度× (n=2,374)	67.6	32.4	

■身についたと実感できる力 (全体/複数回答)

Q58 大学生活でこれまでに身についたと実感できる力はどのような点ですか。(すべて)

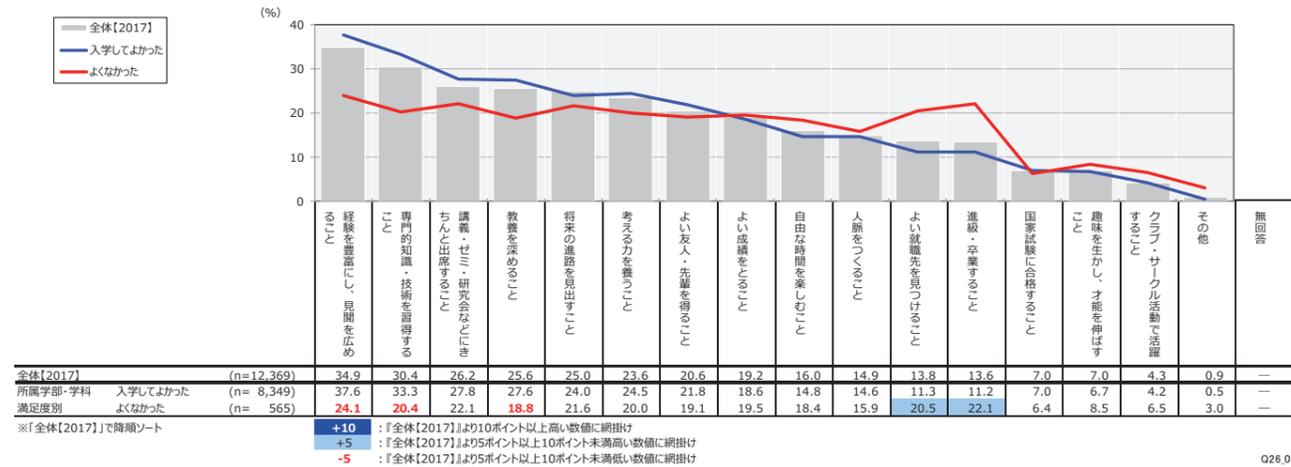


フォーカス：満足度の現状分析 ④ [所属学部・学科の満足度] が高い学生の特徴

- ◆ [所属学部・学科の満足度] の満足度が高い学生は、
 - ☆「専門的知識・技術を習得すること」のみならず、「経験を豊富にし、見聞を広めること」「教養を深めること」にも興味を持ち、
 - ☆インターンシップ・課外活動・ボランティアへの参加率が高く、
 - ☆何でも話せる友人が「いる」傾向がある。
- ・ [大学生活で大切なこと] では「入学してよかった」は「よくなかった」に比べて「経験を豊富にし、見聞を広めること」「専門的知識・技術を習得すること」「講義・ゼミ・研究会などにきちんと出席すること」「教養を深めること」などの項目が高い。一方、「よくなかった」は「よい就職先を見つけること」「進級・卒業すること」が比較的高い。
- ・ [インターンシップへの参加意向] では、「入学してよかった」の方が「よくなかった」に比べてインターンの参加率が高い。「よくなかった」は「興味はない」の割合が比較的高い。
- ・ [課外活動への参加] では「入学してよかった」は「積極的に参加している」が半数近くを占める。それに比べて「よくなかった」では「参加していたがやめた」「最初から参加していない」の割合が高い。
- ・ [課外活動に参加する目的] では「入学してよかった」は「よくなかった」に比べて「友人を得る」「学生生活を楽しむ」が高い。一方「よくなかった」では「居場所を確保する」が高いという特徴がある。
- ・ [大学入学後のボランティア活動への参加有無] では「入学してよかった」は「よくなかった」に比べて参加率が高い。
- ・ [大学入学後の留学経験] では「よくなかった」の方が「入学してよかった」よりもわずかながら留学経験率が高い。
- ・ [自分のことを何でも話せる友人の有無] では「入学してよかった」は「よくなかった」に比べて友人の「いる」割合が高い。

■ 大学生活で大切なこと (全体/複数回答)

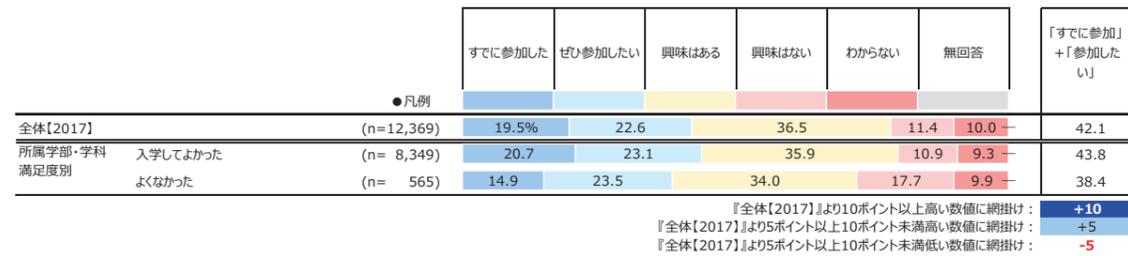
Q 2.6 大学生活の中で大切なことと思われることは何ですか。(三つまで)



Q26.03

■ インターンシップへの参加意向 (全体/単一回答)

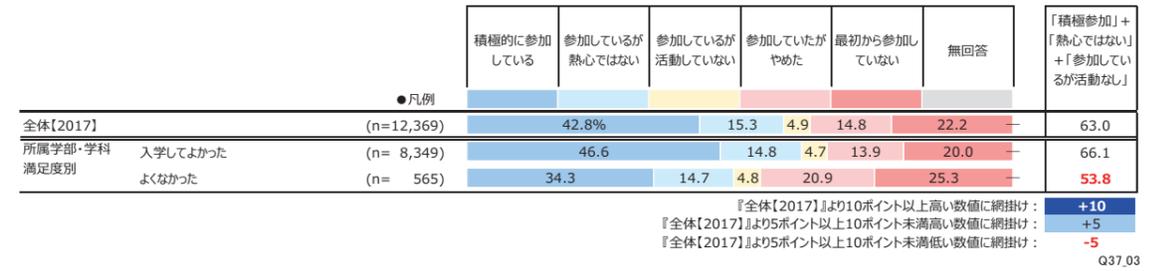
Q 3.6 インターンシップに参加したいと思いますか。(一つだけ)



Q36.03

■ 課外活動への参加 (全体/単一回答)

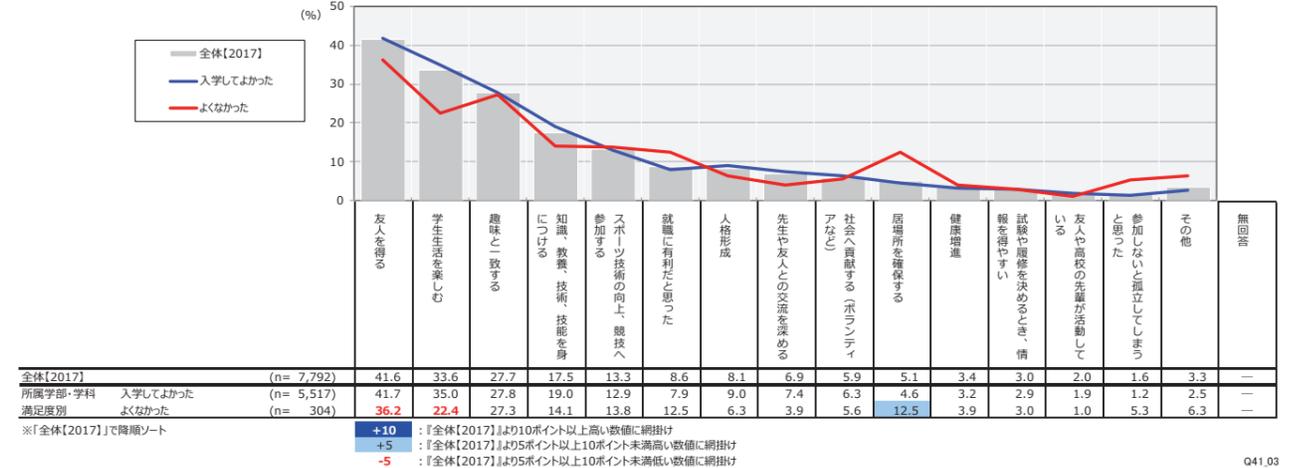
Q 3.7 課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティア)に参加していますか。(一つだけ)



Q37.03

■ 課外活動に参加する目的 (課外活動参加者/複数回答)

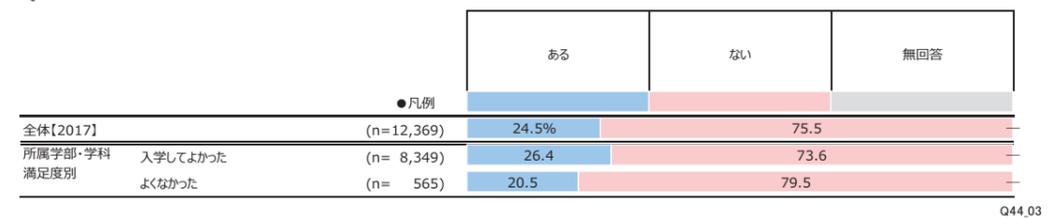
Q 4.1 課外活動に参加している理由、目的を選んでください。(二つまで)



Q41.03

■ 大学入学後のボランティア活動への参加有無 (全体/単一回答)

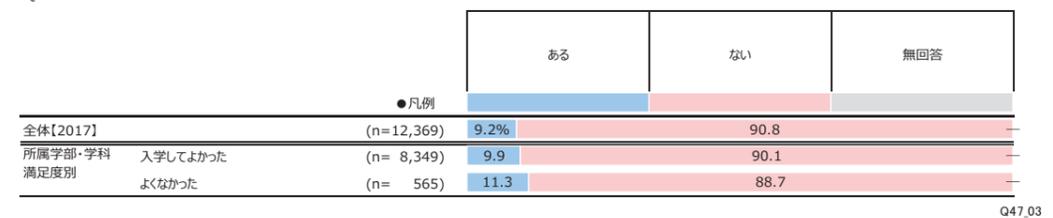
Q 4.4 大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。(一つだけ)



Q44.03

■ 大学入学後の留学経験 (全体/単一回答)

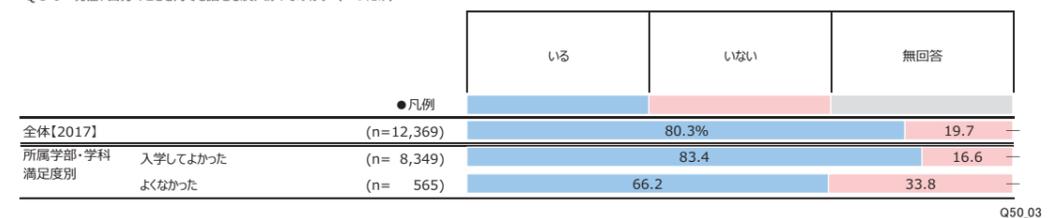
Q 4.7 大学入学後、留学をしたことがありますか。(一つだけ)



Q47.03

■ 自分のことを何でも話せる友人の有無 (全体/単一回答)

Q 5.0 現在、自分のことを何でも話せる友人がいますか。(一つだけ)



Q50.03

サマリー ①入試方法別の特徴

◆「AO・自己推薦入試」で入学した学生は【所属学部・学科の満足度】【学生生活の充実度】【授業等、正課教育全体】満足度 いずれも高水準。

- ・【所属学部・学科の満足度】の「よかった」、【学生生活の充実度】の「充実している」、【授業等、正課教育全体】満足度】の「大変満足」、いずれも割合が最も高いのは「AO・自己推薦入試」で入学した学生である。
 - ・「AO・自己推薦入試」で入学した学生は【大学進学目的】において「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」、【所属大学の選択理由】において「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」が高いことが特徴で、他の入試方法に比べて将来を見据えた上で大学で学べる研究・教育内容を重視する傾向がある。
 - ・「AO・自己推薦入試」で入学した学生は他の入試方法に比べてボランティア経験率が高いことも特徴である。
- ※入試方法別「その他」は「帰国子女入試」「社会人入試」「編入学・転入学」「留学生」「その他」と様々な方法が含まれているため、上記分析からは除外している。

■所属学部・学科の満足度（全体／単一回答）

Q12 所属する学部・学科に入学してよかったと思いますか。（一つだけ）

		よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
●凡例					
全体【2017】	(n=12,369)	67.5%	4.6	27.9	—
入試方法別					
一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	67.5	4.7	27.8	—
センター試験のみ	(n= 952)	60.0	7.4	32.7	—
AO・自己推薦入試	(n= 937)	69.2	4.5	26.4	—
推薦入試	(n= 4,555)	68.3	3.9	27.8	—
その他	(n= 427)	71.7	4.9	23.4	—

Q12.03

■学生生活の充実度（全体／単一回答）

Q14 あなたの学生生活は充実していますか。（一つだけ）

		充実している	まあ充実している	普通である	あまり充実していない	充実していない	無回答	「充実」+「まあ充実」
●凡例								
全体【2017】	(n=12,369)	30.8%	41.6	19.9	5.2	2.5	—	72.4
入試方法別								
一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	30.6	42.7	19.1	5.2	2.3	—	73.3
センター試験のみ	(n= 952)	27.4	42.2	20.6	6.8	2.9	—	69.6
AO・自己推薦入試	(n= 937)	32.6	40.4	19.5	4.8	2.7	—	73.0
推薦入試	(n= 4,555)	31.3	40.5	20.8	4.9	2.6	—	71.8
その他	(n= 427)	32.3	38.9	20.8	4.9	3.0	—	71.2

Q14.03

■【授業等、正課教育全体】満足度（全体／単一回答）

Q30 -⑥ 【授業等、正課教育全体】について、満足度を教えてください。（一つだけ）

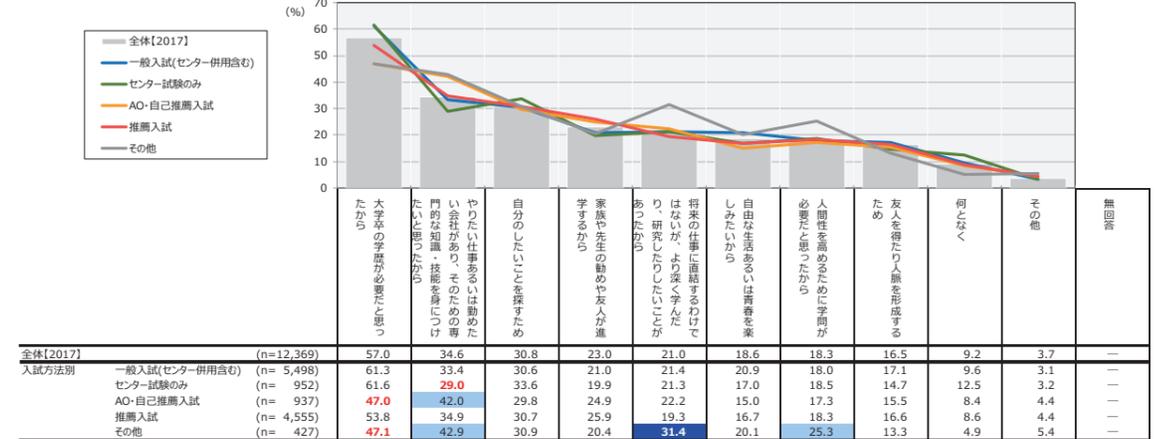
		大変満足	満足	どちらともいえない	不満	大変不満	無回答	「大変満足」+「満足」
●凡例								
全体【2017】	(n=12,369)	7.0%	44.6	38.8	7.2	2.4	—	51.6
入試方法別								
一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	5.9	45.3	38.5	7.9	2.5	—	51.2
センター試験のみ	(n= 952)	5.3	42.0	39.3	9.9	3.6	—	47.3
AO・自己推薦入試	(n= 937)	9.7	41.9	38.2	7.3	2.9	—	51.6
推薦入試	(n= 4,555)	8.0	44.5	39.4	6.0	2.1	—	52.5
その他	(n= 427)	9.1	46.8	37.0	4.9	2.1	—	55.9

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：**-5**

Q30.03

■大学進学目的（全体／複数回答）

Q10 大学進学目的は何ですか。（三つまで）

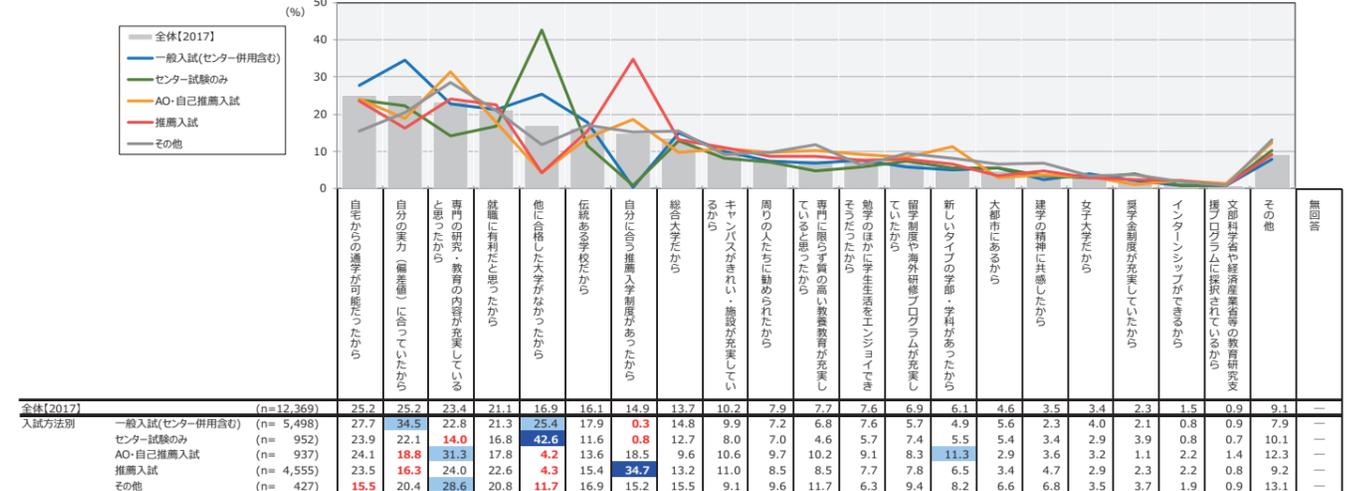


※「全体【2017】」で網掛け：**+10** : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q10.03

■所属大学の選択理由（全体／複数回答）

Q11 在学中の大学を選択した理由は何ですか。（三つまで）



※「全体【2017】」で網掛け：**+10** : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q11.03

■大学入学後のボランティア活動への参加の有無（全体／単一回答）

Q44 大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。（一つだけ）

		ある	ない	無回答
●凡例				
全体【2017】	(n=12,369)	24.5%	75.5	—
入試方法別				
一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	24.5	75.5	—
センター試験のみ	(n= 952)	24.6	75.4	—
AO・自己推薦入試	(n= 937)	31.4	68.6	—
推薦入試	(n= 4,555)	22.3	77.7	—
その他	(n= 427)	32.6	67.4	—

Q44.03

サマリー ② 学部系統別の特徴

- ◆「人文科学系」「看護・保健系」は、「所属学部・学科の満足度」「学生生活の充実度」「【授業等、正課教育全体】満足度」の水準が高い。
- ◆一方、「商・経済・経営系」と「医・歯・薬系」のスコアが全体的に低い。

- ・「所属学部・学科の満足度」「学生生活の充実度」「【授業等、正課教育全体】満足度」すべての水準が高いのは、「人文科学系」「看護・保健系」。
- ・一方で、すべての水準において低めなのが「商・経済・経営系」。「医・歯・薬系」は「所属学部・学科の満足度」は全体値並みだが、「学生生活の充実度」「【授業等、正課教育全体】満足度」の水準が低い。

- ・「看護・保健系」(85.6%)、「医・歯・薬系」(72.1%)は、大学進学目的において「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」が非常に高く、進学目的が明確である。また、「身についたと実感できる力」でも「専門的な知識をもとに論理的に考える力」が高く、目的達成の実感値が満足度・充実度に影響していると考えられる。
- ・「人文科学系」は、大学進学目的において「将来の仕事に直結するわけではないが、より深く学んだり、研究したりしたいことがあったから」が高いという特徴がある。

- ・「商・経済・経営系」は、大学進学目的のうち、「大学卒の学歴が必要だと思ったから」「自分のしたいことを探すため」が比較的高く、目的意識がやや不明確な学生が多い。
- ・「医・歯・薬系」は、専門的な知識・技能を目的に大学進学する学生が相対的に多いが、「他に合格した大学がなかったから」がやや高く、不本意入学の多さが「学生生活の充実度」や、「【授業等、正課教育全体】満足度」の低さに影響している可能性が高い。

■所属学部・学科の満足度 (全体/単一回答)

Q 1 2 所属する学部・学科に入学してよかったと思えますか。(一つだけ)

		よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
●凡例					
全体【2017】	(n=12,369)	67.5%	4.6	27.9	
学部系統別					
人文科学系	(n= 2,783)	72.3	3.8	23.9	
法律・政治・社会系	(n= 2,378)	67.9	5.0	27.1	
商・経済・経営系	(n= 2,346)	60.8	5.8	33.4	
理・工学	(n= 1,597)	64.6	5.4	30.1	
看護・保健系	(n= 278)	73.0	3.2	23.7	
医・歯・薬系	(n= 714)	68.6	3.8	27.6	

Q12.03

■学生生活の充実度 (全体/単一回答)

Q 1 4 あなたの学生生活は充実していますか。(一つだけ)

		充実している	まあ充実している	普通である	あまり充実していない	充実していない	無回答	「充実」+「まあ充実」
●凡例								
全体【2017】	(n=12,369)	30.8%	41.6	19.9	5.2	2.5		72.4
学部系統別								
人文科学系	(n= 2,783)	34.0	41.1	17.6	4.9	2.4		75.1
法律・政治・社会系	(n= 2,378)	30.8	42.7	18.6	5.3	2.6		73.5
商・経済・経営系	(n= 2,346)	28.4	38.5	23.4	6.2	3.5		66.9
理・工学	(n= 1,597)	28.7	41.9	21.2	5.5	2.7		70.6
看護・保健系	(n= 278)	32.7	41.7	20.1	4.3	1.1		74.4
医・歯・薬系	(n= 714)	27.3	41.5	23.7	5.5	2.1		68.8

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：**-5**

Q14.03

■【授業等、正課教育全体】満足度 (全体/単一回答)

Q 3 0 - ⑥ 【授業等、正課教育全体】について、満足度を教えてください。(一つだけ)

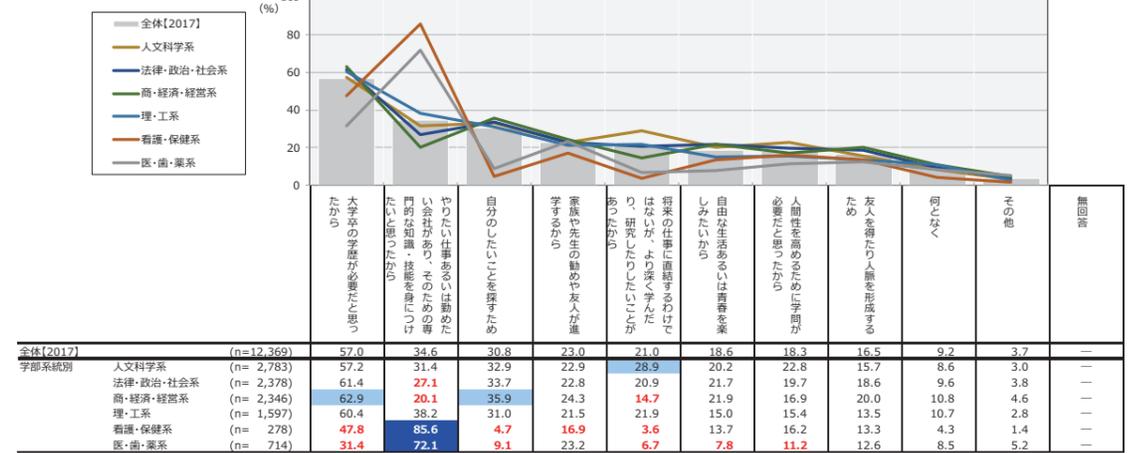
		大変満足	満足	どちらともいえない	不満	大変不満	無回答	「大変満足」+「満足」
●凡例								
全体【2017】	(n=12,369)	7.0%	44.6	38.8	7.2	2.4		51.6
学部系統別								
人文科学系	(n= 2,783)	7.4	50.7	34.0	6.1	1.9		58.1
法律・政治・社会系	(n= 2,378)	7.3	44.0	39.4	7.1	2.1		51.3
商・経済・経営系	(n= 2,346)	6.7	38.4	44.0	7.5	3.4		45.1
理・工学	(n= 1,597)	7.8	42.9	39.5	7.5	2.4		50.7
看護・保健系	(n= 278)	7.9	47.1	34.9	7.6	2.5		55.0
医・歯・薬系	(n= 714)	5.6	33.5	42.4	13.6	4.9		39.1

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：**-5**

Q30.6.03

■大学進学目的 (全体/複数回答)

Q 1 0 大学進学目的は何ですか。(三つまで)

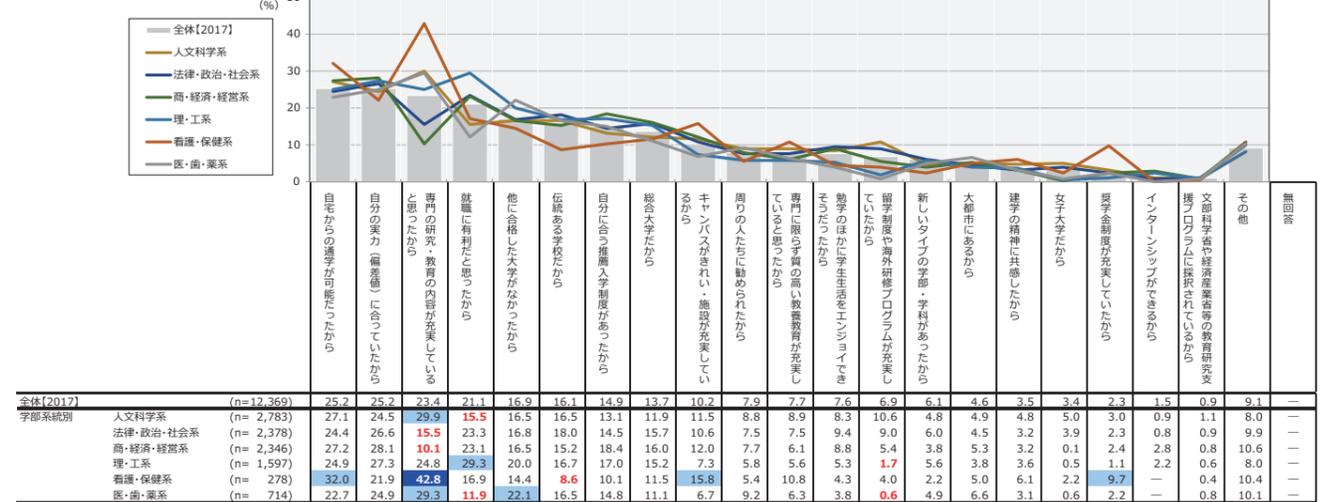


※「全体【2017】」で降順ソート
+10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q10.03

■所属大学の選択理由 (全体/複数回答)

Q 1 1 在学中の大学を選択した理由は何ですか。(三つまで)

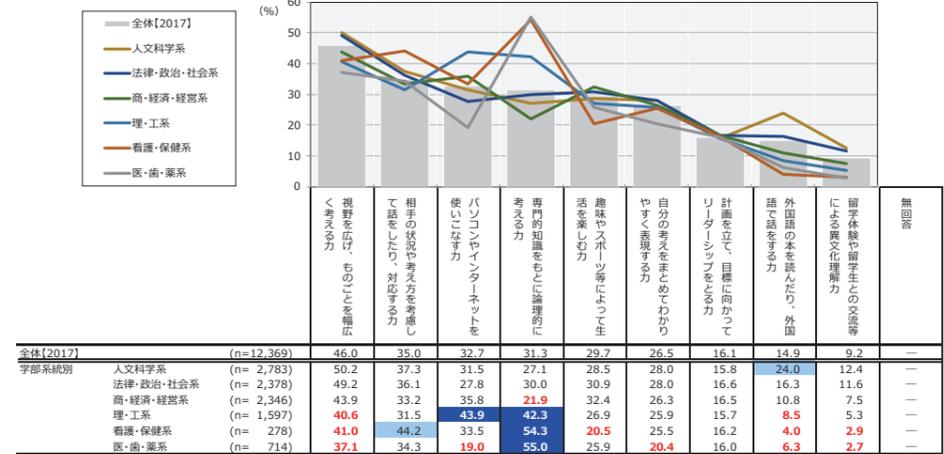


※「全体【2017】」で降順ソート
+10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q11.03

■身についたと実感できる力 (全体/複数回答)

Q 5 8 大学生活でこれまでに身についたと実感できる力は何ですか。(すべて)



※「全体【2017】」で降順ソート
+10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q58.03

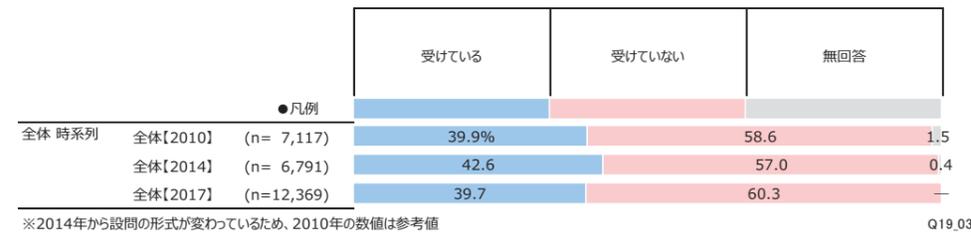
サマリー ③ 学生の経済状況と奨学金

- ◆ 奨学金受給率は前回から減少。
- ◆ 経済状況は余裕がある学生が増加したが、依然として学費の負担感を持つ学生が多数派である。

- ・ 奨学金受給率は前回（42.6%）から減少し、今回は39.7%。
- ・ 自分の経済状況について「余裕がある」または「やや余裕がある」と回答した学生は今回で30.1%と、前々回以降増加している。奨学金を受けていない理由のなかでも「受ける必要がなかった」（前回46.4%→今回51.3%）が増加し、学生の経済状況は改善傾向にあると言える。
- ・ しかし、学費が家計に対して「負担になっている」または「やや負担になっている」と回答した学生は合わせて79.6%を占め、負担感がなくなったわけではない。奨学金制度への要望では「返済の必要のない奨学金の充実」が59.7%を占めてトップであり、前回から増加している点には注意を要する。

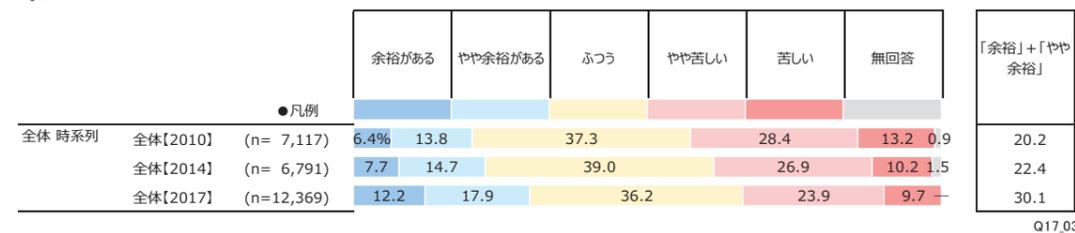
■ 奨学金受給率（全体／単一回答）

Q 1 9 奨学金を受けていますか。（一つだけ）



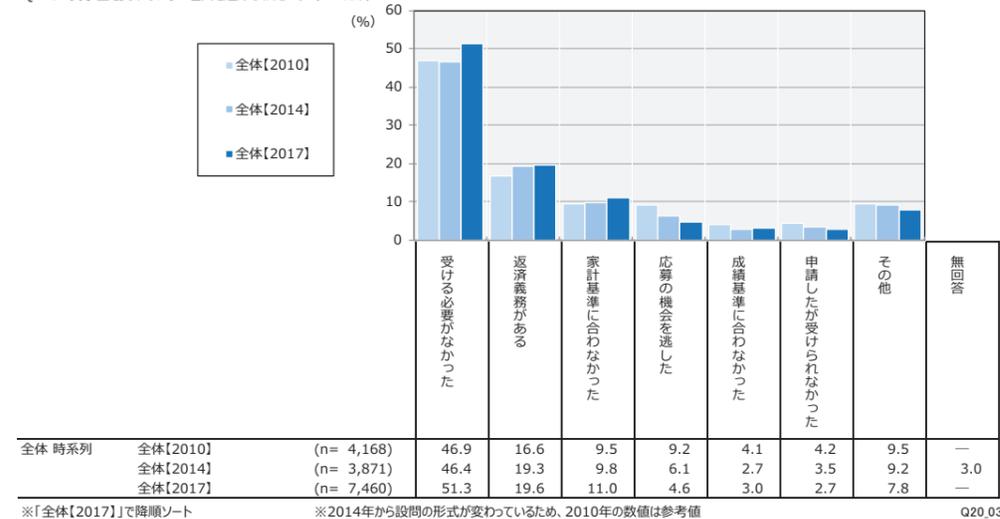
■ 経済状況（全体／単一回答）

Q 1 7 あなたは自分の経済状況についてどのように感じていますか。（一つだけ）



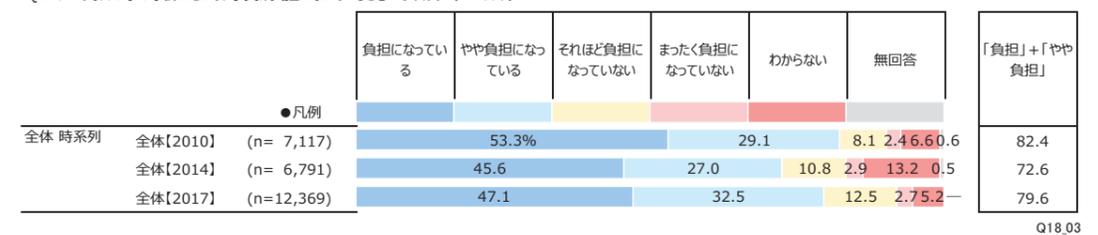
■ 奨学金を受けていない理由（奨学金非受給者／単一回答）

Q 2 0 奨学金を受けていない理由を選んでください。（一つだけ）



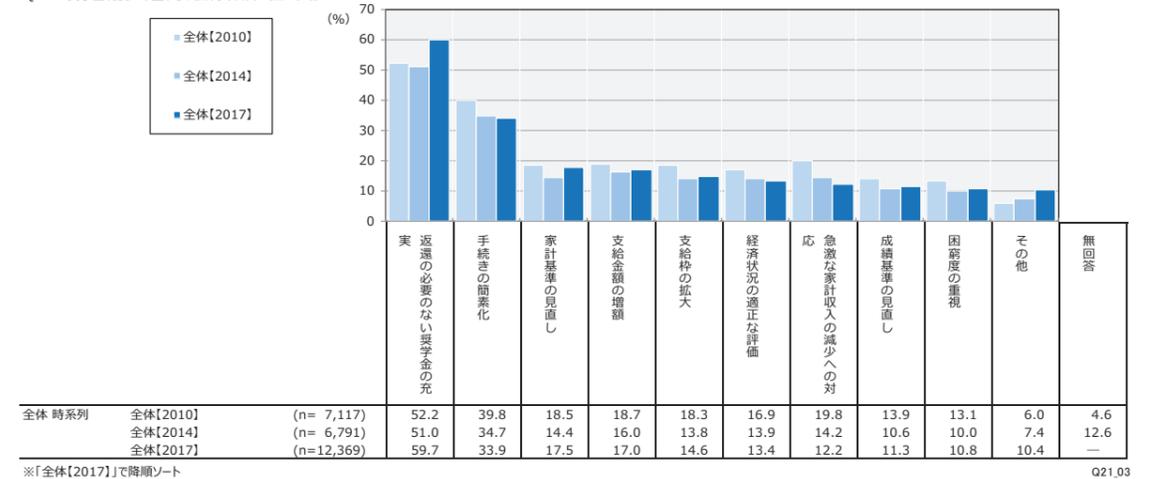
■ 学費の負担感（全体／単一回答）

Q 1 8 あなたの家の家計にとって、学費は負担になっていると思いますか。（一つだけ）



■ 奨学金制度への要望（全体／複数回答）

Q 2 1 奨学金制度に希望することは何ですか。（三つまで）



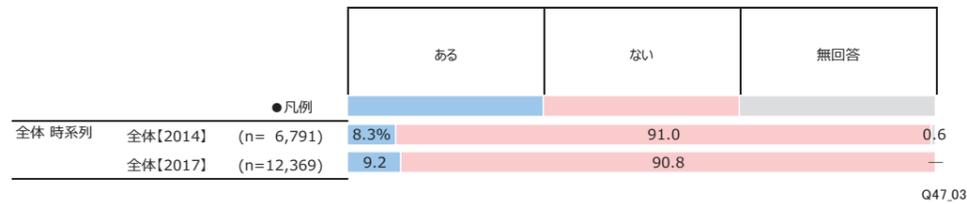
サマリー ④ 留学について

- ◆ 留学経験者は増加傾向。所属大学の選択理由としてもスコアが伸びている。
- ◆ 留学経験者は【所属学部・学科の満足度】の水準が高く、【身についたと実感できる力】も全体的に高めである。

- ・ 留学経験者は9.2%で、前回（8.3%）からわずかではあるが増加した。
- ・ 留学未経験者のうち、33.2%は「留学したい・する予定がある」と回答。前回（32.5%）と同程度の水準である。
- ・ 所属大学の選択理由は多くの項目でスコアが減少傾向にあるが、そうした中で「留学制度や海外研修プログラムが充実していたから」は、絶対値としては低いスコアながらも、前々回以降増加しており（前々回4.7%→今回6.9%）、大学選びをする段階で留学を視野に入れている学生が増加していると推測できる。
- ・ 【所属学部・学科の満足度】【学生生活の充実度】【授業等、正課教育全体】満足度のいずれも、留学未経験者に比べて留学経験者の水準が高い。
- ・ また、【身についたと実感できる力】では、留学未経験者に比べて留学経験者の方が「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」「留学体験や留学生との交流等による異文化理解力」が高いことはもちろんのこと、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」も相対的に高くなっている。

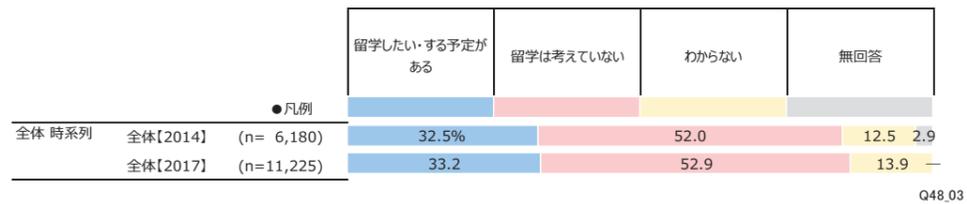
■ 大学入学後の留学経験（全体／単一回答）

Q 4 7 大学入学後、留学をしたことがありますか。（一つだけ）



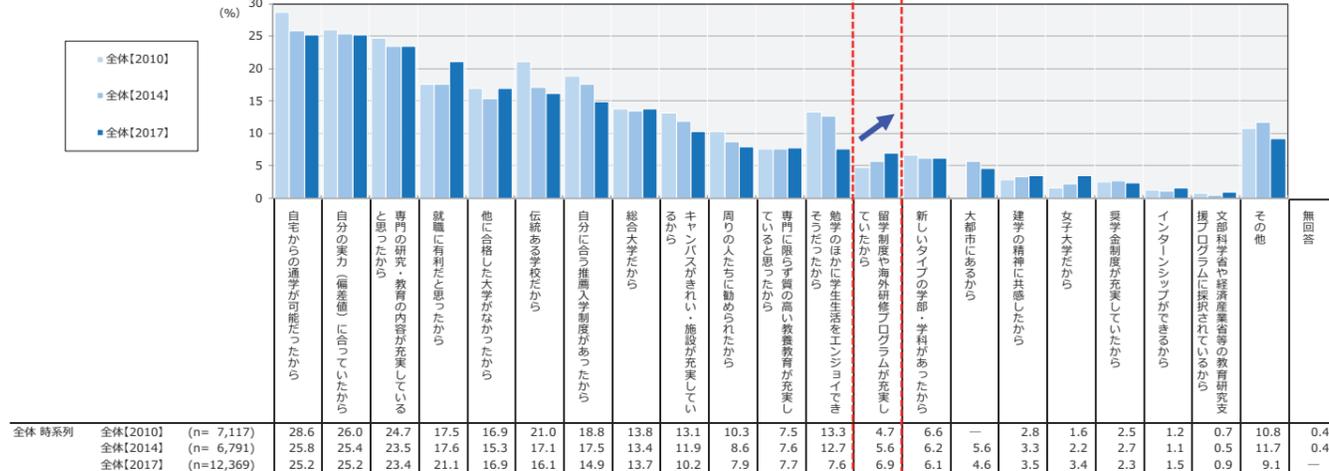
■ 留学意向（留学未経験者／単一回答）

Q 4 8 今後留学してみたいと思いますか。（一つだけ）



■ 所属大学の選択理由（全体／複数回答）

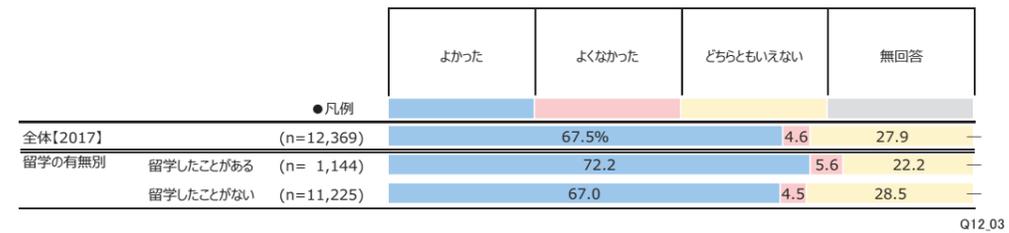
Q 1 1 在学中の大学を選択した理由は何ですか。（三つまで）



Q11.03

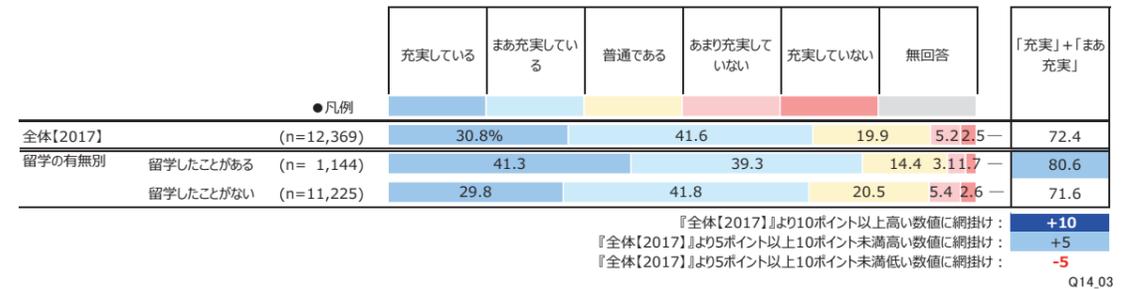
■ 所属学部・学科の満足度（全体／単一回答）

Q 1 2 所属する学部・学科に入学してよかったと思いますか。（一つだけ）



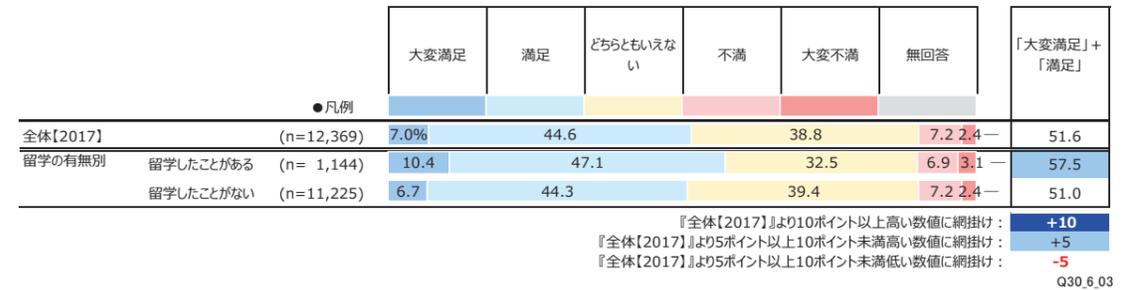
■ 学生生活の充実度（全体／単一回答）

Q 1 4 あなたの学生生活は充実していますか。（一つだけ）



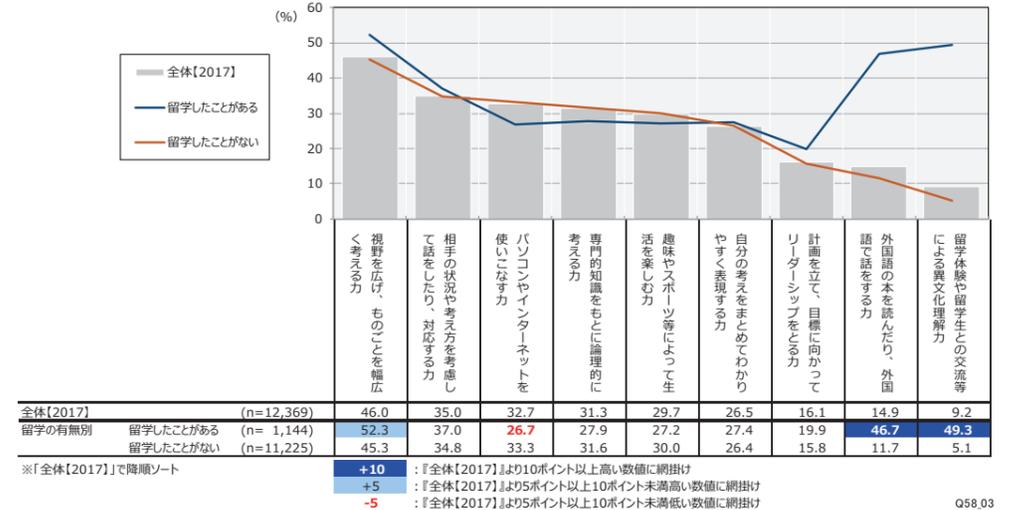
■ 【授業等、正課教育全体】満足度（全体／単一回答）

Q 3 0 - ⑥ 【授業等、正課教育全体】について、満足度を教えてください。（一つだけ）



■ 身についたと実感できる力（全体／複数回答）

Q 5 8 大学生活でこれまでに身についたと実感できる力はどのようなことですか。（すべて）



サマリー ⑤ インターンシップの参加意向と「身についたと実感できる力」

- ◆ インターンシップ参加者・参加意向者・興味者は全般に「身についたと実感できる力」が高い傾向。
- ◆ 特に「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力」は「すでに参加した」層で高い。
 - ・ 学年別における「4年」とインターンシップへの参加意向別に「身についたと実感できる力」の傾向をみると、「すでに参加した」「ぜひ参加したい」「興味はある」層で全体的にスコアが高い。
 - ・ 特に「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力」は「すでに参加した」層で高い。
 - ・ 一部の項目では「すでに参加した」層よりも「ぜひ参加したい」層の方が高く、「パソコンやインターネットを使いこなす力」「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」「留学体験や留学生との交流等による異文化理解力」がそれにあたる。しかし、「4年」の「ぜひ参加したい」は4.8%と少なく、本調査を実施した時期（9月～10月）を考慮すると、参加意向があればすでに参加していると考えられる。
 - ・ 「専門的知識をもとに論理的に考える力」「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」については、インターンシップの参加意向による差が比較的小さい。

■ インターンシップへの参加意向（全体／単一回答）

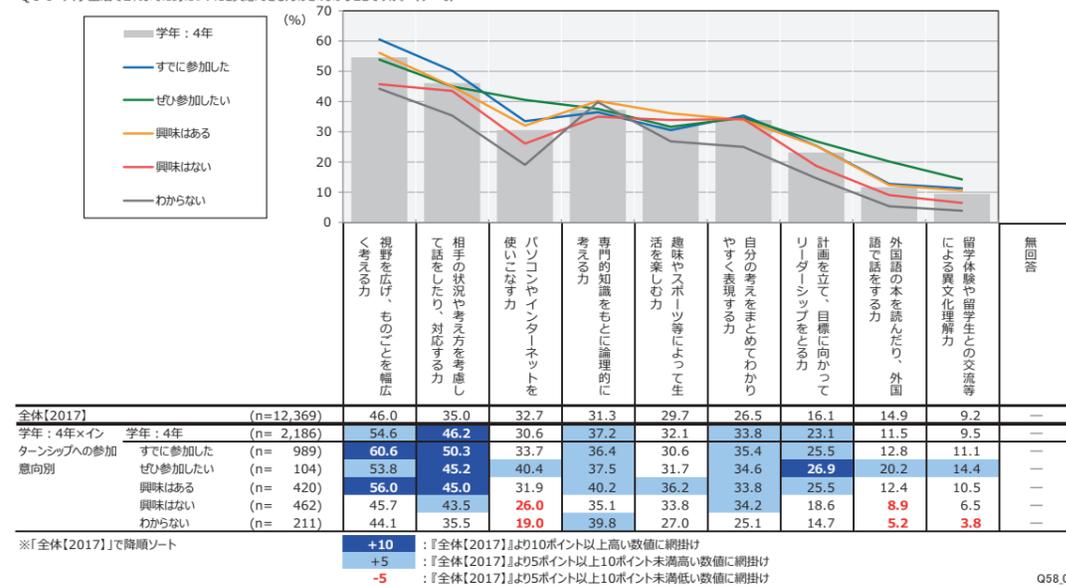
Q 3 6 インターンシップに参加したいと思いますか。（一つだけ）

		すでに参加した	ぜひ参加したい	興味はある	興味はない	わからない	無回答	「すでに参加」+「参加したい」
●凡例								
全体【2017】	(n=12,369)	19.5	22.6	36.5	11.4	10.0		42.1
学年別								
1年	(n= 3,963)	2.4	29.6	44.9	8.7	14.3		32.0
2年	(n= 2,980)	7.0	32.9	43.5	8.8	7.7		39.9
3年	(n= 2,918)	35.0	17.6	31.9	9.8	5.8		52.6
4年	(n= 2,186)	45.2	4.8	19.2	21.1	9.7		50.0
								『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け： +10
								『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け： +5
								『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け： -5

Q36.03

■ 身についたと実感できる力（全体／複数回答）

Q 5 8 大学生活でこれまでに身についたと実感できる力はどうなっていますか。（すべて）



Q58.04

調査概要

◆ 調査の目的

- 「第15回学生生活実態調査」(以下、本調査)は、本連盟加盟大学に在籍する学部学生の生活状況等を調査し、学生の生活実態を把握するとともに、時代の変化に応じた比較分析を行い、加盟大学並びに連盟の諸活動を検討する際の基礎的資料とすることを目的として実施した。

◆ 調査の対象

- 本調査の対象学部は、平成28年度に設置されている学部(平成29年度新設学部は除く)とし、現在、同設置学部(留學生を含む)を調査の対象とした。加盟大学への調査依頼数は、同設置学部の学部学生数(平成28年5月1日現在)の約5%の学生数を算出した(5%の学生数が20人以下の学部は、一定サンプル数を確保するため20人とした)。

◆ 調査方法

- 集計結果の客観性を高めるために、調査対象者(学部学生)の抽出には学年、性別等を配慮し、学部ごとにできる限り厳密な無作為抽出を依頼した。また、その他の方法によって(無作為抽出に依らない)調査対象者の抽出をされた場合には、その旨を実施結果報告書に明記願った。
- なお、各加盟大学へ回答用URLおよびQRコードが記載された「調査協力依頼文書」のデータを配付すると共に、調査対象者への依頼方法として次の3つを提示し、いずれかの方法で調査してもらうよう依頼した。
 - 印刷した「調査協力依頼文書」を無作為抽出した対象学生にのみ郵送または手渡し。
 - 学生向けのメール一括送信システムを利用し、無作為抽出した対象学生にのみ回答用URLおよびQRコードを送信。
 - 学内情報を掲載する学生向けポータルサイトを利用し、無作為抽出した対象学生にのみ回答用URLおよびQRコードを通知。

◆ 調査の基本設計・調査項目

1) 調査の基本設計について

本調査の基本設計にあたっては次の点に留意した。

- 調査の継続性を重視し、客観的で数値化できる内容設定によって経年変化の比較分析を可能とする。
- 年々さまざまな変化をみせる学生生活の実態をより具体的に、また、よりの確に把握できるようにする。
- 学生生活が営まれている大学の諸改革や社会の動きとの関連にも意を注ぎ、新しい環境の変化と学生生活との関連についても分析を試みる。

2) 調査項目について

調査項目は、これまでに実施された調査において採用された調査項目を検討し、それらをⅠ基本事項、Ⅱ大学等の選択理由、入学後の満足度、大学への期待・要望、Ⅲ経済、Ⅳライフ(大学生生活)、Ⅴ正課教育、Ⅵ正課外活動、Ⅶ留学、Ⅷ不安・悩み、Ⅷ進路の9分野の質問群として質問項目を設定した。

◆ 調査の実施時期

- 調査実施期間：平成29(2017)年9月上旬～10月下旬(9月1日付調査依頼)

◆ 回答回収結果

- 調査対象大学数 **122大学**
- 回答提出大学数 **121大学**
- 調査依頼数 **49,096人**
- 有効回答数 **12,369人**
- 回収率((4) / (3)) **25.2%**

■ 専攻分野学部系統分類

専攻分野	学部名			
人文科学系	異文化コミュニケーション学部	国際英語学部	神学部	仏教学部
	グローバル教養学部	国際教養学部	神道文化学部	文化学部
	グローバル地域文化学部	国際人文学部	人間科学部	文化構想学部
	外国語学部	国際文化学部	人間学部	文学部
	教育学部	心理こども学部	人文学部	文芸学部
	現代心理学部	心理学部	表象文化学部	
法律・政治・社会系	アジア太平洋学部	公益学部	社会イノベーション学部	政策学部
	環境情報学部	国際学部	社会科学部	政治経済学部
	観光学部	国際観光学部	社会学部	総合政策学部
	グローバルビジネス学部	国際関係学部	社会情報学部	地域政策学部
	経済経営学部	国際社会学部	社会福祉学部	福祉総合学部
	現代社会学部	国際政治経済学部	人間健康福祉学部	法学部
商・経済・経営系	現代日本社会学部	コミュニケーション学部	人間社会学部	
	現代福祉学部	コミュニティ福祉学部	人間福祉学部	
	現代法学部	産業社会学部	政経学部	
	経営学部	現代経営学部	商学部	マネジメント創造学部
理・工系	経営情報学部	国際経営学部	情報学部	流通学部
	経済科学部	サービス経営学部	ネットワーク情報学部	流通情報学部
	経済学部	サービス産業学部[募停]	マネジメント学部	
	化学生命工学部	情報科学部	生命科学部	農学部
	環境都市工学部	情報通信学部	創造理工学部	理学部
	基盤工学部	情報理工学部	総合情報学部	理工学部
看護・保健系	工学部	生産工学部	総合生命科学部	
	システム理工学部	生物学部	デザイン工学部	
医・歯・薬系	医療看護学部	医療保健学部	看護学部	保健看護学部
	医療健康科学部	看護医療学部	看護保健学部	リハビリテーション学部
	医学部	歯学部	薬学部	

※加盟大学の学部設置の状況に鑑み、今回調査が「看護・保健系」を設けることとした。なお、専攻分野別集計においては、上記分類表に掲載した学部以外に所属する学生の回答結果は反映されていない。

調査概要：ウェイトバック集計 実施の検討について

◆ 時系列での分析にあたり、今回調査の男女・学年の構成比が前回までの調査と異なっていたため、ウェイトバック集計による補正を検討したが、結果的に補正前後で大きな数値(%)の変化が見られなかったため、ウェイトバック集計をしないデータにて分析を行った。

- 前回までの調査に比べ、今回調査は性別と学年の構成比は以下のような特徴がある。
 - 性別：今回調査は女性(55.4%)の割合が高い。(前回では女性48.1%)
 - 学年：今回調査は1年目(32.0%)の割合が高く、その分2年目・3年目・4年目の割合が低い。

- これを補正するために、性別×学年の10分類に対してウェイトバック集計をしたのが下表の「WB後」の数値である。(今回調査を前回調査の構成比に合わせる補正を行っている。)
- 代表的な設問として、2問の結果を掲載している。全体の値の変化は以下のとおり。
 - Q14_学生生活の充実度「充実している」の割合「WB前 30.8%」→「WB後 30.6%」
 - Q30-⑥【授業等、正課教育全体】満足度「大変満足」の割合「WB前 7.0%」→「WB後 7.0%」

- 結果的にはあるが、ウェイトバックの前後で全体値に大きな変化が見られなかったため、本報告書ではウェイトバック集計は用いず、フラットな集計のまま分析を行っている。

■ 性別(全体/単一回答)

Q4 性別はどちらですか。(一つだけ)

	凡例	男性	女性	無回答
全体時系列	全体[2010] (n=7,117)	51.8%	47.6	0.6
	全体[2014] (n=6,791)	51.8	48.1	0.1
	全体[2017] (n=12,369)	44.6	55.4	-

■ 入学してからの年数(学年)(全体/単一回答)

Q6 入学してから何年目ですか。(一つだけ)



■ WB値の設定について

2014年調査の「性別×学年」の構成比に合わせて2017年調査を補正

	2014年調査	2017年調査					
		WB前		WB後			
	構成比 (無回答除く)	構成比	N数	WB値	補正後の 見かけのN数	構成比 (2014年同)	
男性	1年目	11.4%	14.1%	1741	0.8070	1405	11.4%
	2年目	13.7%	10.4%	1284	1.3216	1697	13.7%
	3年目	14.5%	10.7%	1325	1.3509	1790	14.5%
	4年目	10.9%	8.1%	1001	1.3452	1347	10.9%
	5年以上	1.4%	1.4%	167	1.0489	175	1.4%
女性	1年目	11.9%	18.0%	2222	0.6602	1467	11.9%
	2年目	13.3%	13.7%	1696	0.9672	1640	13.3%
	3年目	12.9%	12.9%	1593	1.0045	1600	12.9%
	4年目	9.2%	9.6%	1185	0.9654	1144	9.2%
	5年以上	0.8%	1.3%	155	0.6710	104	0.8%
合計	100.0%	100.0%	12369		12369	100.0%	

■ WB前後のN数、全体値(合計)のスコア変化

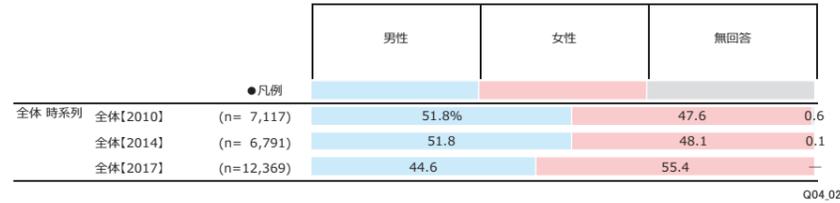
	Q14_学生生活の充実度：「充実している」の割合			
	WB前		WB後	
	「充実している」回答者(N数)	WB値	見かけのN数	「充実している」回答者の見かけのN数
男性	1年目	(n=1741) 453	0.8070	(n=1405) 366
	2年目	(n=1284) 338	1.3216	(n=1697) 447
	3年目	(n=1325) 368	1.3509	(n=1790) 497
	4年目	(n=1001) 339	1.3452	(n=1347) 456
	5年以上	(n=167) 56	1.0489	(n=175) 59
女性	1年目	(n=2222) 738	0.6602	(n=1467) 487
	2年目	(n=1696) 513	0.9672	(n=1640) 496
	3年目	(n=1593) 489	1.0045	(n=1600) 491
	4年目	(n=1185) 477	0.9654	(n=1144) 461
	5年以上	(n=155) 43	0.6710	(n=104) 29
合計	N数 (n=12369) 3814		(n=12369) 3788	
%		30.8%		30.6%

	Q30-⑥【授業等、正課教育全体】満足度：「大変満足」の割合			
	WB前		WB後	
	「大変満足」回答者(N数)	WB値	見かけのN数	「大変満足」回答者の見かけのN数
男性	1年目	(n=1741) 143	0.8070	(n=1405) 115
	2年目	(n=1284) 83	1.3216	(n=1697) 110
	3年目	(n=1325) 112	1.3509	(n=1790) 151
	4年目	(n=1001) 88	1.3452	(n=1347) 118
	5年以上	(n=167) 15	1.0489	(n=175) 16
女性	1年目	(n=2222) 176	0.6602	(n=1467) 116
	2年目	(n=1696) 76	0.9672	(n=1640) 74
	3年目	(n=1593) 78	1.0045	(n=1600) 78
	4年目	(n=1185) 83	0.9654	(n=1144) 80
	5年以上	(n=155) 15	0.6710	(n=104) 10
合計	N数 (n=12369) 869		(n=12369) 869	
%		7.0%		7.0%

基本事項（プロフィール）

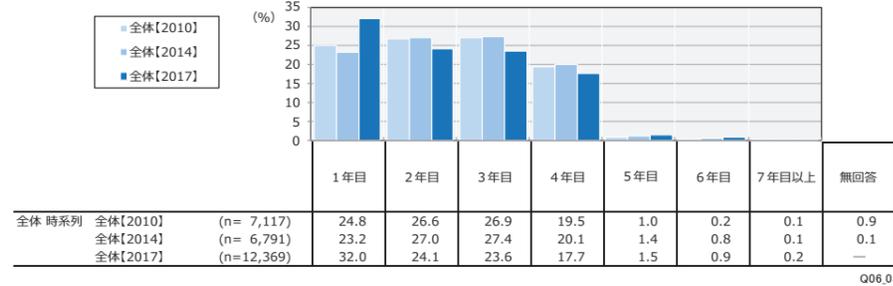
■性別（全体／単一回答）

Q 4 性別はどちらですか。（一つだけ）



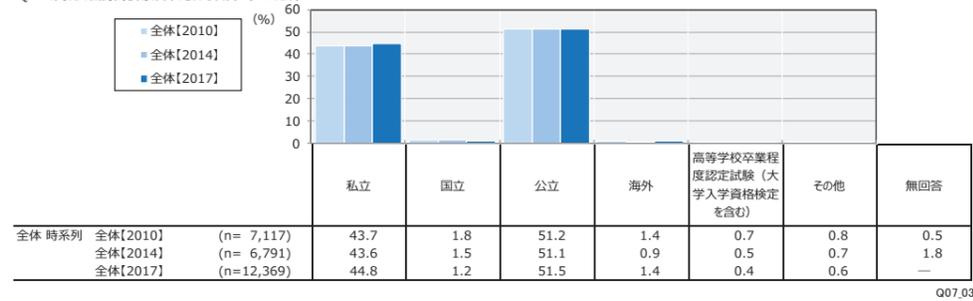
■入学してからの年数（学年）（全体／単一回答）

Q 6 入学してから何年目ですか。（一つだけ）



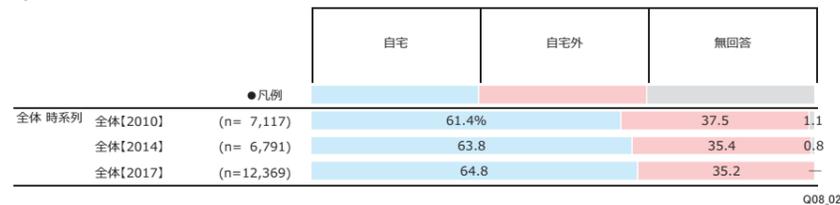
■出身高校（全体／単一回答）

Q 7 あなたの出身高校等は次のどれですか。（一つだけ）



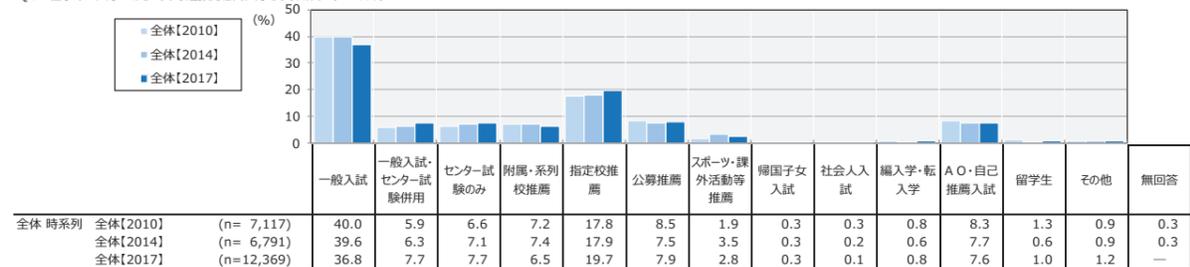
■現在の住まい（全体／単一回答）

Q 8 あなたの現在の住まいはどちらですか。（一つだけ）



■選抜方法（全体／単一回答）

Q 9 在学中の大学へはどのような選抜方法で入学しましたか。（一つだけ）



1章：進学目的・理由／充実度／期待

● 大学進学目的

「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が3回連続で過半数を超え、1位。

「自分のしたいことを探すため」「将来の仕事に直結するわけではないが、より深く学んだり、研究したりしたいことがあったから」「自由な生活あるいは青春を楽しみたいから」「人間性を高めるために学問が必要だと思ったから」「友人を得たり人脈を形成するため」等は、軒並み減少。

● 所属大学の選択理由

「自宅からの通学が可能だったから」「自分の実力（偏差値）に合っていたから」「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」が上位。ただしスコアは減少傾向にある。

「就職に有利だと思ったから」が、前回より大幅に増加。また、「留学制度や海外研修プログラムが充実していたから」も漸増。

● 所属学部・学科の満足度

前回まで増加傾向だったが、今回で減少に転じた。

● 大学に入ってよかったと思う点

「友人を得たこと」は3回連続1位だが、スコアは減少傾向にある。

● 学生生活の充実度

学生生活が「充実している」と回答した学生の割合は前回から減少。

● 大学の施設・サービスへの要望

学生の半数が「学生食堂を充実してほしい」と要望。

コメント

【所属学部・学科の満足度】と【学生生活の充実度】は前回までは増加傾向だったものが、今回でいずれも減少に転じている。

【大学進学目的】では「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が過半数を超えて1位。【所属大学の選択理由】において、「就職に有利だと思ったから」は前回から大幅に増加した一方、「勉学のほかに学生生活をエンジョイできそうだったから」は前回から大きく減少。大学選択の段階から就職を重視し、学生生活の楽しさの優先度は下がっていることがうかがえる。

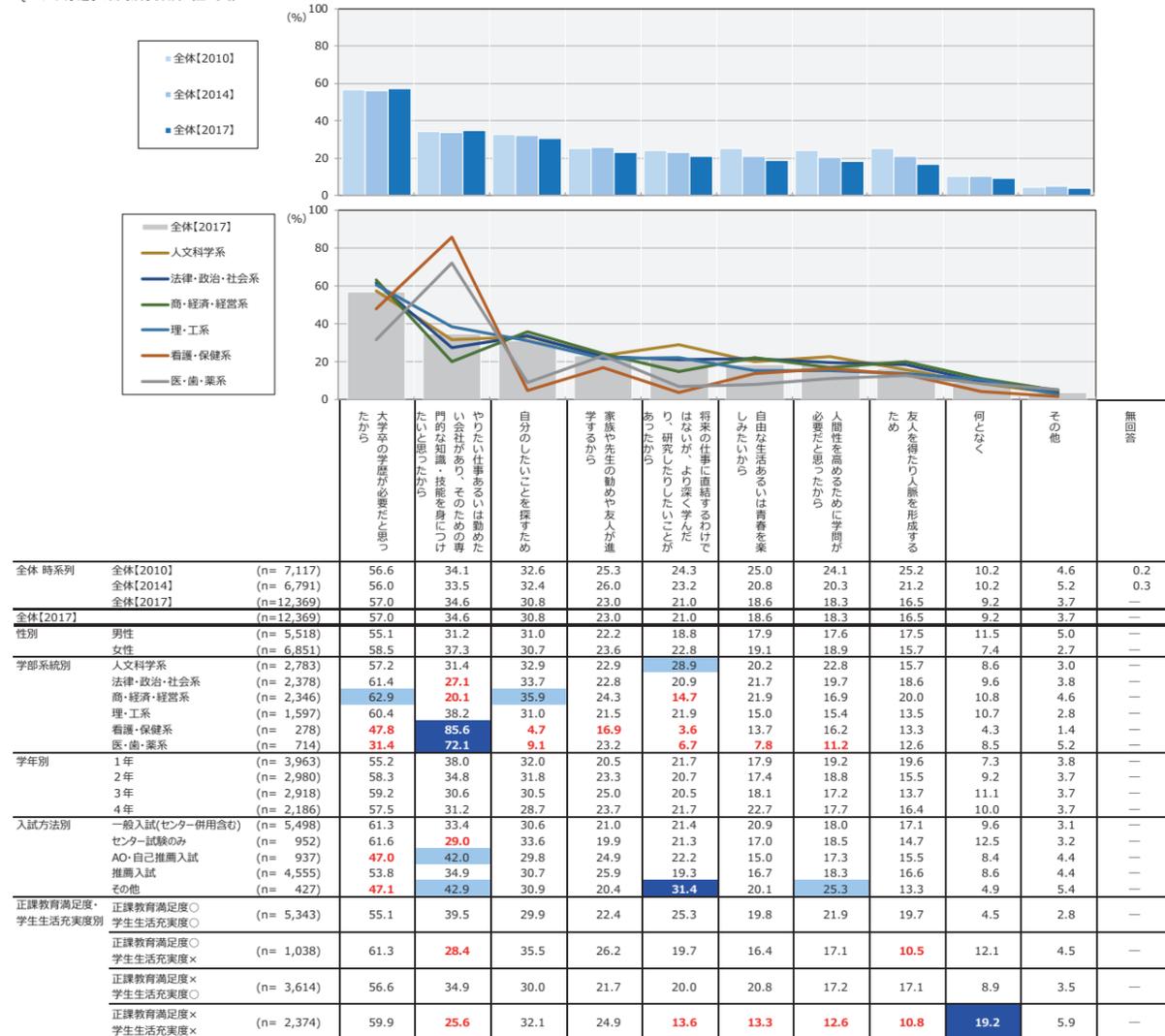
大学進学のための目的

- ◆「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が3回連続で過半数を超え、1位。
- ◆「自分のしたいことを探すため」「将来の仕事に直結するわけではないが、より深く学んだり、研究したりしたいことがあったから」「自由な生活あるいは青春を楽しみたいから」「人間性を高めるために学問が必要だと思ったから」「友人を得たり人脈を形成するため」等は、軒並み減少。

- 全体では「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が57.0%と突出して高く、過去3回の調査でも過半数を超えている。
- 「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」「自分のしたいことを探すため」が、30%台でこれに続く。
- 「自分のしたいことを探すため」「将来の仕事に直結するわけではないが、より深く学んだり、研究したりしたいことがあったから」「自由な生活あるいは青春を楽しみたいから」「人間性を高めるために学問が必要だと思ったから」「友人を得たり人脈を形成するため」については、減少傾向にある。
- 学部系統別にみると、「商・経済・経営系」は「大学卒の学歴が必要だと思ったから」「自分のしたいことを探すため」が高い。「看護・保健系」と「医・歯・薬系」では「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」が突出して高い。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」は「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」が他の入試方法に比べて高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層は「友人を得たり人脈を形成するため」が低く、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層は「何となく」が高いのが特徴である。

■大学進学のための目的（全体／複数回答）

Q10 大学進学のための目的は何か。（三つまで）



※「全体【2017】」で階層ソフト
 +10 : 『全体【2017】』が10ポイント以上高い数値に顕著
 +5 : 『全体【2017】』が5ポイント以上10ポイント未満高い数値に顕著
 -5 : 『全体【2017】』が5ポイント以上10ポイント未満低い数値に顕著

Q10.03

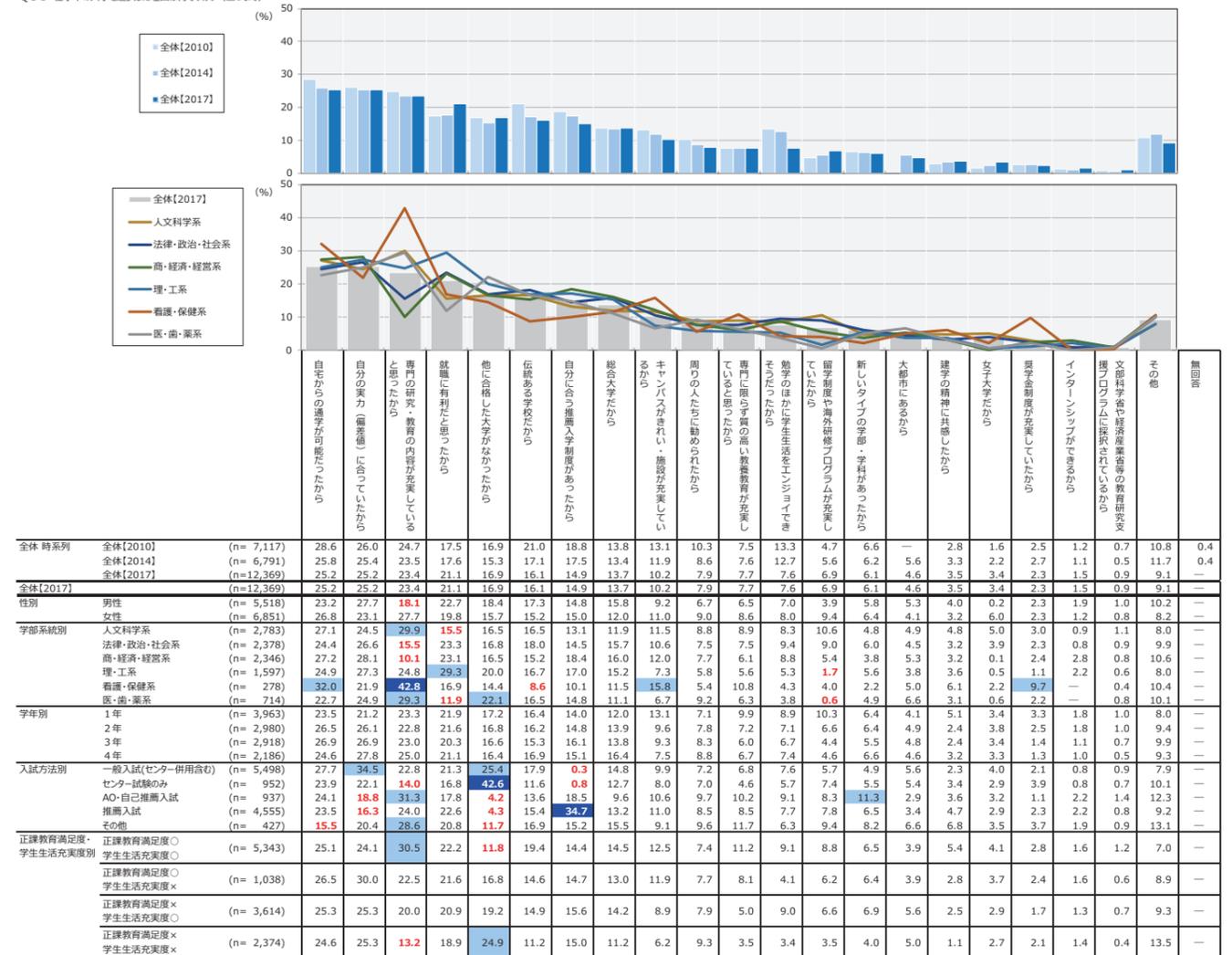
所属大学の選択理由

- ◆「自宅からの通学が可能だったから」「自分の実力（偏差値）に合っていたから」「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」が上位。ただしスコアは減少傾向にある。
- ◆「就職に有利だと思ったから」が、前回より大幅に増加。また、「留学制度や海外研修プログラムが充実していたから」も漸増。

- 「自宅からの通学が可能だったから」「自分の実力（偏差値）に合っていたから」が選択理由の1位となり、引き続き大学選択に無理をしない傾向がみられる。また「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」は前回同様3位で23.4%。ただし、多くの上位項目のスコアが減少しているのが全体の特徴である。
- その中において、「就職に有利だと思ったから」は前回から大幅に増加している（前回17.6%→今回21.1%）。一方、「勉学のほかに学生生活をエンジョイできそうだったから」は前回から大きく減少（前回12.7%→今回7.6%）。大学選択の段階から就職を重視し、学生生活の楽しさの優先度は下がっていることがうかがえる。
- 「留学制度や海外研修プログラムが充実していたから」は、スコア自体は高くはないが、回を重ねるごとに増加。また、「建学の精神に共感したから」「女子大学だから」も、わずかずスコアが上昇している。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」が低い。
- 学部系統別にみると、「看護・保健系」では「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」が42.8%と高い。
- 入試方法別にみると、「推薦入試」では「自分に合う推薦入試制度があったから」が34.7%と高い。「センター試験のみ」では「他に合格した大学がなかったから」が42.6%を占め、本意入学者の割合が高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別でみると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層は「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」が30.5%と他の層に比べて高いという特徴がある。一方、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層は「他に合格した大学がなかったから」が24.9%と高い。

■所属大学の選択理由（全体／複数回答）

Q11 在学中の大学を選択した理由は何ですか。（三つまで）



※「全体【2017】」で階層ソフト
 +10 : 『全体【2017】』が10ポイント以上高い数値に顕著 ※「建学の精神に共感したから」は2014年文言変更、2010年までは「建学の精神に共感したから」/「2014年から大都市にあるから」が追加
 +5 : 『全体【2017】』が5ポイント以上10ポイント未満高い数値に顕著
 -5 : 『全体【2017】』が5ポイント以上10ポイント未満低い数値に顕著

Q11.03

所属学部・学科の満足度

◆ 前回まで増加傾向だった【所属学部・学科の満足度】は減少に転じた。

- 全体では67.5%が現在所属する学部・学科に入学して「よかった」と回答。「よかった」の割合は前回まで漸増傾向だったが、今回の調査では前回から減少（前回70.5%→今回67.5%）。
- 1998年以来、満足度（＝「よかった」の割合）は上昇を続けていたが、今回初めて減少に転じた。 ※2ページ『フォーカス：満足度の現状分析【所属学部・学科の満足度】時系列データ』参照
- 性別では、「よかった」の割合は女性が男性を6.3ポイント上回った。
- 学部系統別では「看護・保健系」「人文科学系」の「よかった」の割合が70%を超えて高い。
- 学年別にみると、「4年」の「よかった」の割合が72.0%と最も高い。
- 入試方法別にみると、「よかった」の割合は「センター試験のみ」が60.0%と他の入試方法に比べて低い。
- 課外活動に「積極的に参加」、ボランティアに「大学入学後に参加」、何でも話せる友人が「いる」、「留学したことがある」などの層の「よかった」のスコアが高く、それぞれ満足度に影響を及ぼしていると推測できる。
- 奨学金受給状況別にみると、「よかった」の割合は受給の有無では差はみられない。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層は「よかった」が89.2%と高い。これに続くのが「正課教育満足度×学生生活充実度○」の層の66.2%であり、「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層の56.6%を上回る。【所属学部・学科の満足度】に与える影響は、正課教育の満足度よりも、学生生活の充実度の方が大きいと推測できる。

■ 所属学部・学科の満足度（全体／単一回答）

Q 1 2 所属する学部・学科に入学してよかったと思いますか。（一つだけ）

			よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
●凡例						
全体 時系列	全体 [2010]	(n= 7,117)	68.7%	4.3	26.5	0.5
	全体 [2014]	(n= 6,791)	70.5	4.0	25.2	0.3
	全体 [2017]	(n=12,369)	67.5	4.6	27.9	—
性別	男性	(n= 5,518)	64.0	6.2	29.8	—
	女性	(n= 6,851)	70.3	3.2	26.4	—
学部系統別	人文科学系	(n= 2,783)	72.3	3.8	23.9	—
	法律・政治・社会系	(n= 2,378)	67.9	5.0	27.1	—
	商・経済・経営系	(n= 2,346)	60.8	5.8	33.4	—
	理・工学	(n= 1,597)	64.6	5.4	30.1	—
	看護・保健系	(n= 278)	73.0	3.2	23.7	—
	医・歯・薬系	(n= 714)	68.6	3.8	27.6	—
学年別	1年	(n= 3,963)	67.4	4.1	28.5	—
	2年	(n= 2,980)	65.4	4.7	29.9	—
	3年	(n= 2,918)	65.9	5.1	29.0	—
	4年	(n= 2,186)	72.0	4.4	23.7	—
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	67.5	4.7	27.8	—
	センター試験のみ	(n= 952)	60.0	7.4	32.7	—
	AO・自己推薦入試	(n= 937)	69.2	4.5	26.4	—
	推薦入試	(n= 4,555)	68.3	3.9	27.8	—
	その他	(n= 427)	71.7	4.9	23.4	—
課外活動参加状況別	積極的に参加	(n= 5,294)	73.4	3.7	22.9	—
	参加・熱心ではない	(n= 1,893)	65.4	4.4	30.2	—
	参加で活動なし・参加なし	(n= 5,182)	62.2	5.6	32.2	—
奨学金受給状況別	奨学金を受けている	(n= 4,909)	67.6	4.5	27.8	—
	奨学金を受けていない	(n= 7,460)	67.4	4.6	28.0	—
ボランティア経験別	大学入学後に参加	(n= 3,030)	72.8	3.8	23.3	—
	参加していない	(n= 9,339)	65.8	4.8	29.4	—
何でも話せる友人の有無別	何でも話せる友人がいる	(n= 9,931)	70.1	3.8	26.2	—
	何でも話せる友人がいない	(n= 2,438)	57.0	7.8	35.2	—
留学の有無別	留学したことがある	(n= 1,144)	72.2	5.6	22.2	—
	留学したことがない	(n=11,225)	67.0	4.5	28.5	—
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	(n= 5,343)	89.2	0.9	10.0	—
	正課教育満足度○学生生活充実度×	(n= 1,038)	56.6	5.4	38.0	—
	正課教育満足度×学生生活充実度○	(n= 3,614)	66.2	3.4	30.4	—
	正課教育満足度×学生生活充実度×	(n= 2,374)	25.4	14.4	60.2	—

Q12.03

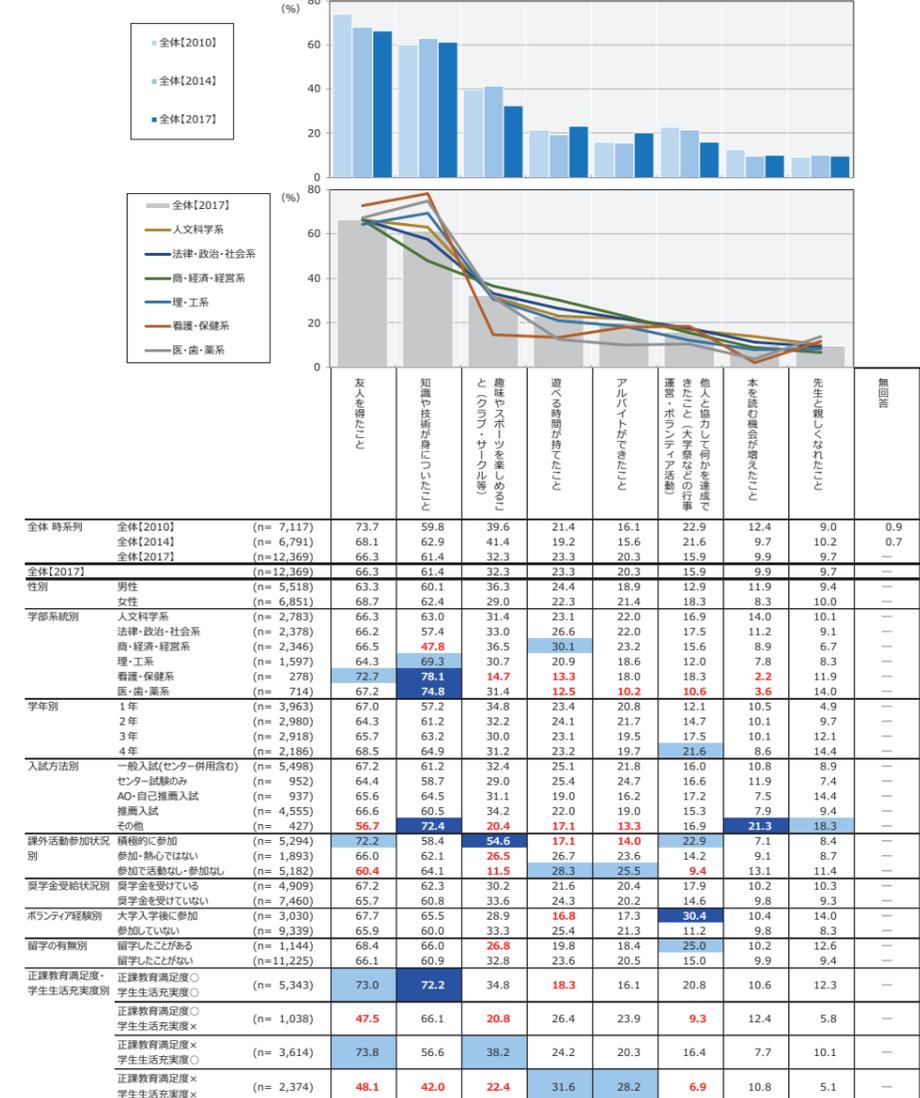
大学に入ってよかったと思う点

◆ 「友人を得たこと」は3回連続1位だが、スコアは減少傾向にある。

- 「友人を得たこと」が66.3%で1位だが、前々回以降減少傾向にある。「趣味やスポーツを楽しめること（クラブ・サークル等）」「他人と協力して何かを達成できたこと（大学祭などの行事運営・ボランティア活動）」は、前回から5ポイント以上スコアが減少している。「知識や技術が身についたこと」は微減。一方、「遊べる時間が持ったこと」「アルバイトができたこと」は前回から増加。
- 学部系統別にみると、理系（「理・工学」「看護・保健系」「医・歯・薬系」）の「知識や技術が身についたこと」の高さが目立つ。「商・経済・経営系」では「遊べる時間が持ったこと」、「看護・保健系」では「友人を得たこと」が高いことが特徴である。
- 学年別にみると、「他人と協力して何かを達成できたこと（大学祭などの行事運営・ボランティア活動）」は学年が上がるほどスコアが高い。
- 課外活動参加状況別にみると、「積極的に参加」は特徴的に「友人を得たこと」「趣味やスポーツを楽しめること（クラブ・サークル等）」「他人と協力して何かを達成できたこと（大学祭などの行事運営・ボランティア活動）」が高い。
- ボランティア参加経験者、留学経験者は「他人と協力して何かを達成できたこと（大学祭などの行事運営・ボランティア活動）」が高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層は、「知識や技術が身についたこと」の他に、特徴的に「他人と協力して何かを達成できたこと（大学祭などの行事運営・ボランティア活動）」が高く、正課教育、学生生活とも評価していることがうかがえる。一方、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層は「遊べる時間が持ったこと」「アルバイトができたこと」が相対的に高い。「友人を得たこと」「趣味やスポーツを楽しめること（クラブ・サークル等）」については学生生活充実度が「○」の層が他の層に比べて高い。

■ 大学に入ってよかったと思う点（全体／複数回答）

Q 1 3 大学に入ってよかったと思うのは、どういう点ですか。（三つまで）



※「全体 [2017]」で階層別

↑10 : 「全体 [2017]」が10ポイント以上高い数値に網掛け
↑5 : 「全体 [2017]」が5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 「全体 [2017]」が5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q13.03

学生生活の充実度

◆ 学生生活が「充実している」と回答した学生の割合は前回から減少。

- 学生生活について、30.8%が「充実している」、41.6%が「まあ充実している」と回答。「充実している」の割合は前回から減少（前回35.3%→今回30.8%）。
- 性別では、充実度（「充実」+「まあ充実」）は女性の方が男性よりも高い。
- 学部系統別にみると「人文科学系」「看護・保健系」の充実度が高い。[所属学部・学科の満足度]と同様の傾向となっている。
- 学年別にみると、充実度は学年があがるほど高い。
- 入試方法別にみると、「一般入試（センター併用含む）」「AO・自己推薦入試」が他の入試方法に比べて充実度が高い。
- 課外活動参加状況別にみると、他の層に比べて「積極的に参加」の充実度が突出して高い。課外活動へは参加するだけでなく、積極的に関わることが充実度の向上につながっている。
- 奨学金受給状況別にみると、受給の有無では充実度に差はみられなかった。
- ボランティア参加経験者、何でも話せる友人がいる者、留学経験者、いずれも充実度が高い。

■ 学生生活の充実度（全体／単一回答）

Q14 あなたの学生生活は充実していますか。（一つだけ）

		充実している	まあ充実している	普通である	あまり充実していない	充実していない	無回答	「充実」+「まあ充実」	
●凡例									
全体 時系列	全体[2010]	(n= 7,117)	31.0%	42.3	19.2	4.7	1.8	73.3	
	全体[2014]	(n= 6,791)	35.3	41.0	18.2	3.8	1.4	76.3	
	全体[2017]	(n=12,369)	30.8	41.6	19.9	5.2	2.5	72.4	
全体[2017]		(n=12,369)	30.8	41.6	19.9	5.2	2.5	72.4	
性別	男性	(n= 5,518)	28.2	40.7	21.5	5.9	3.7	68.9	
	女性	(n= 6,851)	33.0	42.3	18.6	4.6	1.6	75.3	
学部系統別	人文科学系	(n= 2,783)	34.0	41.1	17.6	4.9	2.4	75.1	
	法律・政治・社会系	(n= 2,378)	30.8	42.7	18.6	5.3	2.6	73.5	
	商・経済・経営系	(n= 2,346)	28.4	38.5	23.4	6.2	3.5	66.9	
	理・工学	(n= 1,597)	28.7	41.9	21.2	5.5	2.7	70.6	
	看護・保健系	(n= 278)	32.7	41.7	20.1	4.3	1.1	74.4	
	医・歯・薬系	(n= 714)	27.3	41.5	23.7	5.5	2.1	68.8	
学年別	1年	(n= 3,963)	30.1	40.8	20.5	6.2	2.5	70.9	
	2年	(n= 2,980)	28.6	42.4	21.3	5.0	2.7	71.0	
	3年	(n= 2,918)	29.4	43.7	19.5	4.9	2.6	73.1	
	4年	(n= 2,186)	37.3	39.7	17.3	3.8	1.9	77.0	
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	30.6	42.7	19.1	5.2	2.3	73.3	
	センター試験のみ	(n= 952)	27.4	42.2	20.6	6.8	2.9	69.6	
	AO・自己推薦入試	(n= 937)	32.6	40.4	19.5	4.8	2.7	73.0	
	推薦入試	(n= 4,555)	31.3	40.5	20.8	4.9	2.6	71.8	
	その他	(n= 427)	32.3	38.9	20.8	4.9	3.0	71.2	
課外活動参加状況別	積極的に参加	(n= 5,294)	42.7	41.6	12.2	2.6	1.0	84.3	
	参加・熱心ではない	(n= 1,893)	22.1	45.6	23.8	6.0	2.4	67.7	
	参加で活動なし・参加なし	(n= 5,182)	21.9	40.1	26.3	7.5	4.1	62.0	
奨学金受給状況別	奨学金を受けている	(n= 4,909)	31.5	41.6	19.0	5.6	2.3	73.1	
	奨学金を受けていない	(n= 7,460)	30.4	41.6	20.5	4.9	2.6	72.0	
ボランティア経験別	大学入学後に参加	(n= 3,030)	37.7	41.8	14.9	4.1	1.5	79.5	
	参加していない	(n= 9,339)	28.6	41.5	21.5	5.5	2.9	70.1	
何でも話せる友人の有無別	何でも話せる友人がいる	(n= 9,931)	34.6	42.2	17.7	4.0	1.5	76.8	
	何でも話せる友人がいない	(n= 2,438)	15.4	39.0	28.8	10.0	6.7	54.4	
留学の有無別	留学したことがある	(n= 1,144)	41.3	39.3	14.4	3.1	1.7	80.6	
	留学したことがない	(n=11,225)	29.8	41.8	20.5	5.4	2.6	71.6	
			『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け					+10	
			『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け					+5	
			『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け					-5	

Q14.03

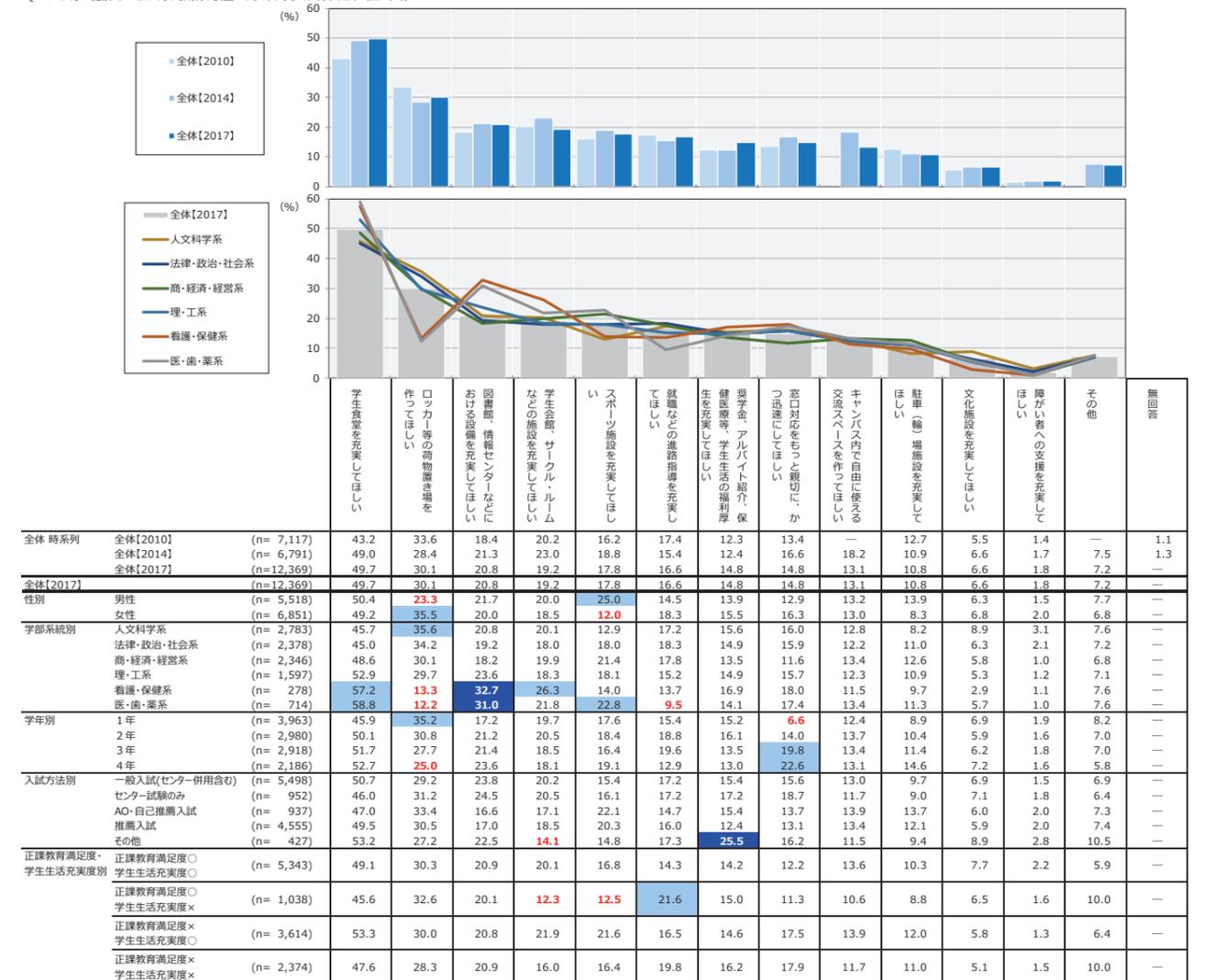
大学の施設・サービスへの要望

◆ 学生の半数が「学生食堂を充実してほしい」と要望。

- 「学生食堂を充実してほしい」は49.7%と1位でスコアは前回（49.0%）と同程度。次いで「ロッカー等の荷物置き場を作ってほしい」（30.1%）が高い。
- 性別にみると、女性では「ロッカー等の荷物置き場を作ってほしい」、男性では「スポーツ施設を充実してほしい」が高いことが特徴である。
- 学部系統別では、「看護・保健系」「医・歯・薬系」の「学生食堂を充実してほしい」「図書館、情報センターなどにおける設備を充実してほしい」のスコアが高い。
- 学年別にみると、「窓口対応をもっと親切に、かつ迅速にしてほしい」は「3年」「4年」の20%前後が回答しており、「1年」「2年」に比べて高い。
- 「所属学部・学科の満足度」において、「正課教育満足度×学生生活充実度○」の層よりも満足度（＝「よかった」の割合）が低かった「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層は、「就職など進路指導を充実してほしい」が21.6%と高い。また、「学生会館、サークル・ルームなどの施設を充実してほしい」「スポーツ施設を充実してほしい」のスコアが低いことも特徴である。

■ 大学の施設・サービスへの要望（全体／複数回答）

Q15 大学の施設・サービスに対する期待や要望にはどのようなものがありますか。（三つまで）



※「全体[2017]」で暗号ソート

+10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

※2014年「キャンパス内で自由に使える交流スペースを作ってほしい」「その他」を追加
※「ロッカー等の荷物置き場を作ってほしい」は2014年文言変更。
2010年までは「ロッカー、キヤル等、荷物置き場やキャンパス内の居場所を作ってほしい」

Q15.03

2章：経済

- **1か月の収入／支出、奨学金受給率**

1か月の総収入額は前回から4,500円減。

学生の39.7%奨学金を受給。その平均金額は58,300円、前回比1,400円増。

- **経済状況**

経済的に「余裕がある」「やや余裕がある」と回答したのは全体の30.1%だが、前々回以降「余裕がある」層が増加。

- **学費**

経済的には「余裕がある」学生が増加している一方で、学費について「負担になっている」「やや負担になっている」と回答した学生の割合は前回から増加。

- **奨学金制度への要望／奨学金を受けていない理由**

奨学金制度への要望トップは「返還の必要のない奨学金の充実」。

奨学金を受けていない理由のトップは「受ける必要がなかった」。

- **アルバイト・就労**

アルバイト・就労している学生は前々回から増加。しかし、就労時間は前回から減少。

- **アルバイトをする動機**

アルバイトの動機は、「ほしい物を購入したり、遊び、旅行、趣味などにあてる」が突出している。前回より大幅に上昇。

コメント

経済状況は「余裕がある」層が増加するも、1か月の総収入は前回から4,500円減。学費について「負担になっている」「やや負担になっている」と回答した学生の割合も前回から増加している。

奨学金受給率は前回（42.6%）よりも下がっているが、学生の39.7%が受給している。奨学金制度への要望のトップは「返還の必要のない奨学金の充実」（59.7%）で、前回（51.0%）からスコアが増加している。

1か月の収入／支出、奨学金受給率

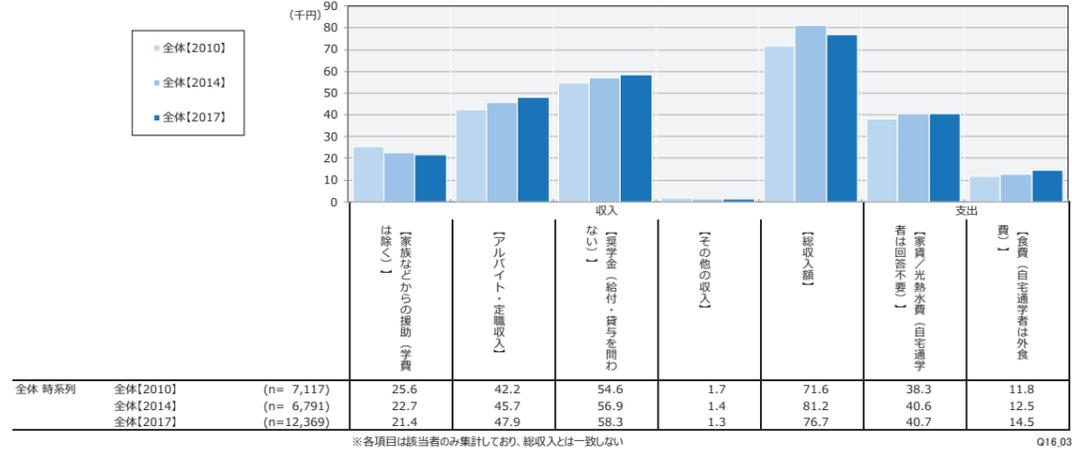
◆ 1か月の「総収入額」は前回から4,500円減。

- 全体で1か月の「総収入額」は76,700円、前回と比べると4,500円減少した。

◆ 学生の39.7%が奨学金を受給。その平均金額は58,300円、前回比1,400円増。

- 全体でみると、奨学金を「受けている」と回答したのは39.7%。「経済状況は余裕がある」とする学生でも24.2%が奨学金を受給している。金額（月額）の平均は58,300円で、前回と比べると1,400円の増となった。
- 奨学金受給率は男性の方が女性より高く、学部系統別では「看護・保健系」が突出して高い。入試方法別では「一般入試（センター併用含む）」の受給率が比較的低い。経済状況別では「経済状況は苦しい」と回答した学生の過半数（53.2%）が奨学金を受給している。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度×学生生活充実度○」の層の奨学金受給率が最も高いが、大きな差ではない。

■ 収入／支出（月額）（全体／単一回答から概算平均）



■ 奨学金受給率（全体／単一回答）

Q 1 9 奨学金を受けていますか。（一つだけ）

凡例	受けている	受けていない	無回答
全体 時系列			
全体【2010】	39.9%	58.6	1.5
全体【2014】	42.6	57.0	0.4
全体【2017】	39.7	60.3	
性別			
男性	41.4	58.6	
女性	38.3	61.7	
学部系統別			
人文科学系	41.0	59.0	
法律・政治・社会系	37.7	62.3	
商・経済・経営系	42.1	57.9	
理・工学	37.1	62.9	
看護・保健系	59.0	41.0	
医・歯・薬系	32.2	67.8	
学年別			
1年	39.0	61.0	
2年	40.9	59.1	
3年	39.8	60.2	
4年	39.6	60.4	
入試方法別			
一般入試(センター併用含む)	36.4	63.6	
センター試験のみ	41.0	59.0	
AO・自己推薦入試	42.9	57.1	
推薦入試	42.9	57.1	
その他	38.2	61.8	
経済状況別			
経済状況は余裕がある	24.2	75.8	
経済状況は苦しい	53.2	46.8	
正課教育満足度・学生生活充実度別			
正課教育満足度○学生生活充実度○	39.1	60.9	
正課教育満足度○学生生活充実度×	37.0	63.0	
正課教育満足度×学生生活充実度○	41.4	58.6	
正課教育満足度×学生生活充実度×	39.4	60.6	

※2014年から設問の形式が変わっているため、2010年の数値は参考値

経済状況

◆ 経済的に「余裕がある」「やや余裕がある」と回答したのは全体の30.1%だが、前々回以降「余裕がある」層が増加。

- 学部系統別にみると、「看護・保健系」は「余裕」+「やや余裕」が23.7%と他の学部系統に比べて低い。一方で「余裕」+「やや余裕」の割合が比較的高いのは「法律・政治・社会系」「理・工学」「医・歯・薬系」。
- 奨学金受給状況別では、奨学金受給者の「余裕」+「やや余裕」のスコアが18.3%であり、全体より10ポイント以上低い。受給してなおこの差があることを考えれば、奨学金が学生にとって重要な制度であることがわかる。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層では「余裕」+「やや余裕」が36.2%と経済的に余裕がある学生の割合が比較的高い。一方、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層では「やや苦しい」または「苦しい」と回答した学生が42.1%を占め、両者の差が大きい。

■ 経済状況（全体／単一回答）

Q 1 7 あなたは自分の経済状況についてどのように感じていますか。（一つだけ）

凡例	余裕がある	やや余裕がある	ふつう	やや苦しい	苦しい	無回答	「余裕」+「やや余裕」
全体 時系列							
全体【2010】	6.4%	13.8	37.3	28.4	13.2	0.9	20.2
全体【2014】	7.7	14.7	39.0	26.9	10.2	1.5	22.4
全体【2017】	12.2	17.9	36.2	23.9	9.7		30.1
性別							
男性	13.0	18.1	34.9	23.3	10.7		31.1
女性	11.6	17.8	37.2	24.5	9.0		29.4
学部系統別							
人文科学系	11.7	18.1	35.6	25.2	9.4		29.8
法律・政治・社会系	13.6	18.7	35.1	23.3	9.3		32.3
商・経済・経営系	11.4	17.6	37.6	23.1	10.3		29.0
理・工学	12.2	19.5	35.3	23.6	9.5		31.7
看護・保健系	9.0	14.7	37.8	25.2	13.3		23.7
医・歯・薬系	16.0	16.0	36.7	21.8	9.5		32.0
学年別							
1年	12.2	18.4	36.8	23.6	8.9		30.6
2年	11.6	18.3	36.6	23.5	9.9		29.9
3年	11.6	17.4	34.9	25.3	10.8		29.0
4年	13.6	17.0	36.4	23.5	9.4		30.6
入試方法別							
一般入試(センター併用含む)	13.3	18.4	35.4	23.6	9.4		31.7
センター試験のみ	10.6	18.0	37.0	23.5	10.9		28.6
AO・自己推薦入試	11.0	17.2	34.0	27.2	10.6		28.2
推薦入試	11.7	17.8	37.2	23.8	9.5		29.5
その他	9.8	15.0	39.8	23.4	11.9		24.8
奨学金受給状況別							
奨学金を受けている	5.8	12.5	36.5	31.4	13.8		18.3
奨学金を受けていない	16.4	21.5	36.0	19.0	7.1		37.9
正課教育満足度・学生生活充実度別							
正課教育満足度○学生生活充実度○	15.4	20.8	35.6	21.2	7.0		36.2
正課教育満足度○学生生活充実度×	10.3	17.1	40.4	22.6	9.5		27.4
正課教育満足度×学生生活充実度○	10.8	17.9	34.8	26.5	10.1		28.7
正課教育満足度×学生生活充実度×	8.0	12.0	37.9	26.7	15.4		20.0

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：+10
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：+5
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：-5

学費

◆経済的には「余裕がある」学生が増加している一方で、学費について「負担になっている」「やや負担になっている」と回答した学生の割合は前回から増加。

- 「負担になっている」は前回から微増（前回45.6%→今回47.1%）だが、「負担」+「やや負担」は前回（72.6%）から今回（79.6%）にかけて7.0ポイント増加した。
- 性別にみると、女性に比べて男性の方が「負担になっている」の割合が高い。
- 学部系統別にみると、「負担になっている」の割合が比較的高いのは理系（「理・工系」「看護・保健系」「医・歯・薬系」）である。
- 入試方法別にみると、「センター入試のみ」の「負担になっている」割合が比較的高い。
- 奨学金受給状況別にみると、奨学金受給者で「負担になっている」は61.8%、非受給者は37.4%であり、奨学金受給者の負担感が大きいことがわかる。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層では「負担になっている」が55.0%であり、他の層に比べて学費を負担に感じている学生の割合が高い。

■学費の負担感（全体／単一回答）

Q18 あなたの家の家計にとって、学費は負担になっていると思いますか。（一つだけ）

		負担になっている	やや負担になっている	それほど負担になっていない	まったく負担になっていない	わからない	無回答	「負担」+「やや負担」	
●凡例									
全体 時系列	全体【2010】	(n= 7,117)	53.3%	29.1	8.1	2.4	6.6	0.6	82.4
	全体【2014】	(n= 6,791)	45.6	27.0	10.8	2.9	13.2	0.5	72.6
	全体【2017】	(n=12,369)	47.1	32.5	12.5	2.7	5.2	—	79.6
性別	男性	(n= 5,518)	49.8	31.5	10.8	2.7	5.2	—	81.3
	女性	(n= 6,851)	44.9	33.4	13.9	2.7	5.2	—	78.3
学部系統別	人文科学系	(n= 2,783)	45.8	33.2	12.6	2.8	5.6	—	79.0
	法律・政治・社会系	(n= 2,378)	44.5	33.5	14.0	2.7	5.3	—	78.0
	商・経済・経営系	(n= 2,346)	45.0	32.8	13.6	3.4	5.3	—	77.8
	理・工系	(n= 1,597)	53.2	30.0	9.9	2.3	4.6	—	83.2
	看護・保健系	(n= 278)	51.1	34.5	10.8	1.4	2.2	—	85.6
	医・歯・薬系	(n= 714)	56.3	26.1	9.8	3.1	4.8	—	82.4
学年別	1年	(n= 3,963)	47.5	32.6	11.8	2.6	5.6	—	80.1
	2年	(n= 2,980)	47.7	31.9	11.9	2.8	5.6	—	79.6
	3年	(n= 2,918)	46.1	34.1	12.5	2.7	4.6	—	80.2
	4年	(n= 2,186)	45.7	31.7	15.1	2.9	4.7	—	77.4
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	47.8	32.4	12.6	2.6	4.6	—	80.2
	センター試験のみ	(n= 952)	50.1	32.2	10.1	2.7	4.8	—	82.3
	AO・自己推薦入試	(n= 937)	47.6	32.2	12.2	2.7	5.3	—	79.8
	推薦入試	(n= 4,555)	46.0	33.1	12.3	2.7	5.9	—	79.1
	その他	(n= 427)	40.7	30.2	19.4	4.9	4.7	—	70.9
奨学金受給状況別	奨学金を受けている	(n= 4,909)	61.8	26.7	6.2	2.4	3.0	—	88.5
	奨学金を受けていない	(n= 7,460)	37.4	36.4	16.6	3.0	6.6	—	73.8
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	(n= 5,343)	42.4	35.8	14.1	2.9	4.9	—	78.2
	正課教育満足度○学生生活充実度×	(n= 1,038)	46.5	33.1	11.9	2.3	6.1	—	79.6
	正課教育満足度×学生生活充実度○	(n= 3,614)	49.0	31.6	12.0	2.8	4.6	—	80.6
	正課教育満足度×学生生活充実度×	(n= 2,374)	55.0	26.3	10.1	2.4	6.2	—	81.3

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：**-5**

Q18.03

奨学金制度への要望／奨学金を受けていない理由

◆奨学金制度への要望トップは「返還の必要のない奨学金の充実」。

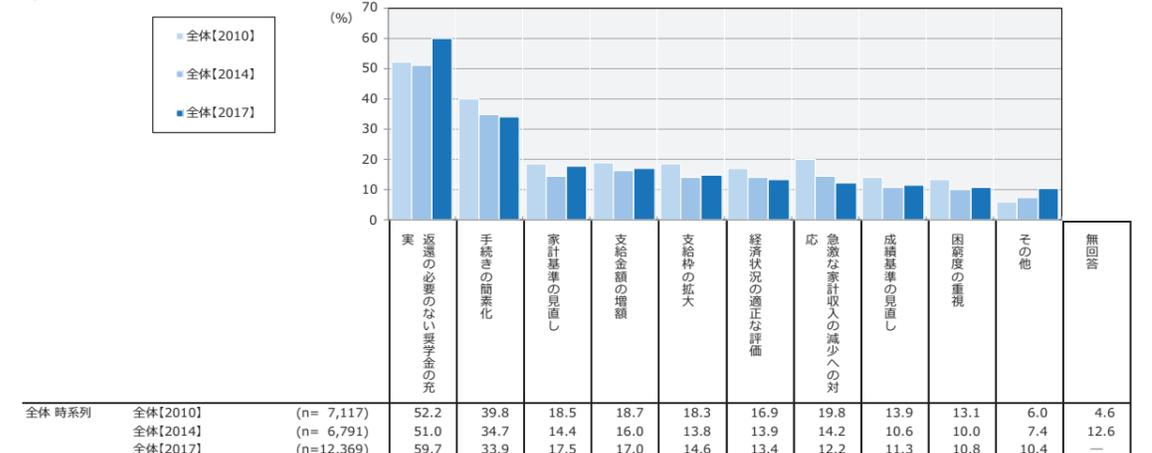
- 要望のトップは「返還の必要のない奨学金の充実」(59.7%)で、前回(51.0%)から割合が増加。次いで割合が高いのは「手続きの簡略化」(33.9%)、「家計基準の見直し」(17.5%)、「支給金額の増額」(17.0%)となる。

◆奨学金を受けていない理由のトップは「受ける必要がなかった」。

- 奨学金を受けていない理由のトップは「受ける必要がなかった」(51.3%)で、前回(46.4%)から増加した。次いで「返済義務がある」(19.6%)が高い。

■奨学金制度への要望（全体／複数回答）

Q21 奨学金制度に希望することは何ですか。（三つまで）

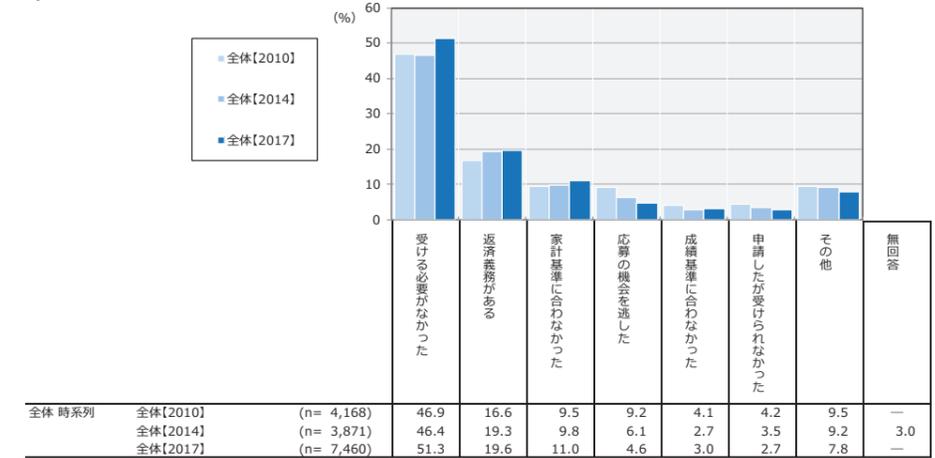


※「全体【2017】」で降順ソート

Q21.03

■奨学金を受けていない理由（奨学金非受給者／単一回答）

Q20 奨学金を受けていない理由を選んでください。（一つだけ）



※「全体【2017】」で降順ソート

※2014年から設問の形式が変わっているため、2010年の数値は参考値

Q20.03

アルバイト・就労

◆アルバイト・就労している学生は前々回から増加。しかし、就労時間は前回から減少。

- 全体のうちアルバイト・就労している学生は78.3%で、その内訳は「常時している」45.5%、「時々している」29.2%、「定職を持っている」3.6%となっている。
- 「常時」+「時々」+「定職を持っている」は前々回から増加傾向（前々回69.3%→今回78.3%）にある。しかし、1か月の平均就労時間は43.8時間で、前回の48.5時間から4.7時間の減少。
- 性別にみるとアルバイト・就労している学生の割合は女性の方が5ポイント程度高い。1か月の平均就労時間は、若干ではあるが男性の方が長くなっている。
- 学部系統別にみると、アルバイト・就労している割合は「医・歯・薬系」が58.6%と比較的低い。「常時している」に注目すると、文系（「人文科学系」「法律・政治・社会系」「商・経済・経営系」）に比べて理系（「理・工系」「看護・保健系」「医・歯・薬系」）が低い。
- 学年別にみると、「1年」の「常時している」の割合が他の学年に比べて低く、「これからしようと思っている」が26.4%と高い。
- 現在の住まい別にみると、「自宅」の方が「自宅外」に比べてアルバイト・就労している割合が高く、就労時間も「自宅」の方が長い。
- 入試方法別にみると、アルバイト・就労している割合は「一般入試（センター併用含む）」「センター試験のみ」が比較的高い。
- 経済状況別にみると、「経済状況は苦しい」のうち81.4%がアルバイト・就労している。「経済状況は余裕がある」と回答した学生はそれに比べると割合は下がるものの、76.3%がアルバイト・就労している。
- 奨学金受給状況別にみると、奨学金受給者は非受給者に比べてアルバイト・就労している割合が高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度×学生生活充実度○」の層で、アルバイト・就労している割合が高い。この層は、「経済状況」の「やや苦しい」「苦しい」や「学費の負担感」の「負担になっている」がやや高く、奨学金受給率は最も高いのだが、同時に「所属学部・学科の満足度」は「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層よりも高い。

■アルバイト・就労の状況（全体／単一回答）

Q22-① 就労（アルバイト）について選んでください。（一つだけ）

		常時している	時々している	定職を持っている	これからしよう と思っている	したことがなく、 これからしよう と思わない	無回答	「常時」+ 「時々」+「定 職を持っている」	1ヶ月の平均就 労時間 (時間)
●凡例									
全体 時系列	全体【2010】 (n= 7,117)	38.9%	27.8	2.6	22.0	5.5	3.2	69.3	47.1
	全体【2014】 (n= 6,791)	41.4	28.9	3.0	16.8	6.1	3.8	73.3	48.5
	全体【2017】 (n=12,369)	45.5	29.2	3.6	15.1	6.7	—	78.3	43.8
全体【2017】	(n=12,369)	45.5	29.2	3.6	15.1	6.7	—	78.3	43.8
性別	男性 (n= 5,518)	41.8	29.8	3.7	16.1	8.6	—	75.3	44.9
	女性 (n= 6,851)	48.4	28.6	3.4	14.3	5.2	—	80.4	43.0
学部系統別	人文科学系 (n= 2,783)	49.4	27.7	3.6	15.5	3.8	—	80.7	43.1
	法律・政治・社会系 (n= 2,378)	48.5	27.1	4.0	15.6	4.8	—	79.6	45.2
	商・経済・経営系 (n= 2,346)	47.3	28.3	3.2	15.0	6.1	—	78.8	49.7
	理・工系 (n= 1,597)	41.6	31.4	4.5	15.9	6.6	—	77.5	41.1
	看護・保健系 (n= 278)	33.5	42.8	1.8	10.4	11.5	—	78.1	35.9
	医・歯・薬系 (n= 714)	22.5	34.6	1.5	14.8	26.5	—	58.6	26.5
学年別	1年 (n= 3,963)	38.5	25.9	3.6	26.4	5.6	—	68.0	40.7
	2年 (n= 2,980)	49.3	29.5	4.1	12.3	4.8	—	82.9	45.1
	3年 (n= 2,918)	50.0	30.8	3.7	8.3	7.2	—	84.5	45.0
	4年 (n= 2,186)	49.7	31.6	2.7	8.4	7.6	—	84.0	46.1
現在の住まい別	自宅 (n= 8,019)	50.7	29.2	4.0	11.5	4.6	—	83.9	44.5
	自宅外 (n= 4,350)	35.8	29.1	2.7	21.8	10.6	—	67.6	42.2
入試方法別	一般入試(センター併用含む) (n= 5,498)	47.7	29.1	3.6	14.0	5.6	—	80.4	43.8
	センター試験のみ (n= 952)	48.4	28.6	3.5	14.8	4.7	—	80.5	42.2
	AO・自己推薦入試 (n= 937)	42.7	32.4	3.5	14.6	6.7	—	78.6	43.9
	推薦入試 (n= 4,555)	43.2	28.5	3.4	16.8	8.1	—	75.1	43.9
	その他 (n= 427)	40.7	30.7	4.9	14.3	9.4	—	76.3	46.6
経済状況別	経済状況は余裕がある (n= 3,729)	44.0	29.1	3.2	15.5	8.3	—	76.3	43.0
	経済状況は苦しい (n= 4,162)	49.7	28.1	3.6	13.9	4.6	—	81.4	45.0
奨学金受給状況別	奨学金を受けている (n= 4,909)	49.5	27.6	3.3	13.8	5.8	—	80.4	45.8
	奨学金を受けていない (n= 7,460)	42.8	30.2	3.7	16.0	7.3	—	76.7	42.4
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○ (n= 5,343)	45.9	28.7	3.2	15.8	6.4	—	77.8	42.3
	正課教育満足度○学生生活充実度× (n= 1,038)	38.8	30.8	3.5	19.9	6.9	—	73.1	42.0
	正課教育満足度×学生生活充実度○ (n= 3,614)	49.5	29.6	3.8	11.2	5.9	—	82.9	45.1
	正課教育満足度×学生生活充実度× (n= 2,374)	41.3	28.8	4.1	17.4	8.5	—	74.2	46.0

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：
+10
+5
-5

Q22.1.03

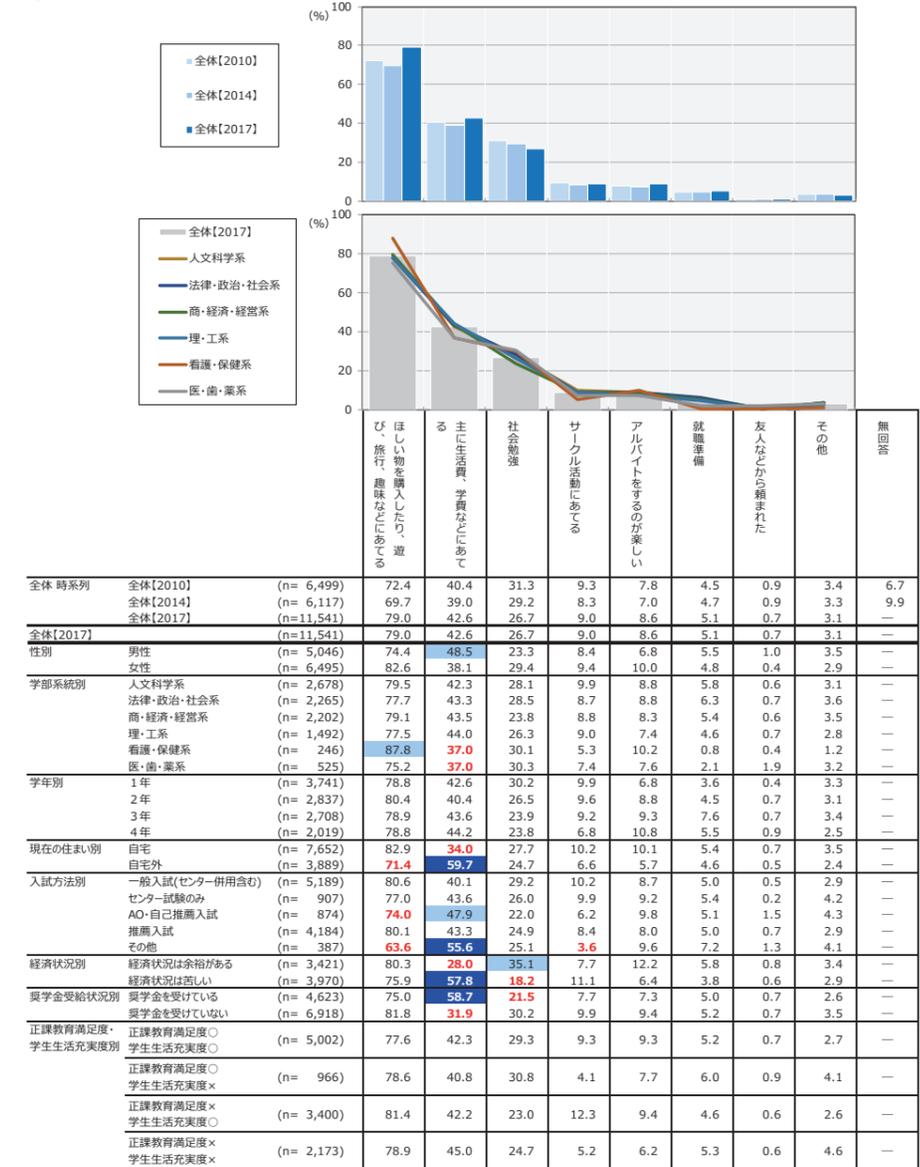
アルバイトをする動機

◆アルバイトの動機は、「ほしい物を購入したり、遊び、旅行、趣味などにあてる」が突出している。前回より大幅に上昇。

- アルバイトをする動機としては「ほしい物を購入したり、遊び、旅行、趣味などにあてる」が79.0%と突出して高い。次いで「主に生活費、学費などにあてる」(42.6%)、「社会勉強」(26.7%)が高い。このうち、「ほしい物を購入したり、遊び、旅行、趣味などにあてる」は前回から10ポイント近く増加し（前回69.7%→今回79.0%）、「社会勉強」は前々回以降変わらずだが減少傾向にある。
- 性別にみると、男性の「主に生活費、学費などにあてる」が半数近くであり、女性より高い。
- 学部系統別にみると、「看護・保健系」の「ほしい物を購入したり、遊び、旅行、趣味などにあてる」の割合が高いという特徴がある。「主に生活費、学費などにあてる」は「看護・保健系」「医・歯・薬系」では比較的低い。
- 現在の住まい別にみると、「自宅外」は「主に生活費、学費などにあてる」が59.7%と高い。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」は「主に生活費、学費などにあてる」が他の入試方法に比べて高い。
- 経済状況別にみると、「経済状況は余裕がある」は「社会勉強」、「経済状況は苦しい」は「主に生活費、学費などにあてる」がそれぞれ高いという特徴がある。
- 奨学金受給状況別にみると、奨学金受給者は「主に生活費、学費などにあてる」が58.7%と高い。
- 奨学金受給率が上がった、「正課教育満足度×学生生活充実度○」の層では、「サークル活動にあてる」が高めのスコアとなっている。

■アルバイトをする動機（就労者・就労意向者／複数回答）

Q23 アルバイトをする動機・理由は何ですか。（二つまで）



※『全体【2017】』で円周率

+10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q23.03

3章：ライフ（大学生生活）

● 平均的な1日の生活時間／メール・SNS・ゲームの使用時間

「キャンパス滞在時間」の平均は5.96時間と前回（6.16時間）から減少。特に「課外活動（クラブ、サークル、ボランティア）時間」が減少。

「メール・SNS・ゲームの使用時間」の平均は1日あたり2.52時間。

● 興味・関心事

「大学の勉強」「資格の取得」への興味は増加したが、「就職活動」への興味は減少している。「クラブ・サークル活動」「友人との交際」など、学内の人間関係に関わる項目は減少気味。「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」が大きく増加。

● 大学生活で大切なこと

「専門的知識・技術を習得すること」「よい成績をとること」などが増加傾向にある。

一方で、「よい友人・先輩を得ること」「趣味を生かし、才能を伸ばすこと」「クラブ・サークル活動で活躍すること」は減少傾向にある。

● 食事回数

1日の食事回数は、全体の4分の1が2回以下。前回とほぼ変わらない。

● 朝食について

朝食を「毎日とる」のは全体の61.2%。学年が上がるほど、「毎日とる」割合は低下。

● 薬物の使用について

大麻などの薬物について、88.2%は「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」と考えている。

コメント

【興味・関心事】では「大学の勉強」「資格の取得」への興味は増加したが、就職を取り巻く環境の改善からか、「就職活動」への興味は減少。

1章の「大学進学目的」において「友人を得る」が減少していたが、それに関連してか【興味・関心事】の「クラブ・サークル活動」「友人との交際」など、学内の人間関係に関わる項目は減少していることがうかがえる。同様に「大学生活で大切なこと」でも「よい友人・先輩を得ること」「趣味を生かし、才能を伸ばすこと」「クラブ・サークル活動で活躍すること」は減少傾向にある。

平均的な1日の生活時間／メール・SNS・ゲームの使用時間

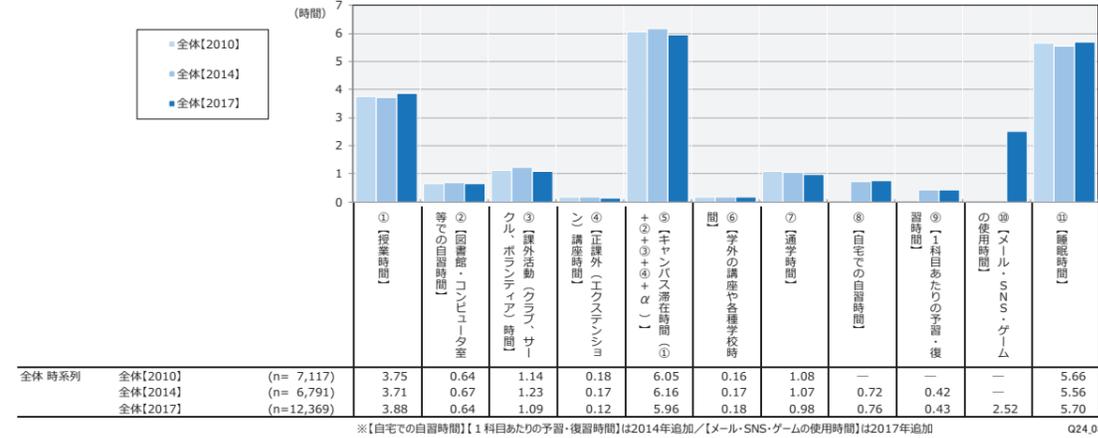
◆「キャンパス滞在時間」の平均は5.96時間と前回（6.16時間）から減少。特に「課外活動（クラブ、サークル、ボランティア）時間」が減少。

◆「メール・SNS・ゲームの使用時間」の平均は1日あたり2.52時間。

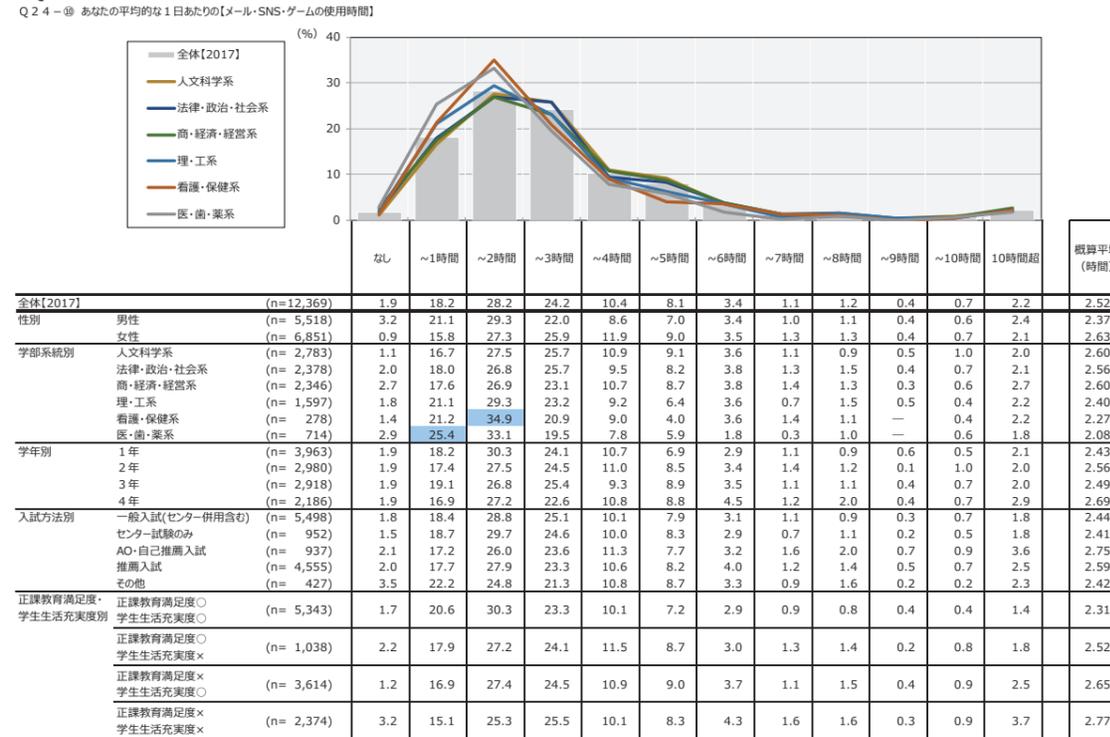
・今回初めて質問した「メール・SNS・ゲームの使用時間」は全体の平均が2.52時間であった。回答の分布をみると、最も割合が高いのは「～2時間」の28.2%、次いで「～3時間」の24.2%。

- これを性別にみると、平均時間は男性（2.37時間）よりも女性（2.63時間）の方が長い。
- 学部系統別にみると、文系（「人文科学系」「法律・政治・社会系」「商・経済・経営系」）は理系（「理・工学」「看護・保健系」「医・歯・薬系」）に比べて使用時間が長い傾向にある。
- 学年別にみると、「4年」（2.69時間）が他の学年に比べて使用時間が長い。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」（2.75時間）が他の入試方法に比べて使用時間が長い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層が平均2.77時間と使用時間が比較的最長、「10時間超」と回答した学生も3.7%いた。

■生活時間概算平均（時間）（全体／単一回答から概算平均）



■ Q24-⑩【メール・SNS・ゲームの使用時間】（全体／単一回答）



※「全体【2017】」で降順ソート
+10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

興味・関心事

◆「大学の勉強」「資格の取得」への興味は増加したが、「就職活動」への興味は減少している。

◆「クラブ・サークル活動」「友人との交際」など、学内の人間関係に関わる項目は減少気味。

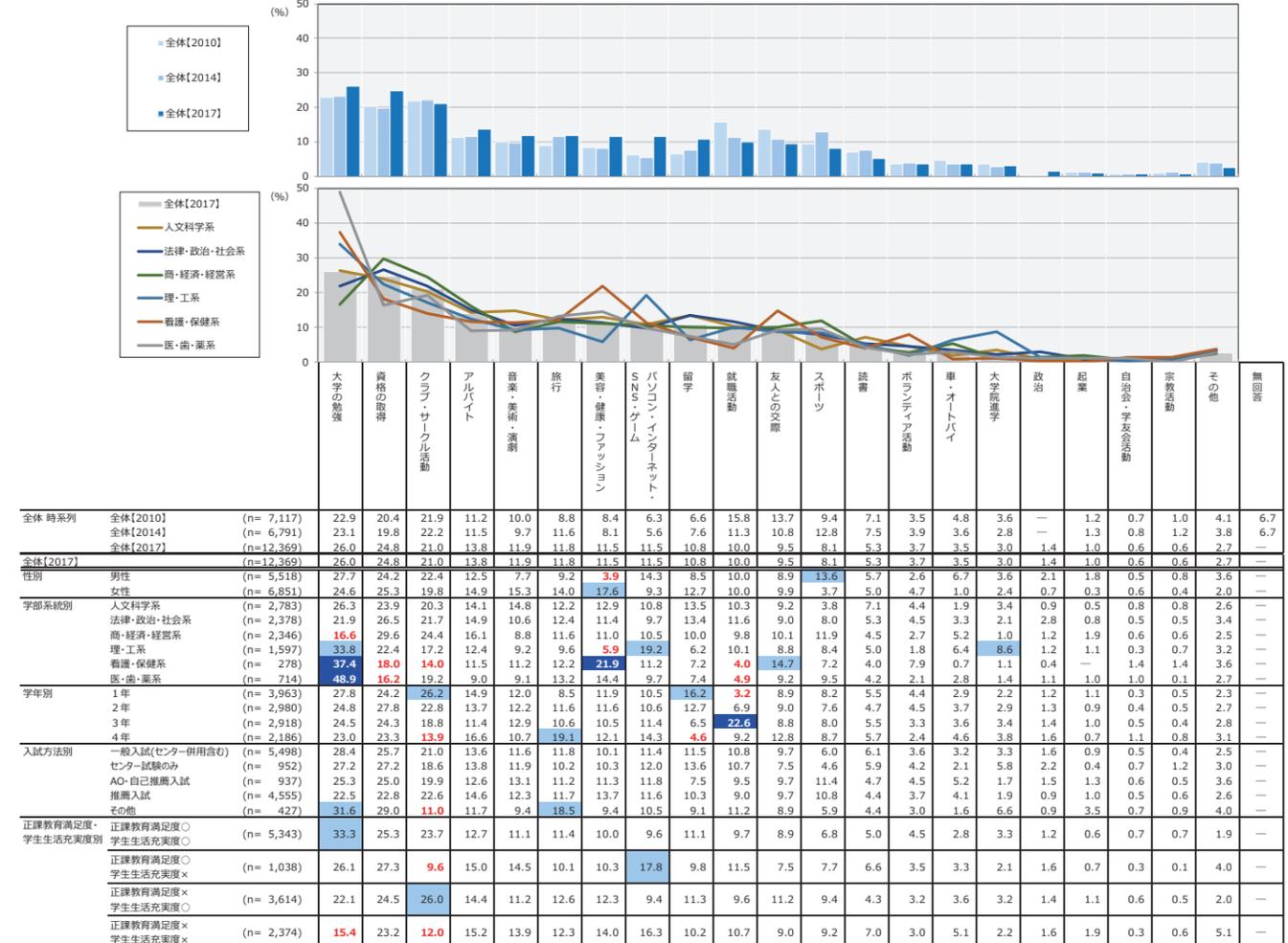
◆「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」が大きく増加。

- 全体では「大学の勉強」（26.0%）が最も高く、次いで「資格の取得」（24.8%）、「クラブ・サークル活動」（21.0%）が高い。「資格の取得」は前回3位であったが、今回は5ポイント増加し、「クラブ・サークル活動」を抜いて2位となった。
- 「クラブ・サークル活動」や「友人との交際」といった、学内の人間関係に関わる項目が減少気味。なお、「アルバイト」は増加している。（前回11.5%→今回13.8%）
- 「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」は前回（「パソコン・インターネット」で回答）から大きく増加（前回5.6%→今回11.5%）。
- そのほか、「美容・健康・ファッション」が大きく増加、「スポーツ」は大きく減少している。

- 性別にみると、男性は「スポーツ」、女性は「美容・健康・ファッション」がそれぞれ高い。
- 学部系統別にみると、理系（「理・工学」「看護・保健系」「医・歯・薬系」）の「大学の勉強」が高い。女性が多い「看護・保健系」では「美容・健康・ファッション」が高いのも特徴である。
- 学年別にみると、「1年」では「クラブ・サークル活動」「留学」、「3年」では「就職活動」、「4年」では「旅行」がそれぞれ高いという特徴がある。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると学生生活充実度が「○」の層は「クラブ・サークル活動」のスコアが他の層に比べて高い。学生生活充実度が「×」の層は「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」が他の層に比べて高い。つまり、学生生活が充実していると感じる学生は、「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」への興味度が低い結果となっている。

■現在、興味や関心を持っていること・行っていること（全体／複数回答）

Q25 現在、あなたが興味や関心を持っていること、または行っていることは次のどれですか。（二つまで）



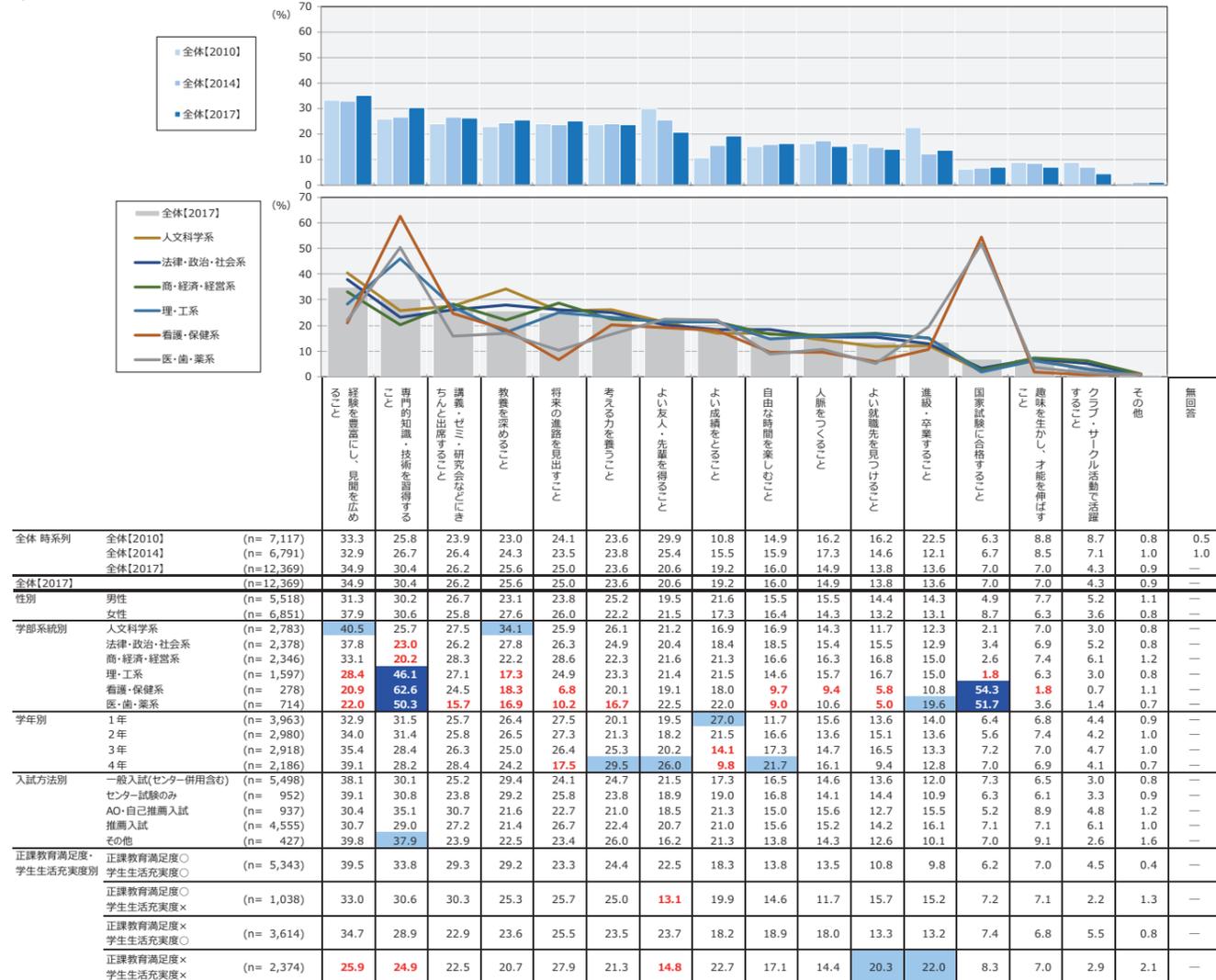
※「全体【2017】」で降順ソート
+10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

大学生活で大切なこと

- ◆「専門的知識・技術を習得すること」「よい成績をとること」などが増加傾向にある。
- ◆一方で、「よい友人・先輩を得ること」「趣味を過ごし、才能を伸ばすこと」「クラブ・サークル活動で活躍すること」は減少傾向にある。
 - ・全体では「経験を豊富にし、見聞を広めること」(34.9%)が1位、「専門的知識・技術を習得すること」(30.4%)が2位。
 - ・「専門的知識・技術を習得すること」「よい成績をとること」は前々回以降増加傾向で、特に「よい成績をとること」は前々回より10ポイント近く増加した(前々回10.8%→今回19.2%)。
 - ・一方で、「よい友人・先輩を得ること」は前々回から減少傾向で、10ポイント近く減少している(前々回29.9%→今回20.6%)。
- ・学部系統別にみると、「人文科学系」では特徴的に「経験を豊富にし、見聞を広めること」「教養を深めること」が高い。理系(「理・工系」「看護・保健系」「医・歯・薬系」)では「専門的知識・技術を習得すること」が突出して高い。「看護・保健系」「医・歯・薬系」では「国家試験に合格すること」も同様に突出している。
- ・学年別にみると、「よい成績をとること」は学年が低いほど高く、「1年」では27.0%。一方で「考える力を養うこと」「よい友人・先輩を得ること」「自由な時間を楽しむこと」は学年が上がるほど高い傾向がある。
- ・正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、学生生活充実度が「×」の層は「よい友人・先輩を得ること」のスコアが他の層に比べて低く、対人関係に対する興味が弱い。「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層では「経験を豊富にし、見聞を広めること」「専門的知識・技術を習得すること」が比較的低く、一方で「よい就職先を見つけること」「進級・卒業すること」が他の層に比べて高い。

■大学生活で大切なこと(全体/複数回答)

Q 2.6 大学生活の中で大切だと思っていることは何ですか。(三つまで)



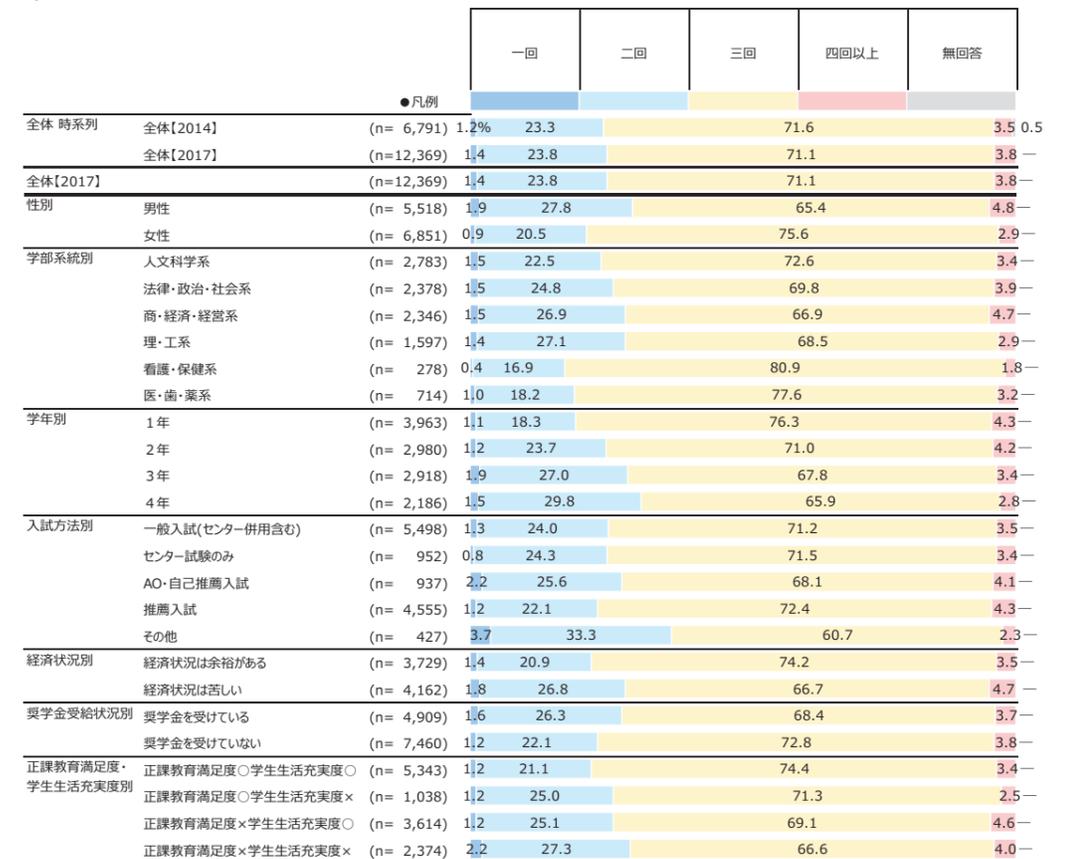
※全体【2017】で降順ソート
 +10 : 『全体【2017】』が10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体【2017】』が5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体【2017】』が5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

食事回数

- ◆1日の食事回数は、全体の4分の1が2回以下。前回とほぼ変わらない。
 - ・全体では約4分の1が食事回数「一回」から「二回」と回答。前回調査と比較すると、ほぼ同程度である。
- ・1日2回以下の学生の割合は属性によって異なり、性別では女性よりも男性、学年別では学年が上がるほど食事回数は少ない。
- ・学部系統別にみると、「看護・保健系」(80.9%)、「医・歯・薬系」(77.6%)は「三回」食事をしている学生が他の学部系統に比べて多い。
- ・入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」は2回以下の割合が比較的高く、食事回数が少ない。
- ・経済状況別にみると、「経済状況は余裕がある」学生よりも「経済状況は苦しい」学生の方が、食事回数が少ない。奨学金受給状況別でも同様に、奨学金非受給者よりも奨学金受給者の方が食事回数が少ない。食事の回数は、学生の経済状況にも影響を受けていることがわかる。
- ・正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層が3回以上の割合が高く、食事回数は多い。一方、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層が2回以下の割合が高く、食事回数が少ない。

■食事回数(全体/単一回答)

Q 2.7 一日のうちで食事を何回とりますか。(一つだけ)



朝食について

◆朝食を「毎日とる」のは全体の61.2%。学年が上がるほど、「毎日とる」割合は低下。

- 朝食を「毎日とる」のは全体の61.2%。前回調査とほとんど変わらないスコアである。
- 「毎日とる」学生の割合は属性によって異なり、性別では男性よりも女性が高い。学年別では学年が上がるほど「毎日とる」学生の割合は低下し、4年では53.5%。
- 学部系統別に見ると、「毎日とる」割合は「看護・保健系」が73.7%と最も高い。一方、「毎日とる」割合が比較的低いのは「商・経済・経営系」「理・工系」。
- 入試方法別に見ると、「AO・自己推薦入試」は「毎日とる」の割合が比較的低い。
- 経済状況別に見ると、「経済状況は余裕がある」学生よりも「経済状況は苦しい」学生の方が、「毎日とる」の割合が低い。奨学金受給状況別でも同様に、奨学金非受給者よりも奨学金受給者の方が、「毎日とる」の割合が低い。[食事回数]と同様に、朝食の摂取状況が学生の経済状況と関係していることがわかる。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別に見ると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層は「毎日とる」の割合が他の層に比べて高い。一方、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層は「毎日とる」の割合が他の層に比べて低い。

■朝食をとるかどうか（全体／単一回答）

Q 2 8 朝食をとりますか。（一つだけ）

		毎日とる	時々とる	とらない	無回答	「時々とる」+ 「とらない」
●凡例						
全体 時系列	全体【2014】 (n= 6,791)	60.7%	29.9	8.8	0.5	38.7
	全体【2017】 (n=12,369)	61.2	29.3	9.5	—	38.8
全体【2017】	(n=12,369)	61.2	29.3	9.5	—	38.8
性別	男性 (n= 5,518)	55.6	31.8	12.6	—	44.4
	女性 (n= 6,851)	65.7	27.3	7.0	—	34.3
学部系統別	人文科学系 (n= 2,783)	62.8	29.3	7.8	—	37.1
	法律・政治・社会系 (n= 2,378)	60.5	30.5	9.0	—	39.5
	商・経済・経営系 (n= 2,346)	56.6	31.0	12.4	—	43.4
	理・工系 (n= 1,597)	58.2	30.2	11.6	—	41.8
	看護・保健系 (n= 278)	73.7	21.9	4.3	—	26.2
	医・歯・薬系 (n= 714)	66.9	23.5	9.5	—	33.0
学年別	1年 (n= 3,963)	68.0	25.4	6.6	—	32.0
	2年 (n= 2,980)	61.9	28.3	9.7	—	38.0
	3年 (n= 2,918)	57.2	30.5	12.3	—	42.8
	4年 (n= 2,186)	53.5	35.9	10.6	—	46.5
入試方法別	一般入試(センター併用含む) (n= 5,498)	61.6	28.9	9.5	—	38.4
	センター試験のみ (n= 952)	60.7	30.5	8.8	—	39.3
	AO・自己推薦入試 (n= 937)	56.2	31.9	11.8	—	43.7
	推薦入試 (n= 4,555)	63.1	28.1	8.8	—	36.9
	その他 (n= 427)	48.2	38.9	12.9	—	51.8
経済状況別	経済状況は余裕がある (n= 3,729)	64.9	26.3	8.9	—	35.2
	経済状況は苦しい (n= 4,162)	56.3	32.8	10.8	—	43.6
奨学金受給状況別	奨学金を受けている (n= 4,909)	57.5	31.9	10.5	—	42.4
	奨学金を受けていない (n= 7,460)	63.6	27.6	8.8	—	36.4
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○ (n= 5,343)	64.7	27.6	7.7	—	35.3
	正課教育満足度○学生生活充実度× (n= 1,038)	60.8	29.8	9.4	—	39.2
	正課教育満足度×学生生活充実度○ (n= 3,614)	58.7	31.0	10.2	—	41.2
	正課教育満足度×学生生活充実度× (n= 2,374)	57.3	30.4	12.3	—	42.7

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：**-5**

Q28_03

薬物の使用について

◆薬物について、88.2%は「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」と考えている。

- 全体では、薬物使用について「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」が88.2%を占める。前回の84.2%から4.0ポイント増加した。しかし、「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う」という自己責任での使用容認派は、多数派ではないものの、前々回からわずかながら増加傾向にある（前々回6.7%→前回7.9%→今回8.1%）。
- 性別に見ると、男性の方が女性よりも「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う」の割合が高い（男性11.4%、女性5.5%）。
- 学部系統別に見ると、「看護・保健系」の「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」が他の学部系統に比べて高い。
- 留学の有無別に見ると、留学経験者の方が「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う」の割合がやや高い（留学経験者10.7%、未経験者7.9%）。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別に見ると、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層は「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う」という自己責任での使用容認派の割合が11.9%と他の層に比べて高い。

■薬物の使用について（全体／単一回答）

Q 2 9 あなたは薬物（大麻など）の使用について、どのように考えていますか。（一つだけ）

		どのような理由であれ、絶対に使うべきではない	一度くらいなら使っても構わないと思う	使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う	その他	無回答
●凡例						
全体 時系列	全体【2010】 (n= 7,117)	88.3%	11.6	3.1	0.7	1.6
	全体【2014】 (n= 6,791)	84.2	6.7	3.1	4.2	0.6
	全体【2017】 (n=12,369)	88.2	7.8	3.0	—	0.7
全体【2017】	(n=12,369)	88.2	7.8	3.0	—	0.7
性別	男性 (n= 5,518)	83.6	11.4	4.0	—	1.0
	女性 (n= 6,851)	91.9	5.5	2.1	—	0.5
学部系統別	人文科学系 (n= 2,783)	88.6	6.8	2.6	—	0.6
	法律・政治・社会系 (n= 2,378)	87.5	7.8	3.2	—	0.7
	商・経済・経営系 (n= 2,346)	87.3	9.8	3.7	—	0.9
	理・工系 (n= 1,597)	87.2	9.6	2.6	—	0.6
	看護・保健系 (n= 278)	93.9	4.0	1.1	—	1.1
	医・歯・薬系 (n= 714)	89.6	8.6	3.5	—	0.8
学年別	1年 (n= 3,963)	89.0	5.7	2.8	—	0.5
	2年 (n= 2,980)	88.5	7.7	3.1	—	0.7
	3年 (n= 2,918)	86.8	9.4	2.9	—	0.9
	4年 (n= 2,186)	89.2	7.7	2.8	—	0.7
入試方法別	一般入試(センター併用含む) (n= 5,498)	88.6	6.8	2.8	—	0.6
	センター試験のみ (n= 952)	86.0	8.8	4.0	—	1.2
	AO・自己推薦入試 (n= 937)	86.0	9.6	3.5	—	0.9
	推薦入試 (n= 4,555)	89.0	6.7	2.7	—	0.6
	その他 (n= 427)	84.8	9.8	4.2	—	1.2
留学の有無別	留学したことがある (n= 1,144)	84.7	10.7	3.1	—	1.5
	留学したことがない (n=11,225)	88.6	6.7	2.9	—	0.6
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○ (n= 5,343)	91.1	5.6	2.2	—	0.5
	正課教育満足度○学生生活充実度× (n= 1,038)	88.4	7.4	3.2	—	1.0
	正課教育満足度×学生生活充実度○ (n= 3,614)	87.6	8.8	2.9	—	0.8
	正課教育満足度×学生生活充実度× (n= 2,374)	82.6	11.9	4.5	—	1.0

Q29_03

4章：正課教育

- **正課教育の満足度**

正課教育関連のすべての項目について、満足度は低下。

- **科目履修の時に重視する要素**

「専門的な知識が身につく」「資格取得に役立つ」「就職に役立つ」は増加。“役立つ”ことを重視する学生が増えている。

一方で、「面白く楽しい授業」「知的刺激がある」「視野が広がる」などは減少傾向にある。

- **講義への希望**

「板書やプレゼンテーションを工夫してほしい」（37.7%）、「レジュメを配布してほしい」（34.2%）が上位項目である。

- **教育内容・方法への期待・要望**

「多様な科目選択ができるカリキュラムにしてほしい」が1位。

「授業時間数または必要単位数を少なくしてほしい」「授業計画がはっきりわかるシラバスを作成してほしい」を希望・期待する学生が増加。

コメント

【正課教育の満足度】は前回まで増加傾向だったが、今回は低下。【科目履修の時に重視する要素】において「資格取得に役立つ」「就職に役立つ」が増加した一方で「面白く楽しい授業」「知的刺激がある」「視野が広がる」などは減少傾向にある。学生の実利志向化がうかがえる。

【講義への希望】では1位は「板書やプレゼンテーションを工夫してほしい」だがスコアは減少傾向にある。2位の「レジュメを配布してほしい」は前々回以降増加し、ニーズが高まっている。

正課教育の満足度

◆ 正課教育関連のすべての項目について、満足度は低下。

- 「大変満足」+「満足」の割合でみると、正課教育の満足度はすべての項目（【教授陣】、【カリキュラムの構成】、【授業の内容】、【ゼミなどの少人数教育】、【大学の施設・設備】、【授業等、正課教育全体】）において低下した。
- 中でも下げ幅が比較的大きいのは【教授陣】の3.8ポイント減（前回58.9%→今回55.1%）である。
- 【授業等、正課教育全体】の満足度を性別にみると、男性（47.9%）よりも女性（54.6%）の方が高い。また、学部系統別にみると、「人文科学系」「看護・保健系」の「大変満足」+「満足」が55%を超えており、他の層より高い。学年別には、「2年」（48.2%）が最も低く、「1年」（53.8%）と「4年」（54.7%）は比較的満足度が高い。これらは、【所属学部・学科の満足度】と同様の結果である。
- なお、留学の有無別では、留学経験者の「大変満足」+「満足」のスコアが、留学未経験者のスコアを5ポイント以上上回っている。

■ 正課教育の満足度（全体/各単一回答）

Q30-① 【教授陣】	凡例	n	満足度					「大変満足」+「満足」				
			大変満足	満足	どちらともいえない	不満	大変不満	無回答	全体	男性	女性	
Q30-② 【カリキュラムの構成】	全体[2010]	7,117	8.0%	40.2		38.4	9.2	2.2	2.0	48.2	43.9	52.8
	全体[2014]	6,791	11.0	47.9		32.0	6.9	1.6	0.6	58.9	57.4	60.6
	全体[2017]	12,369	10.5	44.6		35.2	7.3	2.4	—	55.1	52.4	57.2
Q30-③ 【授業の内容】	全体[2010]	7,117	4.2	33.2		42.4	14.8	3.0	2.3	37.4	33.4	41.9
	全体[2014]	6,791	7.0	42.4		36.4	11.5	2.2	0.7	49.4	48.4	50.4
	全体[2017]	12,369	7.0	40.9		37.9	10.9	3.3	—	47.9	45.9	49.6
Q30-④ 【ゼミなどの少人数教育】	全体[2010]	7,117	15.4	38.9		36.2	5.2	2.1	2.2	54.3	49.1	60.1
	全体[2014]	6,791	19.9	40.3		33.0	4.5	1.5	0.9	60.2	57.2	63.3
	全体[2017]	12,369	18.7	38.5		36.6	4.0	2.2	—	57.2	54.4	59.5
Q30-⑤ 【大学の施設・設備】	全体[2010]	7,117	12.0	42.1		25.3	14.6	4.2	1.8	54.1	51.9	56.6
	全体[2014]	6,791	14.8	41.9		24.8	13.7	4.0	0.8	56.7	55.6	58.0
	全体[2017]	12,369	13.3	41.5		24.0	15.9	5.2	—	54.8	53.4	56.1
Q30-⑥ 【授業等、正課教育全体】	全体[2014]	6,791	7.9	44.4		38.8	6.0	1.4	1.5	52.3	49.7	55.0
	全体[2017]	12,369	7.0	44.6		38.8	7.2	2.4	—	51.6	47.9	54.6

※⑥は2014年追加

Q30.02

■ 【授業等、正課教育全体】満足度（全体/単一回答）

Q30-⑥ 【授業等、正課教育全体】について、満足度を教えてください。（一つだけ）

凡例	n	満足度					「大変満足」+「満足」			
		大変満足	満足	どちらともいえない	不満	大変不満		無回答		
全体 時系列	全体[2014]	6,791	7.9%	44.4		38.8	6.0	1.4	1.5	52.3
	全体[2017]	12,369	7.0	44.6		38.8	7.2	2.4	—	51.6
	全体[2017]	12,369	7.0	44.6		38.8	7.2	2.4	—	51.6
性別	男性	5,518	8.0	39.9		39.7	8.5	4.0	—	47.9
	女性	6,851	6.2	48.4		38.1	6.2	1.1	—	54.6
学部系統別	人文科学系	2,783	7.4	50.7		34.0	6.1	1.9	—	58.1
	法律・政治・社会系	2,378	7.3	44.0		39.4	7.1	2.1	—	51.3
	商・経済・経営系	2,346	6.7	38.4		44.0	7.5	3.4	—	45.1
	理・工学	1,597	7.8	42.9		39.5	7.5	2.4	—	50.7
	看護・保健系	278	7.9	47.1		34.9	7.6	2.5	—	55.0
	医・歯・薬系	714	5.6	33.5		42.4	13.6	4.9	—	39.1
学年別	1年	3,963	8.0	45.8		38.3	5.7	2.1	—	53.8
	2年	2,980	5.3	42.9		41.7	7.7	2.3	—	48.2
	3年	2,918	6.5	43.5		39.5	8.3	2.2	—	50.0
	4年	2,186	7.8	46.9		35.3	7.1	2.8	—	54.7
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	5,498	5.9	45.3		38.5	7.9	2.5	—	51.2
	センター試験のみ	952	5.3	42.0		39.3	9.9	3.6	—	47.3
	AO・自己推薦入試	937	9.7	41.9		38.2	7.3	2.9	—	51.6
	推薦入試	4,555	8.0	44.5		39.4	6.0	2.1	—	52.5
	その他	427	9.1	46.8		37.0	4.9	2.1	—	55.9
奨学金受給状況別	奨学金を受けている	4,909	6.8	43.6		40.4	6.6	2.5	—	50.4
	奨学金を受けていない	7,460	7.2	45.2		37.7	7.5	2.4	—	52.4
何でも話せる友人の有無別	何でも話せる友人がいる	9,931	7.4	45.8		38.3	6.4	2.0	—	53.2
	何でも話せる友人がいない	2,438	5.5	39.5		40.7	10.3	4.0	—	45.0
留学の有無別	留学したことがある	1,144	10.4	47.1		32.5	6.9	3.1	—	57.5
	留学したことがない	11,225	6.7	44.3		39.4	7.2	2.4	—	51.0

『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：**-5**

Q30.6.03

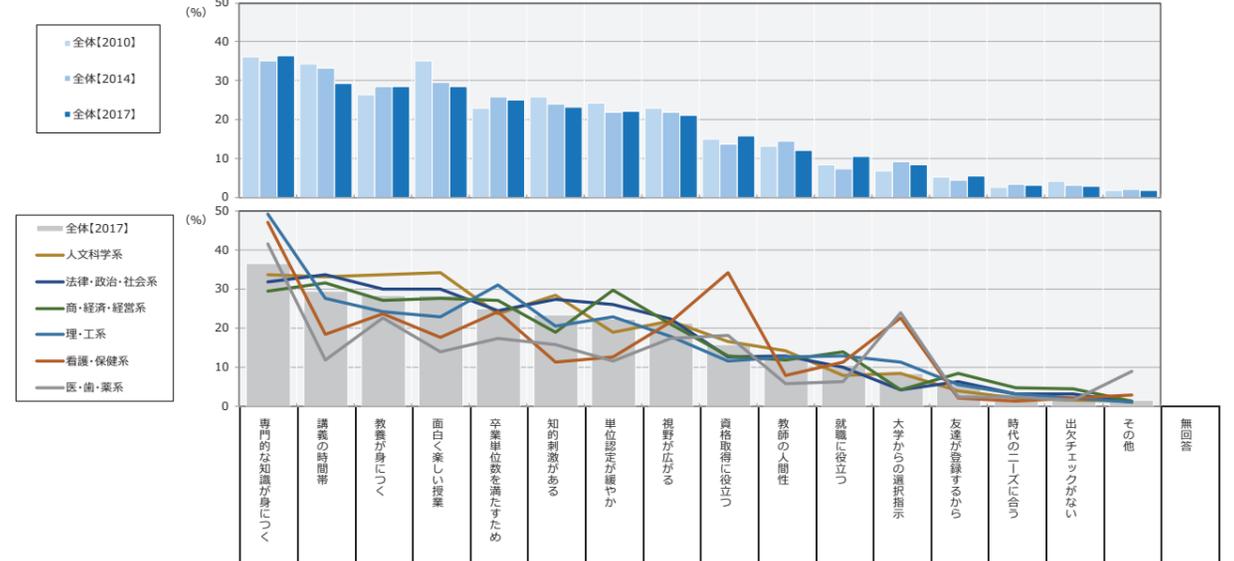
科目履修の時に重視する要素

◆ 「専門的な知識が身につく」「資格取得に役立つ」「就職に役立つ」は増加。“役立つ”ことを重視する学生が増えている。 ◆ 一方で、「面白く楽しい授業」「知的刺激がある」「視野が広がる」などは減少傾向にある。

- 全体では「専門的な知識が身につく」（36.4%）が最も高く、次いで「講義の時間帯」（29.3%）が高い。
- 「専門的な知識が身につく」（前回35.0%→今回36.4%）、「資格取得に役立つ」（前回13.8%→今回15.7%）、「就職に役立つ」（前回7.3%→今回10.6%）はそれぞれ前回からわずかではあるが増加。それ以外の項目は前回から減少したものが多く、特に、「面白く楽しい授業」は前々回は2位であったが、減少傾向が続き、今回は3位となった（前々回35.1%→今回28.5%）。
- 学部系統別にみると、「人文科学系」では「教養が身につく」「面白く楽しい授業」「知的刺激がある」が相対的に高く、「看護・保健系」や「医・歯・薬系」では「専門的な知識が身につく」「大学の選択指示」が同様に高いという特徴がある。「看護・保健系」ではこれに加えて特徴的に「資格取得に役立つ」も高い。また、「商・経済・経営系」では「単位認定が緩やか」、「理・工学」では「専門的な知識が身につく」「卒業単位数を満たすため」が高いのが特徴である。
- 入試方法別にみると、「センター試験のみ」では「知的刺激がある」、「AO・自己推薦入試」では「専門的な知識が身につく」が高くなっている。
- 留学の有無別では、留学経験者の「知的刺激がある」「視野が広がる」のスコアが高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層は、全体で1位の「専門的な知識が身につく」以外にも、「教養が身につく」「知的刺激がある」「視野が広がる」などが、他の層に比べて高く、講義の内容も重視する傾向がみられる。一方、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層は「卒業単位数を満たすため」「単位認定が緩やか」が他の層に比べて高く、内容よりも単位取得の容易さを重視する傾向がある。

■ 科目履修の時に重視する要素（全体/複数回答）

Q31 科目を履修登録する時に、重視する要素は何ですか。（三つまで）



凡例	n	重視する要素																	
		専門的な知識が身につく	講義の時間帯	教養が身につく	面白く楽しい授業	卒業単位数を満たすため	知的刺激がある	単位認定が緩やか	視野が広がる	資格取得に役立つ	教師の人間性	就職に役立つ	大学の選択指示	友達登録するから	時代のニーズに合う	出欠チェックがない	その他	無回答	
全体 時系列	全体[2010]	7,117	36.2	34.2	26.3	35.1	22.9	25.7	24.2	22.9	14.9	13.1	8.5	6.8	5.3	2.5	4.2	1.9	0.5
	全体[2014]	6,791	35.0	33.3	28.6	29.5	25.8	24.0	21.9	21.9	13.8	14.5	7.3	9.3	4.3	3.4	3.0	2.0	0.7
	全体[2017]	12,369	36.4	29.3	28.5	28.5	25.0	23.3	22.2	21.2	15.7	12.1	10.6	8.4	5.4	3.2	2.8	1.7	—
性別	男性	5,518	37.4	25.9	30.7	23.4	25.7	23.7	24.0	21.9	12.3	11.1	12.4	6.9	6.6	4.4	3.5	1.7	—
	女性	6,851	35.6	32.0	26.8	32.5	24.4	23.0	20.7	20.7	18.5	12.9	9.2	9.6	4.4	2.2	2.2	1.6	—
学部系統別	人文科学系	2,783	33.5	33.0	33.5	34.2	23.7	28.3	19.0	21.7	16.5	14.3	7.8	8.4	3.9	2.2	1.7	1.3	—
	法律・政治・社会系	2,378	31.7	33.5	30.0	29.9	24.3	27.4	25.9	22.2	12.7	13.0	10.0	4.3	6.2	3.2	3.1	1.1	—
	商・経済・経営系	2,346	29.5	31.5	27.1	27.5	27.0	18.8	29.6	20.9	12.8	11.8	13.9	4.2	8.4	4.7	4.6	1.2	—
	理・工学	1,597	49.2	27.7	24.2	22.9	30.9	20.4	22.9	17.8	11.5	12.6	12.8	11.3	5.6	3.1	2.1	1.1	—
	看護・保健系	278	47.1	18.3	23.7	17.6	24.1	11.2	12.6	21.6	34.2	7.9	11.2	22.7	2.2	1.4	2.2	2.9	—
	医・歯・薬系	714	41.5	11.8	22.5	14.0	17.4	15.8	11.5	17.4	18.2	5.9	6.2	23.8	2.4	2.4	1.5	9.0	—
学年別	1年	3,963	35.8	29.0	33.0	29.8	22.1	23.4	23.1	21.9	17.5	8.4	12.2	7.3	5.0	3.2	2.3	1.6	—
	2年	2,980	36.2	30.0	27.2	29.1	26.0	21.7	23.4	19.9	17.3	11.7	10.5	8.9	6.2	3.4	3.5	1.7	—
	3年	2,918	36.9	32.4	25.3	27.2	27.3	22.1	23.0	19.2	13.9	14.9	10.4	8.6	6.3	2.5	2.9	1.6	—
	4年	2,186	36.6	26.8	27.4	28.9	26.2	25.8	18.8	24.0	13.6	15.6	8.9	8.4	4.4	3.4	2.7	1.5	—
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	5,498	36.0	32.4	29.9	27.8	24.4	27.2	21.1	20.5	15.5	12.0	9.3	9.0	4.7	3.2	2.7	1.9	—
	センター試験のみ	952	36.7	29.8	31.0	29.3	25.6	28.8	19.5	22.7	13.3	10.6	8.9	8.5	5.5	2.2	2.6	1.6	—
	AO・自己推薦入試	937	43.2	21.2	28.5	27.7	24.2	17.1	19.1	20.8	12.8	12.6	7.8	5.3	3.8	2.0	1.6	—	
	推薦入試	4,555	34.8	27.3	26.3	29.2	26.1	18.7	25.2	21.4	16.1	12.3	12.2	7.8	6.5	2.9	3.1	1.5	—
	その他	427	42.9	26.7	29.5	29.3	20.6	23.7	16.9	26.9	12.2	14.3	9.8	9.1	3.3	5.4	1.9	1.6	—
留学の有無別	留学したことがある	1,144	35.8	28.1	31.8	31.4	19.5	29.9	16.2	26.7	10.9	14.6	9.0	7.4	3.8	4.5	2.7	1.9	—
	留学したことがない	11,225	36.4	29.4	28.2	28.2	25.5	22.6	22.8	20.7	16.2	11.9	10.8	8.5	5.6	3.0	2.8	1.6	—
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	5,343	42.4	27.6	34.7	28.9	20.2	27.1	17.1	24.9	16.5	11.9	11.2	7.4	4.0	3.1	1.4	1.0	—
	正課教育満足度○学生生活充実度×	1,038	35.3	35.4	28.4	27.5	28.1	22.9	21.4	19.7	14.5	11.4	9.5	7.3	3.9	2.8	1.4	2.1	—
	正課教育満足度×学生生活充実度○	3,614	35.1	27.8	25.0	30.3	25.6	21.7	25.7	19.5	16.0	12.6	10.1	9.1	6.3	3.6	4.2	1.8	—
	正課教育満足度×学生生活充実度×	2,374	25.3	32.7	20.1	25.1	33.4	17.5	28.6	16.4	14.2	12.2	10.4	10.2	7.9	2.9	4.2	2.9	—

※「全体[2017]」で降順ソート

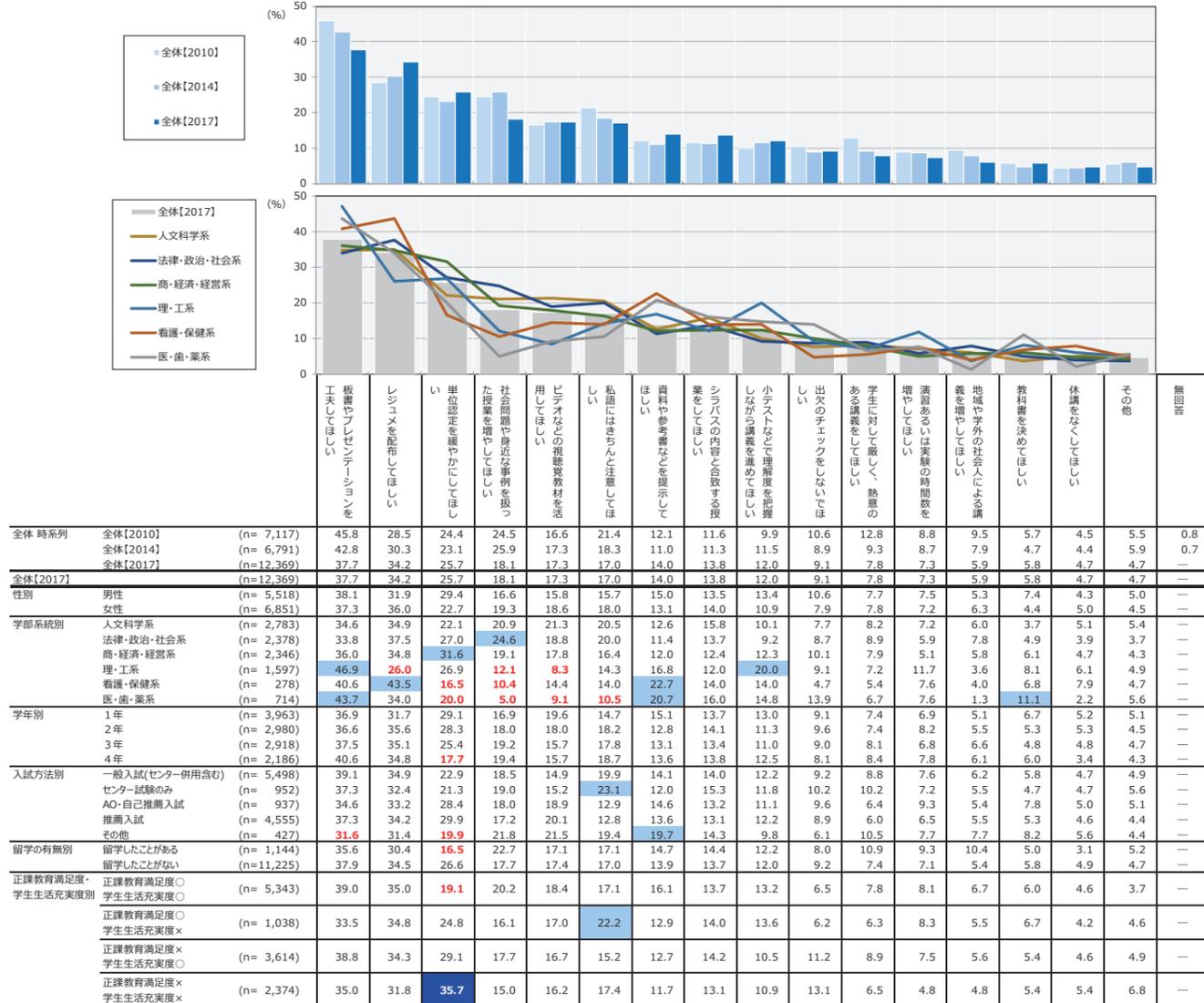
+10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

講義への希望

◆「板書やプレゼンテーションを工夫してほしい」（37.7%）、「レジュメを配布してほしい」（34.2%）が上位項目である。

- 1位は「板書やプレゼンテーションを工夫してほしい」だが、前々回以降は減少傾向（前々回45.8%→今回37.7%）にある。
- 2位の「レジュメを配布してほしい」は前々回以降増加している（前々回28.5%→今回34.2%）。「資料や参考書などを提示してほしい」や、「シラバスの内容と合致する授業をしてほしい」も前回調査から微増しており、講義の参照先提供のニーズは高い。
- 学部系統別みると、「法律・政治・社会系」では「社会問題や身近な事例を扱った授業を増やしてほしい」、「商・経済・経営系」では「単位認定を緩やかにしてほしい」、「理・工学」では「板書やプレゼンテーションを工夫してほしい」「小テストなどで理解度を把握しながら講義を進めてほしい」、「看護・保健系」では「レジュメを配布してほしい」「資料や参考書などを提示してほしい」、「医・歯・薬系」では「板書やプレゼンテーションを工夫してほしい」「資料や参考書などを提示してほしい」「教科書を決めてほしい」がそれぞれ高い。
- 入試方法別みると、「センター試験のみ」では「私語にはきちんと注意してほしい」が高い。
- 留学の有無別では、留学経験者の「単位認定を緩やかにしてほしい」のスコアは、留学未経験者よりも低い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別みると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層は、「単位認定を緩やかにしてほしい」が19.1%であり、相対的に低い。これに対して「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層は35.7%であり、他の層に比べて高くなっている。「私語にはきちんと注意してほしい」は「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層で高いという特徴がある。

■講義への希望（全体／複数回答）
Q 3 2 講義について希望することは何か。（三つまで）



※「全体[2017]」で階層シート
+10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

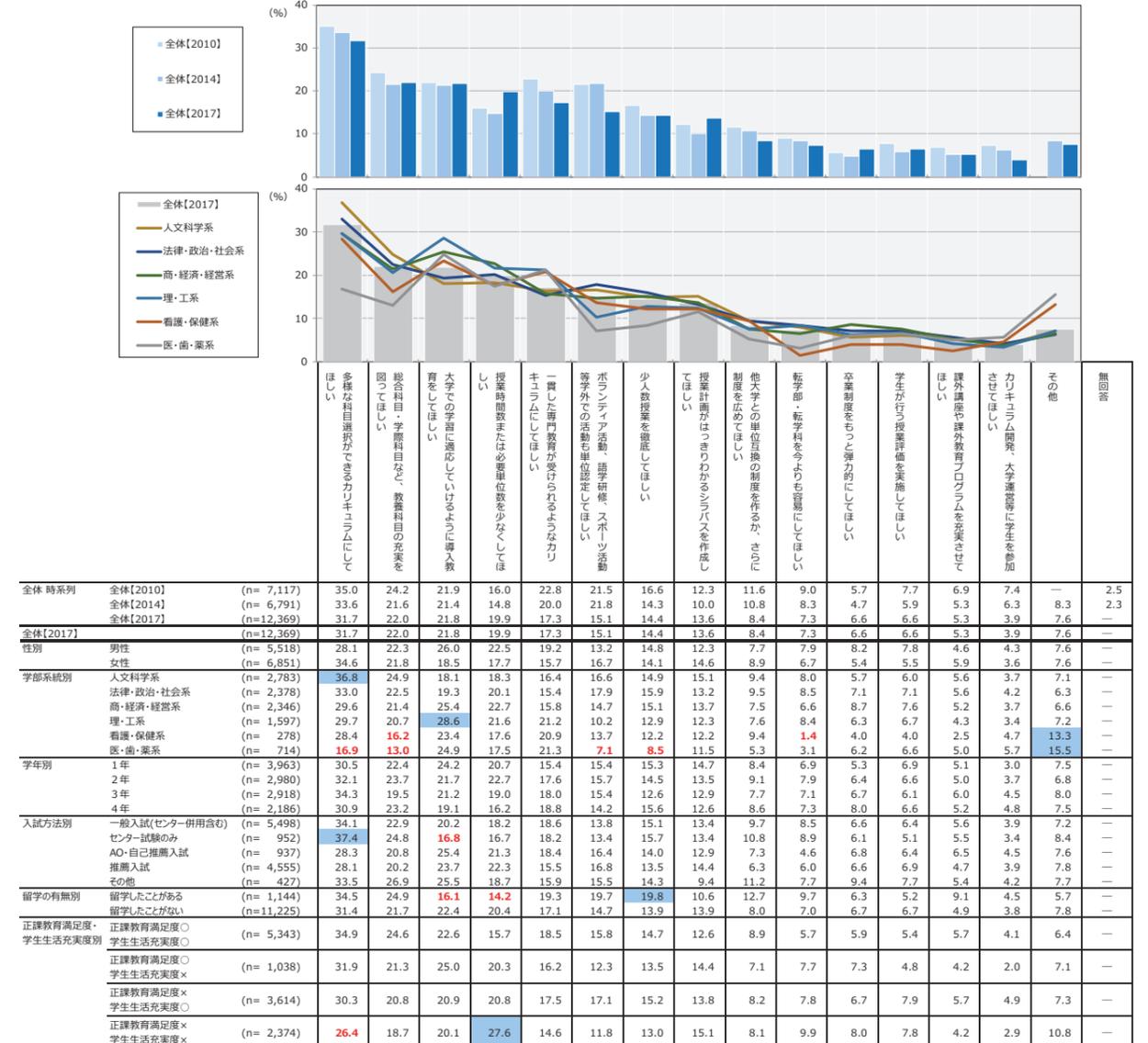
教育内容・方法への期待・要望

◆「多様な科目選択ができるカリキュラムにしてほしい」が1位。
◆「授業時間数または必要単位数を少なくしてほしい」「授業計画がはっきりわかるシラバスを作成してほしい」を希望・期待する学生が増加。

- 全体では「多様な科目選択ができるカリキュラムにしてほしい」が31.7%で1位だが、前々回以降割合は減少している（前々回35.0%→今回31.7%）。同様に、「一貫した専門教育が受けられるようなカリキュラムにしてほしい」など、カリキュラムに関する項目や、「ボランティア活動、語学研修、スポーツ活動等学外での活動も単位認定してほしい」「他大学との単位互換の制度を作るか、さらに制度を広げてほしい」などの、単位認定制度に関する項目も、前回調査から減少。
- 「授業時間数または必要単位数を少なくしてほしい」（前回14.8%→今回19.9%）、「授業計画がはっきりわかるシラバスを作成してほしい」（前回10.0%→今回13.6%）は前回調査より増加した。
- 学部系統別みると、「人文科学系」では「多様な科目選択ができるカリキュラムにしてほしい」、「理・工学」では「大学での学習に適応していけるように導入教育をしてほしい」がそれぞれ他の学部系統に比べて高い。
- 入試方法別みると、「センター試験のみ」の「多様な科目選択ができるカリキュラムにしてほしい」が高いという特徴がある。
- 留学の有無別では、留学経験者の「少人数教育を徹底してほしい」が高く、「大学での学習に適応していけるように導入教育をしてほしい」「授業時間数または必要単位数を少なくしてほしい」が低くなっているのが特徴である。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別みると、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層は「授業時間数または必要単位数を少なくしてほしい」が他の層に比べて高い。

■教育内容・方法への期待・要望（全体／複数回答）

Q 3 3 大学の教育内容や方法に対する期待や要望にはどのようなものがありますか。（三つまで）



※「全体[2017]」で階層シート
+10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け
※「その他」は2014年追加

5章：正課外活動

- **学内の正課外講座・学外の講座や各種学校への参加・通学**

学内の正課外講座・学外の講座や、各種学校への参加・通学者は減少傾向にある。

- **課外活動参加**

課外活動への参加率は63.0%、前回から大幅に減少。

- **課外活動と授業の両立**

「両立している」「まあ両立している」の合計で80.7%と、前回（77.2%）から少し増加。

- **課外活動に参加する目的**

課外活動参加の目的1位の「友人を得る」は、前回より増加。

- **課外活動に参加していない（やめた）理由**

課外活動に参加しないのは、「入りたいクラブがない」「アルバイトと両立できない」「勉強と両立できない」が主な理由。

- **インターンシップ**

インターンシップの参加率・参加意向は年々増加しており、「4年」の45.2%が参加している。

- **ボランティア**

ボランティア参加経験率は24.5%であり、前回（28.8%）から減少。

コメント

課外活動への参加率は63.0%で、前回（70.2%）から大幅に減少した。課外活動に参加しないのは「入りたいクラブがない」「アルバイトと両立できない」「勉強と両立できない」が主な理由。一方、参加している学生の目的は「友人を得る」（41.6%）が1位で、そのスコアは前回（37.0%）から増加している。

インターンシップへの参加率は増加し続けており、「すでに参加した」のは19.5%。「4年」に限ってみると「すでに参加した」は45.2%にのぼり、は前回（21.3%）から倍増。インターンシップへの参加は一般化しつつある。

学内の正課外講座・学外の講座や各種学校への参加・通学

◆学内の正課外講座・学外の講座や、各種学校への参加・通学者は減少傾向にある。

- 学内の正課外講座・学外の講座や各種学校のいずれかに参加している学生（「学内」+「学外」+「両方」）の割合は、前々回以降減少傾向にある（前々回21.0%→今回17.4%）。
- 学部系統別にみると、文系（「人文科学系」「法律・政治・社会系」「商・経済・経営系」）が全般に参加率が高い。
- 学年別にみると、「3年」の参加率が他の学年に比べて高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活満足度○」の層の参加率が他の層よりも高い。
- 受講者の受講内容は、「各種資格試験」（33.8%）が最も多く、次いで「就職対策」（22.1%）、「語学」（21.1%）となる。「パソコン・情報処理」を除いて、すべての項目のスコアが前回調査より増加している。

■正課外講座・学外の講座や各種学校への参加（全体／単一回答）

Q 3 4 現在、資格、技術取得、受験等のために、学内の正課外講座を受講したり、学外の各種学校などに通っていますか。（一つだけ）

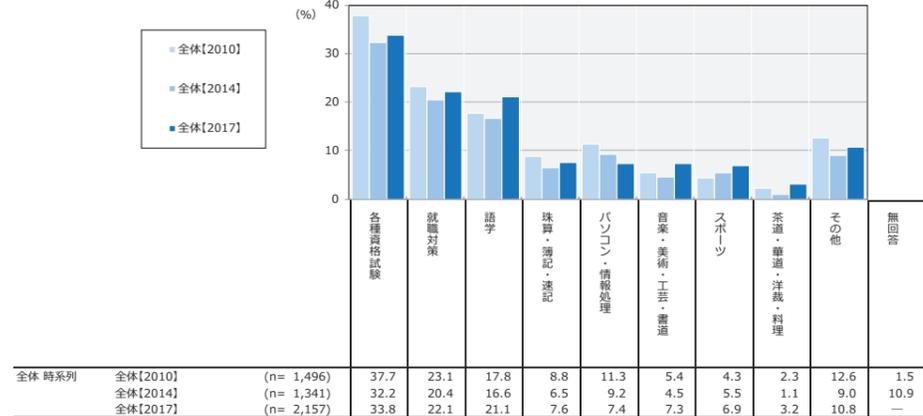
		学内の正課外講座を受講している	学外の講座や各種学校などに通っている	両方している	両方していない	無回答	「学内」+「学外」+「両方」	
●凡例								
全体 時系列	全体【2010】	(n= 7,117)	13.2%	5.9	1.9	78.1	0.9	21.0
	全体【2014】	(n= 6,791)	13.1	5.2	1.5	79.5	0.7	19.8
	全体【2017】	(n=12,369)	10.8	5.5	1.1	82.6	—	17.4
全体【2017】		(n=12,369)	10.8	5.5	1.1	82.6	—	17.4
性別	男性	(n= 5,518)	11.7	5.6	1.5	81.2	—	18.8
	女性	(n= 6,851)	10.2	5.5	0.7	83.6	—	16.4
学部系統別	人文科学系	(n= 2,783)	12.1	4.9	1.1	82.0	—	18.1
	法律・政治・社会系	(n= 2,378)	12.7	7.0	1.0	79.4	—	20.7
	商・経済・経営系	(n= 2,346)	11.7	6.7	1.3	80.2	—	19.7
	理・工系	(n= 1,597)	7.2	3.9	1.0	87.9	—	12.1
	看護・保健系	(n= 278)	5.4	3.2	1.4	89.9	—	10.0
	医・歯・薬系	(n= 714)	7.1	2.7	1.7	88.5	—	11.5
学年別	1年	(n= 3,963)	11.1	3.9	0.9	84.1	—	15.9
	2年	(n= 2,980)	10.1	5.1	1.1	83.7	—	16.3
	3年	(n= 2,918)	13.6	7.0	1.2	78.2	—	21.8
	4年	(n= 2,186)	7.7	6.6	1.2	84.5	—	15.5
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	10.2	6.2	0.9	82.7	—	17.3
	センター試験のみ	(n= 952)	11.3	6.2	0.6	81.8	—	18.1
	AO・自己推薦入試	(n= 937)	13.3	5.4	1.7	79.5	—	20.4
	推薦入試	(n= 4,555)	11.1	4.3	1.1	83.5	—	16.5
	その他	(n= 427)	10.1	7.5	3.3	79.2	—	20.9
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	(n= 5,343)	12.9	5.9	1.1	80.1	—	19.9
	正課教育満足度○学生生活充実度×	(n= 1,038)	9.6	5.4	1.3	83.7	—	16.3
	正課教育満足度×学生生活充実度○	(n= 3,614)	9.9	5.4	0.9	83.8	—	16.2
	正課教育満足度×学生生活充実度×	(n= 2,374)	8.2	4.9	1.2	85.7	—	14.3

『全体』より10ポイント以上高い数値に網掛け：+10
『全体』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：+5
『全体』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：-5

Q34.03

■正課外講座・学外講座・各種学校の受講内容（受講者／複数回答）

Q 3 5 （受講または通っているのは）どのような講座等ですか。（主なもの二つまで）



※「全体【2017】」で階層ソフト

Q35.03

課外活動参加

◆課外活動への参加率は63.0%、前回から大幅に減少。

- 課外活動（クラブ、サークル活動、ボランティア）への参加率（「積極参加」+「熱心ではない」+「参加しているが活動なし」）は、前回調査の70.2%から大きく減少し、63.0%となった。
- 学部系統別にみると、「理・工系」「看護・保健系」の参加率が比較的低い。
- 学年別にみると、学年が低いほど参加率が高い。
- 入試方法別にみると「AO・自己推薦入試」の参加率が他の入試方法に比べてやや低い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、学生生活充実度が「○」の層では70%弱の学生が課外活動に参加しているが、学生生活充実度が「×」の層は50%弱と低い。課外活動への参加率と学生生活充実度との相関が高いことがわかる。

■課外活動への参加（全体／単一回答）

Q 3 7 課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティア)に参加していますか。（一つだけ）

		積極的に参加している	参加しているが熱心ではない	参加しているが活動していない	参加していたがやめた	最初から参加していない	無回答	「積極参加」+「熱心ではない」+「参加しているが活動なし」	
●凡例									
全体 時系列	全体【2010】	(n= 7,117)	49.5%	14.6	5.4	10.7	19.3	0.5	69.5
	全体【2014】	(n= 6,791)	51.4	14.2	4.6	12.7	16.7	0.5	70.2
	全体【2017】	(n=12,369)	42.8	15.3	4.9	14.8	22.2	—	63.0
全体【2017】		(n=12,369)	42.8	15.3	4.9	14.8	22.2	—	63.0
性別	男性	(n= 5,518)	43.5	14.6	4.9	13.5	23.3	—	63.0
	女性	(n= 6,851)	42.2	15.8	4.9	15.8	21.3	—	62.9
学部系統別	人文科学系	(n= 2,783)	44.4	15.7	4.1	14.8	20.9	—	64.2
	法律・政治・社会系	(n= 2,378)	45.5	15.3	4.8	14.6	19.8	—	65.6
	商・経済・経営系	(n= 2,346)	43.9	13.5	5.2	13.5	23.9	—	62.6
	理・工系	(n= 1,597)	33.4	17.1	5.6	17.6	26.4	—	56.1
	看護・保健系	(n= 278)	35.3	15.1	5.4	18.3	25.9	—	55.8
	医・歯・薬系	(n= 714)	40.3	18.1	7.4	16.7	17.5	—	65.8
学年別	1年	(n= 3,963)	46.4	18.5	5.2	5.8	24.1	—	70.1
	2年	(n= 2,980)	44.1	16.4	4.5	13.7	21.4	—	65.0
	3年	(n= 2,918)	43.2	13.8	4.2	17.6	21.0	—	61.2
	4年	(n= 2,186)	35.8	10.6	5.1	26.2	22.3	—	51.5
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	43.4	17.2	4.6	15.5	19.3	—	65.2
	センター試験のみ	(n= 952)	42.8	14.0	5.3	15.0	23.0	—	62.1
	AO・自己推薦入試	(n= 937)	40.7	15.6	4.1	13.1	26.6	—	60.4
	推薦入試	(n= 4,555)	43.6	13.5	5.1	14.1	23.6	—	62.2
	その他	(n= 427)	31.4	11.5	6.8	15.9	34.4	—	49.7
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	(n= 5,343)	50.2	14.2	4.3	12.6	18.7	—	68.7
	正課教育満足度○学生生活充実度×	(n= 1,038)	22.7	18.3	5.9	18.8	34.3	—	46.9
	正課教育満足度×学生生活充実度○	(n= 3,614)	49.2	14.4	4.7	14.3	17.4	—	68.3
	正課教育満足度×学生生活充実度×	(n= 2,374)	25.2	17.7	6.1	18.8	32.2	—	49.0

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：+10
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：+5
『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：-5

Q37.03

課外活動と授業の両立

◆ 課外活動と授業との両立については、前回から少し増加。

- 課外活動の参加率は前回から減少したが、参加者の課外活動と授業との両立については「両立している」+「まあ両立している」が80.7%と、前回（77.2%）から少し増加している。
- 性別にみると、男性よりも女性の方が「両立している」+「まあ両立している」の割合が高い。
- 学部系統別にみると、他の学部系統に比べて「人文科学系」の「両立している」+「まあ両立している」の割合が高い。
- 学年別にみると、他の学年に比べて「4年」の「両立している」+「まあ両立している」の割合が高い。
- 入試方法別にみると、「両立している」+「まあ両立している」の割合が比較的高いのは一般入試（センター併用含む）「センター試験のみ」である。
- 課外活動参加状況別にみると、「積極的に参加」している層の方が、積極性の低い他の層に比べて「両立している」+「まあ両立している」の割合が高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、学生生活充実度が「○」の層は比較的「両立している」+「まあ両立している」の割合が高い。

■ 課外活動と授業の両立（課外活動参加者／単一回答）

Q 3 8 課外活動と授業は両立していますか。（一つだけ）

		両立している	まあ両立している	どちらともいえない	あまり両立していない	両立していない	無回答	「両立している」+「まあ両立」
●凡例								
全体 時系列	全体[2010]	(n= 4,946)	47.5%		29.1	11.5	5.4 5.6	0.9
	全体[2014]	(n= 4,761)	47.1		30.1	11.6	5.7 3.8	1.7
	全体[2017]	(n= 7,792)	41.3		39.4	11.7	5.0 2.6	6.1
全体[2017]		(n= 7,792)	41.3		39.4	11.7	5.0 2.6	6.1
性別	男性	(n= 3,483)	40.4		37.7	12.9	5.8 3.3	78.1
	女性	(n= 4,309)	42.0		40.7	10.8	4.5 2.0	82.7
学部系統別	人文科学系	(n= 1,789)	44.6		39.7	10.1	4.4 1.3	84.3
	法律・政治・社会系	(n= 1,559)	40.4		39.8	11.2	5.3 3.2	80.2
	商・経済・経営系	(n= 1,469)	40.5		38.3	13.2	5.2 2.9	78.8
	理・工系	(n= 895)	36.5		41.2	13.1	5.6 3.6	77.7
	看護・保健系	(n= 155)	36.1		41.3	11.6	6.5 4.5	77.4
	医・歯・薬系	(n= 470)	37.9		40.9	14.0	3.8 3.4	78.8
学年別	1年	(n= 2,779)	39.3		40.8	13.3	4.5 2.1	80.1
	2年	(n= 1,936)	38.6		41.9	11.3	5.5 2.7	80.5
	3年	(n= 1,789)	40.4		39.9	11.5	5.4 2.9	80.3
	4年	(n= 1,126)	51.7		32.5	8.9	4.9 2.0	84.2
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 3,587)	42.0		40.2	10.5	5.1 2.2	82.2
	センター試験のみ	(n= 590)	43.4		37.5	12.4	4.9 1.9	80.9
	AO・自己推薦入試	(n= 565)	38.6		40.0	13.3	6.0 2.1	78.6
	推薦入試	(n= 2,838)	40.3		39.0	12.8	4.8 3.1	79.3
	その他	(n= 212)	44.3		34.4	11.8	5.7 3.8	78.7
課外活動参加状況別	積極的に参加	(n= 5,294)	47.8		39.4	7.6	3.7 1.4	87.2
	参加・熱心ではない	(n= 1,893)	29.9		45.4	15.9	6.2 2.6	75.3
	参加で活動なし・参加なし	(n= 605)	19.7	20.0	34.9	13.4	12.1	39.7
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	(n= 3,672)	48.4		39.4	7.7	2.9 1.7	87.8
	正課教育満足度○学生生活充実度×	(n= 487)	34.3		38.6	15.6	7.4 4.1	72.9
	正課教育満足度×学生生活充実度○	(n= 2,469)	39.3		41.1	11.7	5.8 2.2	80.4
	正課教育満足度×学生生活充実度×	(n= 1,164)	26.1	36.1	23.1	9.3	5.4	62.2

『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：**-5**

Q38.03

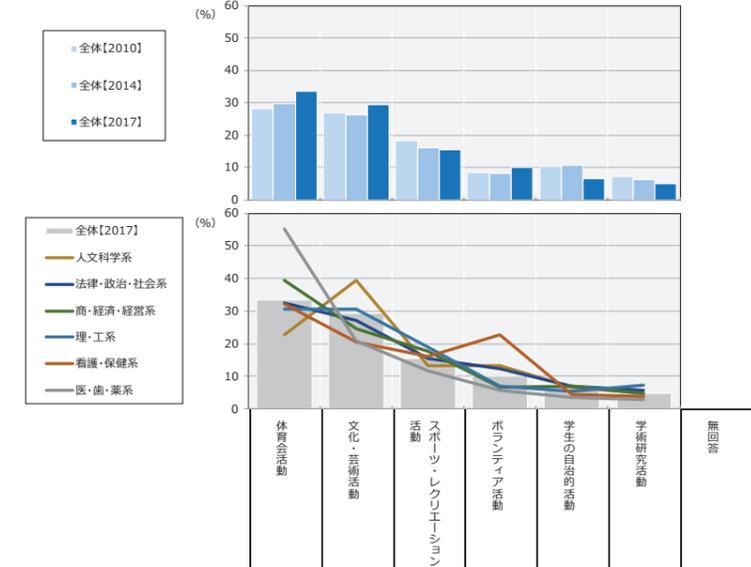
どのような課外活動を好むのか

◆ 課外活動をしている学生に限れば、活動内容1位の「体育会活動」、2位の「文化・芸術活動」とも前回より増加。

- 課外活動参加者の主な活動内容は1位「体育会活動」（33.4%）、2位「文化・芸術活動」（29.3%）ともに30%前後と高い。
- 「体育会活動」は前々回以降増加傾向（前々回28.0%→今回33.4%）であり、「文化・芸術活動」は前回から増加した（前回26.3%→今回29.3%）。3位の「スポーツ・レクリエーション活動」は前々回以降わずかながら減少傾向（前々回18.2%→今回15.6%）にある。
- 性別にみると、男性は「体育会活動」、女性は「文化・芸術活動」が比較的高い。
- 学部系統別にみると、「人文科学系」では「文化・芸術活動」、「商・経済・経営系」では「体育会活動」、「看護・保健系」では「ボランティア活動」、「医・歯・薬系」では「体育会活動」がそれぞれ高いのが特徴である。
- 課外活動参加状況別にみると、「参加・熱心ではない」「参加で活動なし」は「スポーツ・レクリエーション活動」が比較的高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層は「ボランティア活動」が他の層に比べて高い。

■ 課外活動内容（課外活動参加者／単一回答）

Q 4 0 参加している主なクラブ、サークルなどは次のどれですか。（一つだけ）



		体育会活動	文化・芸術活動	スポーツ・レクリエーション活動	ボランティア活動	学生の自治的活動	学術研究活動	無回答
全体 時系列	全体[2010]	(n= 4,946)	28.0	27.0	18.2	8.4	10.3	7.1
	全体[2014]	(n= 4,761)	29.7	26.3	16.2	8.3	10.6	6.2
	全体[2017]	(n= 7,792)	33.4	29.3	15.6	10.2	6.6	4.9
全体[2017]		(n= 7,792)	33.4	29.3	15.6	10.2	6.6	4.9
性別	男性	(n= 3,483)	40.0	23.9	17.7	7.6	5.3	5.5
	女性	(n= 4,309)	28.1	33.6	13.9	12.3	7.7	4.4
学部系統別	人文科学系	(n= 1,789)	22.8	39.4	13.2	13.1	6.7	4.8
	法律・政治・社会系	(n= 1,559)	32.5	27.1	15.3	12.4	7.0	5.7
	商・経済・経営系	(n= 1,469)	39.3	24.7	17.7	6.5	6.9	4.9
	理・工系	(n= 895)	30.7	30.6	19.0	6.9	5.4	7.4
	看護・保健系	(n= 155)	32.3	20.6	16.1	22.6	4.5	3.9
	医・歯・薬系	(n= 470)	55.3	20.9	11.7	5.7	3.6	2.8
学年別	1年	(n= 2,779)	34.0	27.5	18.0	8.9	5.8	5.8
	2年	(n= 1,936)	33.3	29.1	15.7	9.9	7.9	4.3
	3年	(n= 1,789)	31.3	30.6	13.7	12.3	7.2	4.9
	4年	(n= 1,126)	33.9	32.3	13.1	11.1	5.9	3.6
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 3,587)	28.8	33.1	15.6	10.6	6.5	5.5
	センター試験のみ	(n= 590)	28.3	32.5	16.4	12.4	5.3	5.1
	AO・自己推薦入試	(n= 565)	41.4	22.3	14.0	11.0	7.1	4.2
	推薦入試	(n= 2,838)	39.8	25.4	16.0	8.7	6.0	4.1
	その他	(n= 212)	18.4	25.9	12.7	17.9	19.8	5.2
課外活動参加状況別	積極的に参加	(n= 5,294)	37.9	29.0	12.8	9.2	6.9	4.3
	参加・熱心ではない	(n= 1,893)	24.8	30.5	20.9	12.2	6.1	5.5
	参加で活動なし	(n= 605)	21.0	27.6	24.0	13.6	6.1	7.8
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	(n= 3,672)	31.1	31.4	14.6	10.7	7.0	5.2
	正課教育満足度○学生生活充実度×	(n= 487)	26.5	33.3	15.0	15.4	5.7	4.1
	正課教育満足度×学生生活充実度○	(n= 2,469)	37.7	26.3	16.4	8.3	6.7	4.5
	正課教育満足度×学生生活充実度×	(n= 1,164)	34.2	27.1	17.3	10.8	5.8	4.9

※「全体[2017]」で降順ソート

+10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q40.03

課外活動に参加する目的

◆課外活動参加の目的1位の「友人を得る」は、前回より増加。

- 全体では「友人を得る」(41.6%)が1位、次いで「学生生活を楽しむ」(33.6%)、「趣味と一致する」(27.7%)が高い。
- 「友人を得る」(前回37.0%→今回41.6%)と「趣味と一致する」(前回25.2%→今回27.7%)は前回より増加。「就職に有利だと思った」は全体に占める割合は小さいものの、前々回以降増加傾向(前々回5.4%→今回8.6%)にある。
- 性別にみると、男性は「スポーツ技術の向上、競技へ参加する」、女性は「学生生活を楽しむ」が高い。
- 学部系統別にみると、「理・工系」は「趣味と一致する」、「看護・保健系」は「先生や友人との交流を深める」「社会へ貢献する(ボランティアなど)」、「医・歯・薬系」は「学生生活を楽しむ」「先生や友人との交流を深める」がそれぞれ高いという特徴がある。
- 学年別にみると、「1年」は「友人を得る」が他の学年に比べて高い。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」「推薦入試」は特徴的に「スポーツ技術の向上、競技へ参加する」が高い。
- 課外活動参加状況別にみると、「参加・熱心ではない」は「友人を得る」が他の層に比べて高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層は「居場所を確保する」が他の層に比べて高いのが特徴である。

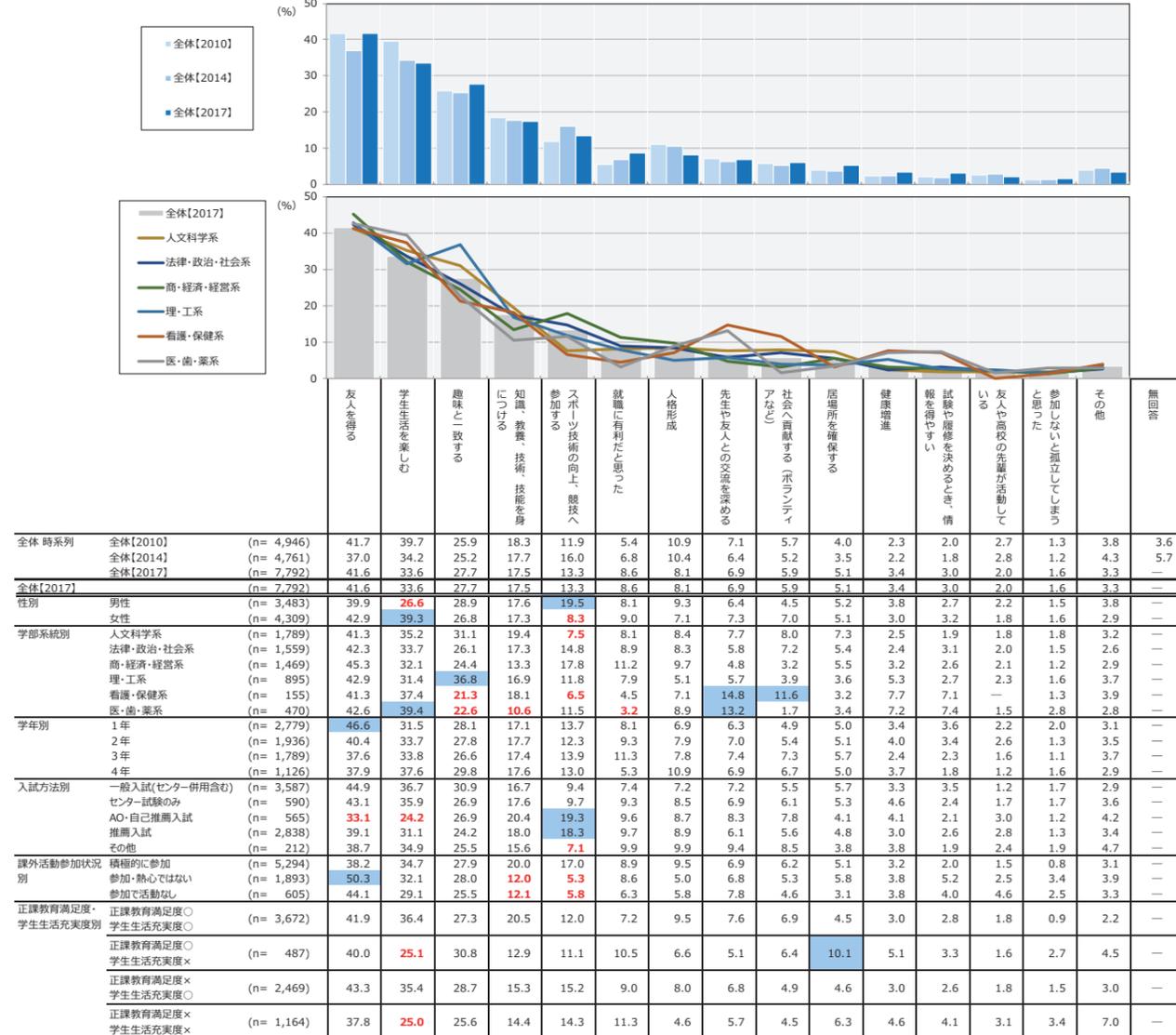
課外活動について満足度の高いもの

◆「友人、居場所を得た」が1位で、目的とも合致している。

- 「友人、居場所を得た」(66.6%)が突出して高い。次いで「知識、教養、技能、技術が身についた」(24.8%)が高い。
- 3位の「人格形成に役立った」は前々回以降減少傾向(前々回24.8%→今回16.3%)にある。
- 性別にみると、男性は「スポーツ競技の向上と競技への参加が果たせた」が女性に比べて高い。
- 学部系統別にみると、「看護・保健系」は「社会への貢献ができた」、「医・歯・薬系」は「スポーツ技術の向上と競技への参加が果たせた」がそれぞれ高いという特徴がある。
- 学年別にみると、「4年」は「人格形成に役立った」「就職に役立ちそうであった(役立った)」が他の学年に比べて高い。
- 課外活動参加状況別にみると、「積極的に参加」層は全般にスコアが高く、一方で参加状況が消極的な層ほど「満足感を持ってなかった」が高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、学生生活充実度が「×」の層は特徴的に「満足感を持ってなかった」が高く、もともと課外活動への参加率が低い、参加していても満足感を得られていない。

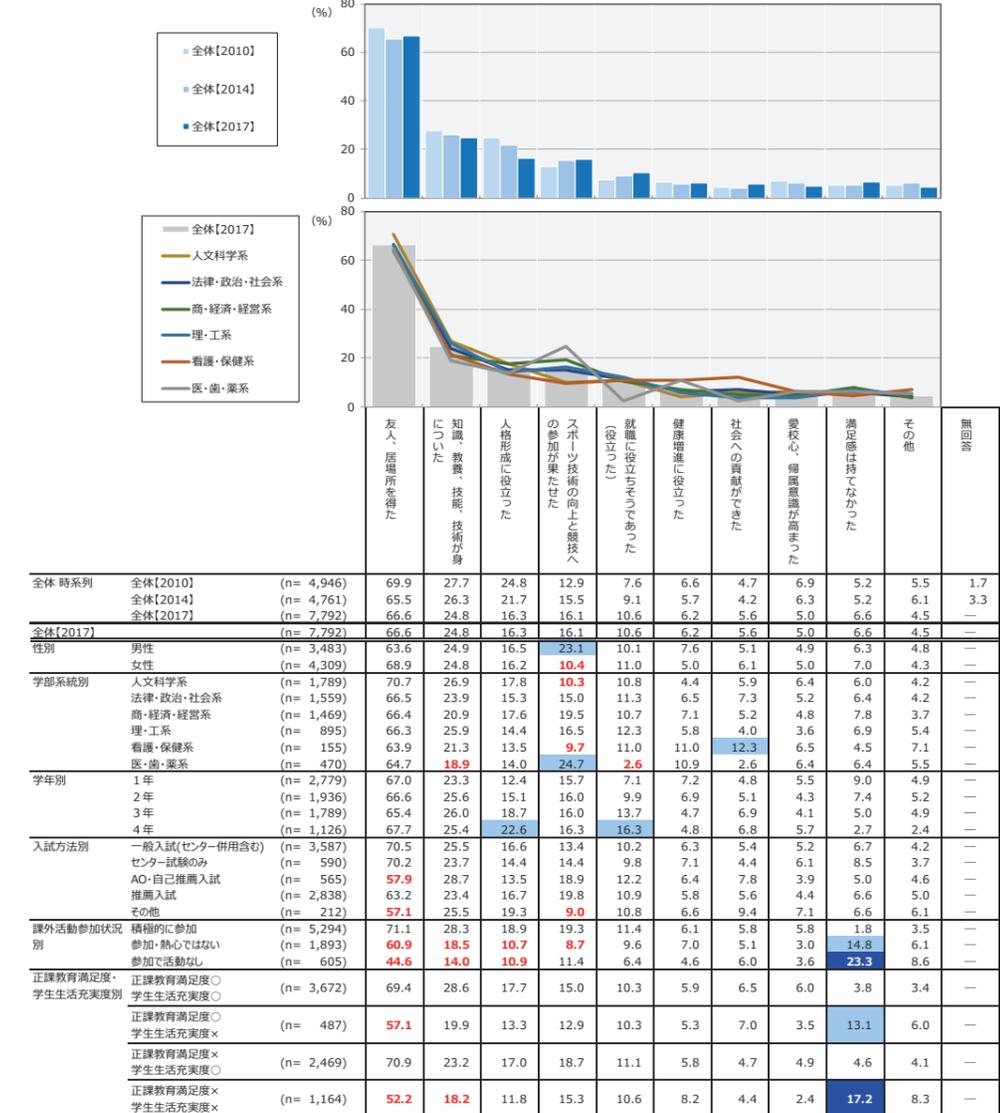
■課外活動に参加する目的(課外活動参加者/複数回答)

Q 4.1 課外活動に参加している理由、目的を選んでください。(二つまで)



■課外活動について満足度の高いもの(課外活動参加者/複数回答)

Q 4.2 課外活動について、満足度の高いものを選んでください。(二つまで)



※「全体[2017]」で階層ノット

+10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

※「全体[2017]」で階層ノット

+10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

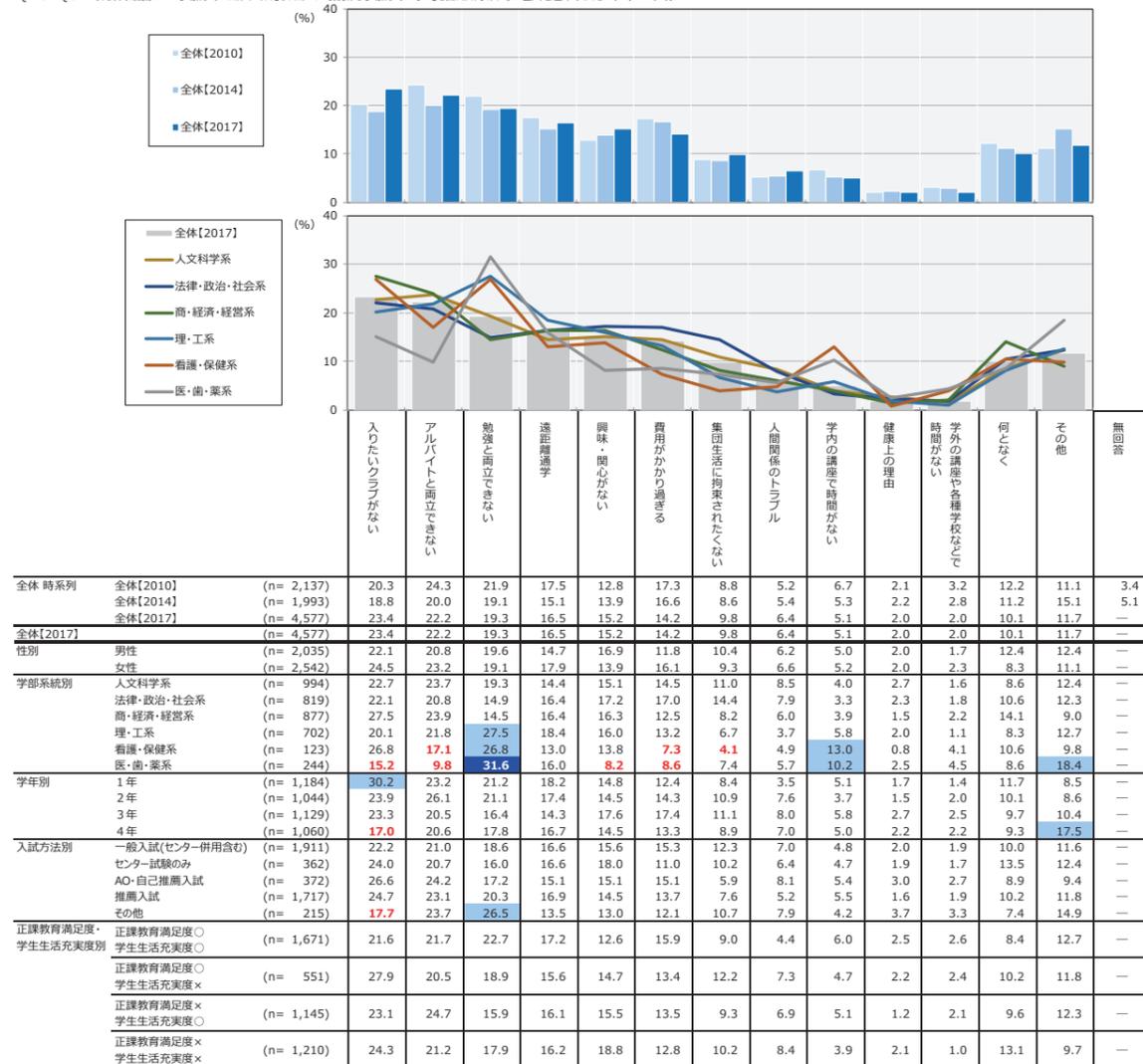
課外活動に参加していない（やめた）理由

◆ 課外活動に参加しないのは、「入りたいクラブがない」「アルバイトと両立できない」「勉強と両立できない」が主な理由。

- 全体では「入りたいクラブがない」（23.4%）が1位で、前回（18.8%）から増加。次いで「アルバイトと両立できない」（22.2%）、「勉強と両立できない」（19.3%）が高い。
- 学部系統別にみると、「勉強と両立できない」は理系（「理・工系」「看護・保健系」「医・歯・薬系」）で比較的高く、「学内の講座で時間がない」は「看護・保健系」「医・歯・薬系」の2系統で高い。
- 学年別にみると、「1年」は「入りたいクラブがない」が他の学年に比べて高い。

■ 課外活動に参加していない（やめた）理由（課外活動中止・不参加者／複数回答）

Q 4 3 Q 3 7で、課外活動に「4 参加していないがやめた」または「5 最初から参加していない」と答えた方は、その理由を選んでください。（二つまで）



※「全体【2017】」で降順ソート
 +10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q43.03

インターンシップ

◆ インターンシップの参加率・参加意向は年々増加しており、「4年」の45.2%が参加している。

- 「すでに参加した」+「ぜひ参加したい」の割合は前々回の22.7%から今回は42.1%まで大きく増加した。特に「4年」では「すでに参加した」が45.2%と多く、前回（21.3%）から倍増している。
- 性別にみると、男性よりも女性の方が参加率（＝「すでに参加した」）が高い。
- 学部系統別にみると、最も参加率が高いのは「理・工系」（26.4%）。比較的参加率が低いのは「看護・保健系」（16.5%）と「医・歯・薬系」（9.1%）。
- 学年別にみると、学年が上がるほど参加率が高く、「3年」で35.0%、「4年」で45.2%が参加経験がある。
- 入試方法別では、「すでに参加した」+「ぜひ参加したい」の割合でみると、「一般入試（センター併用含む）」「センター試験のみ」が比較的インターンに積極的な学生の割合が高い。
- 奨学金受給状況別にみると、受給の有無では大きな差はみられない。
- 留学の有無別にみると、留学経験者は「すでに参加した」が34.0%であり、留学未経験者（18.0%）に比べて参加率が高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、学生生活充実度が「○」の層の参加率が比較的高い。

■ インターンシップへの参加意向（全体／単一回答）

Q 3 6 インターンシップに参加したいと思いませんか。（一つだけ）

		すでに参加した	ぜひ参加したい	興味はある	興味はない	わからない	無回答	「すでに参加した」+「参加したい」
●凡例								
全体 時系列	全体【2010】 (n= 7,117)	10.8%	11.9	45.2	14.0	16.7	1.5	22.7
	全体【2014】 (n= 6,791)	13.7	13.1	42.9	15.9	13.7	0.7	26.8
	全体【2017】 (n=12,369)	19.5	22.6	36.5	11.4	10.0	—	42.1
学年別 時系列	4年【2010】 (n= 1,390)	21.0	4.7	36.8	22.6	13.5	1.3	25.7
	4年【2014】 (n= 1,365)	21.3	4.2	32.8	31.4	9.9	0.4	25.5
	4年【2017】 (n= 2,186)	45.2	4.8	19.2	21.1	9.7	—	50.0
全体【2017】	(n=12,369)	19.5	22.6	36.5	11.4	10.0	—	42.1
性別	男性 (n= 5,518)	17.9	20.3	36.6	14.7	10.5	—	38.2
	女性 (n= 6,851)	20.8	24.4	36.4	8.9	9.6	—	45.2
学部系統別	人文科学系 (n= 2,783)	17.0	21.6	40.1	12.5	8.9	—	38.6
	法律・政治・社会系 (n= 2,378)	20.9	24.9	35.9	11.3	7.1	—	45.8
	商・経済・経営系 (n= 2,346)	20.0	25.5	35.5	10.8	8.1	—	45.5
	理・工系 (n= 1,597)	26.4	22.7	34.1	9.5	7.4	—	49.1
	看護・保健系 (n= 278)	16.5	18.7	35.6	6.8	22.3	—	35.2
	医・歯・薬系 (n= 714)	9.1	9.4	34.7	18.6	28.2	—	18.5
学年別	1年 (n= 3,963)	2.4	29.6	44.9	8.7	14.3	—	32.0
	2年 (n= 2,980)	7.0	32.9	43.5	8.8	7.7	—	39.9
	3年 (n= 2,918)	35.0	17.6	31.9	9.8	5.8	—	52.6
	4年 (n= 2,186)	45.2	4.8	19.2	21.1	9.7	—	50.0
入試方法別	一般入試(センター併用含む) (n= 5,498)	20.5	22.7	35.7	12.0	9.0	—	43.2
	センター試験のみ (n= 952)	21.2	25.1	35.4	10.5	7.8	—	46.3
	AO・自己推薦入試 (n= 937)	17.1	22.3	35.2	12.7	12.7	—	39.4
	推薦入試 (n= 4,555)	18.3	22.2	38.0	10.5	11.0	—	40.5
	その他 (n= 427)	20.4	20.6	34.4	14.1	10.5	—	41.0
奨学金受給状況別	奨学金を受けている (n= 4,909)	19.5	22.8	37.0	10.9	9.8	—	42.3
	奨学金を受けていない (n= 7,460)	19.5	22.4	36.1	11.8	10.1	—	41.9
留学の有無別	留学したことがある (n= 1,144)	34.0	25.1	26.0	10.0	4.9	—	59.1
	留学したことがない (n=11,225)	18.0	22.3	37.5	11.6	10.5	—	40.3
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○ (n= 5,343)	21.8	24.3	35.4	10.0	8.6	—	46.1
	正課教育満足度○学生生活充実度× (n= 1,038)	17.7	18.9	41.7	11.5	10.2	—	36.6
	正課教育満足度×学生生活充実度○ (n= 3,614)	19.9	23.0	35.1	12.0	9.9	—	42.9
	正課教育満足度×学生生活充実度× (n= 2,374)	14.4	19.7	38.6	14.0	13.2	—	34.1

『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：+10
 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：+5
 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：-5

Q36.03

ボランティア

◆ ボランティア参加経験率は24.5%であり、前回（28.8%）から減少。

- 大学入学後のボランティア参加経験が「ある」学生は24.5%。前回（28.8%）から減少している。
- 性別にみると、女性（27.7%）の方が男性（20.5%）よりもボランティア参加経験率が高い。
- 学部系統別にみると、「看護・保健系」の参加率が最も高く、38.1%が参加している。次いで参加経験率が高いのは「法律・政治・社会系」「人文科学系」で30%弱が参加。
- 学年が上がるにつれ、ボランティア参加経験率も上昇する。「1年」では15.2%にとどまるが、「4年」では34.0%に達し、3人に1人がボランティアに参加した経験を持っている。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」が他の入試方法に比べて参加経験率が高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、学生生活充実度が「○」の層のボランティア参加経験率が高く、ボランティアに参加することが、学生生活の充実に影響を及ぼしていることがわかる。

■ 大学入学後のボランティア活動への参加有無（全体／単一回答）

Q 4 4 大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。（一つだけ）

		ある	ない	無回答
●凡例				
全体 時系列	全体【2010】 (n= 7,117)	26.5%	72.7	0.9
	全体【2014】 (n= 6,791)	28.8	70.4	0.7
	全体【2017】 (n=12,369)	24.5	75.5	—
全体【2017】	(n=12,369)	24.5	75.5	—
性別	男性 (n= 5,518)	20.5	79.5	—
	女性 (n= 6,851)	27.7	72.3	—
学部系統別	人文科学系 (n= 2,783)	27.4	72.6	—
	法律・政治・社会系 (n= 2,378)	28.4	71.6	—
	商・経済・経営系 (n= 2,346)	17.9	82.1	—
	理・工系 (n= 1,597)	15.6	84.4	—
	看護・保健系 (n= 278)	38.1	61.9	—
	医・歯・薬系 (n= 714)	20.0	80.0	—
学年別	1年 (n= 3,963)	15.2	84.8	—
	2年 (n= 2,980)	23.1	76.9	—
	3年 (n= 2,918)	30.8	69.2	—
	4年 (n= 2,186)	34.0	66.0	—
入試方法別	一般入試(センター併用含む) (n= 5,498)	24.5	75.5	—
	センター試験のみ (n= 952)	24.6	75.4	—
	AO・自己推薦入試 (n= 937)	31.4	68.6	—
	推薦入試 (n= 4,555)	22.3	77.7	—
	その他 (n= 427)	32.6	67.4	—
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○ (n= 5,343)	27.6	72.4	—
	正課教育満足度○学生生活充実度× (n= 1,038)	17.8	82.2	—
	正課教育満足度×学生生活充実度○ (n= 3,614)	25.9	74.1	—
	正課教育満足度×学生生活充実度× (n= 2,374)	18.3	81.7	—

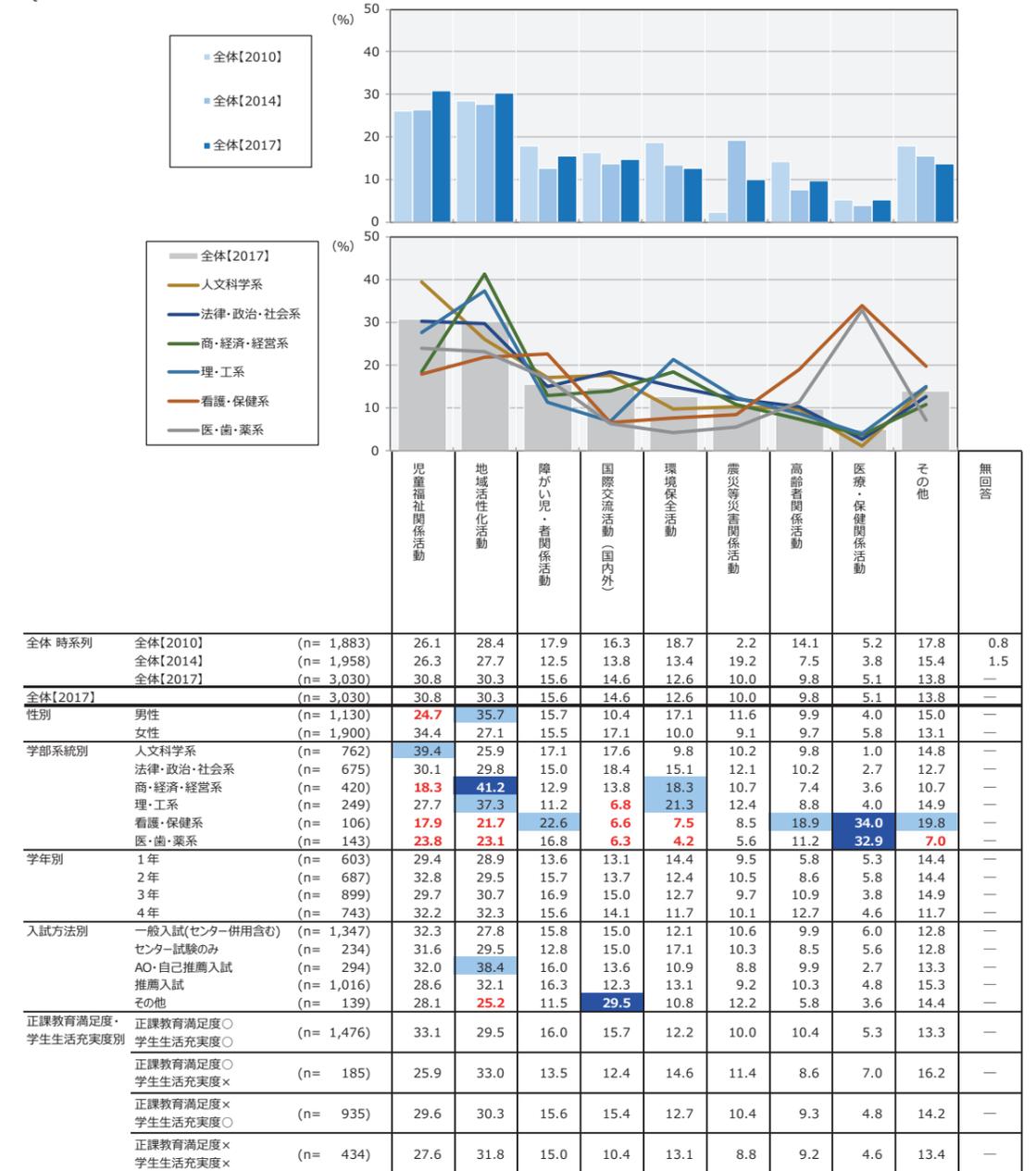
Q44.03

ボランティア活動の内容

- ボランティア活動の具体的な内容として多く挙げられたのは「児童福祉関係活動」（30.8%）と「地域活性化活動」（30.3%）で、いずれも前回調査から増加。なお、「震災等災害関係活動」は前回から大きく減少した（前回19.2%→今回10.0%）。
- 性別にみると、男性の「地域活性化活動」が女性に比べて高い。
- 学部系統別にみると、「人文科学系」では「児童福祉関係活動」、「商・経済・経営系」「理・工系」では「地域活性化活動」「環境保全活動」、「看護・保健系」では「障がい児・者関係活動」「高齢者関係活動」「医療・保健関係活動」、「医・歯・薬系」では「医療・保健関係活動」がそれぞれ高いという特徴がある。
- 入試方法別では「AO・自己推薦入試」の「地域活性化活動」が高い。

■ ボランティア活動の内容（ボランティア経験者／複数回答）

Q 4 5 どのようなボランティア活動に参加しましたか。（主なものを三つまで）



※「全体【2017】」で降順ソート

+10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け

+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け

-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q45.03

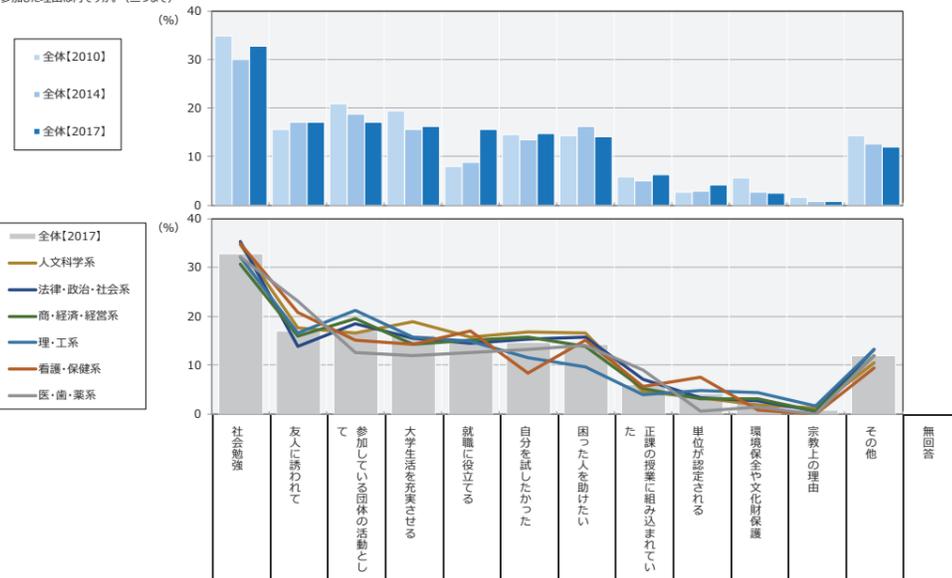
ボランティア活動に参加する理由

- 参加の理由で最も多く挙げられたのは「社会勉強」（32.8%）である。また、「就職に役立つ」が前回調査から大きく増加しているのも特徴である（前回8.8%→今回15.6%）。
- 学部系統別にみると、「医・歯・薬系」では特徴的に「友人に誘われて」が高い。
- 学年別にみると、「1年」は「参加している団体の活動として」が他の学年に比べて高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層では「社会勉強」「就職に役立つ」が他の層に比べて高いという特徴がある。

6章：留学

■ ボランティア活動に参加する理由（ボランティア経験者／複数回答）

Q 4 6 ボランティア活動に参加した理由は何ですか。（二つまで）



		社会勉強	友人に誘われて	参加している団体の活動として	大学生活を充実させる	就職に役立つ	自分を試したかった	困った人を助けたい	正課の授業に組み込まれていない	単位が認定される	環境保全や文化財保護	宗教上の理由	その他	無回答
全体 時系列	全体【2010】	34.8	15.5	20.9	19.4	8.0	14.5	14.3	5.9	2.7	5.6	1.6	14.4	2.6
	全体【2014】	30.0	17.0	18.7	15.6	8.8	13.4	16.2	5.0	3.0	2.6	0.8	12.6	4.0
	全体【2017】	32.8	17.0	17.0	16.2	15.6	14.8	14.2	6.2	4.2	2.5	0.8	12.0	—
全体【2017】	(n= 3,030)	32.8	17.0	17.0	16.2	15.6	14.8	14.2	6.2	4.2	2.5	0.8	12.0	—
性別	男性	31.8	18.3	17.9	14.6	12.8	15.8	14.2	5.0	3.6	3.5	1.3	13.8	—
	女性	33.5	16.2	16.4	17.2	17.3	14.1	14.2	6.9	4.5	2.0	0.4	10.9	—
学部系統別	人文科学系	34.6	17.6	16.5	18.9	15.7	16.9	16.7	4.7	3.4	1.8	1.2	10.6	—
	法律・政治・社会系	35.4	13.9	18.4	15.6	14.5	15.3	15.7	7.1	3.3	2.8	0.6	13.2	—
	商・経済・経営系	30.7	16.0	19.5	14.3	15.2	15.7	13.8	5.2	3.1	3.1	0.7	11.9	—
	理・工学系	32.1	16.5	21.3	15.7	14.9	11.6	9.6	4.0	4.8	4.4	1.6	13.3	—
	看護・保健系	34.9	20.8	15.1	14.2	17.0	8.5	15.1	5.7	7.5	0.9	—	9.4	—
	医・歯・薬系	32.2	23.1	12.6	11.9	12.6	13.3	14.0	9.1	0.7	1.4	—	11.9	—
学年別	1年	27.9	14.9	23.5	18.7	10.9	14.8	12.8	6.0	6.0	2.8	1.3	12.8	—
	2年	32.9	17.5	15.6	15.4	16.2	14.7	14.0	5.8	5.2	1.9	0.6	12.4	—
	3年	33.3	16.2	16.4	15.6	17.6	14.6	13.2	7.0	3.4	2.2	0.6	13.5	—
	4年	35.9	18.2	14.4	16.2	18.0	14.3	14.4	6.2	3.0	3.1	0.8	8.9	—
	入試方法別	一般入試(センター併用含む)	33.6	18.4	19.2	17.8	14.7	13.7	14.4	5.9	3.2	2.7	0.6	10.8
	センター試験のみ	37.6	14.1	16.2	12.4	20.5	13.7	15.0	6.0	4.7	1.7	0.4	13.7	—
	AO・自己推薦入試	34.4	18.4	14.3	15.3	12.2	15.0	11.2	9.5	7.8	3.1	—	12.6	—
	推薦入試	31.0	15.6	15.8	15.0	17.0	15.7	13.9	5.9	4.7	2.3	0.9	12.2	—
	その他	28.1	15.1	10.8	18.7	13.7	18.7	19.4	4.3	0.7	3.6	3.6	17.3	—
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	33.7	18.0	16.5	20.1	13.7	16.2	15.7	5.2	3.4	2.5	0.6	11.0	—
	正課教育満足度○学生生活充実度×	37.8	20.5	14.1	14.1	21.1	16.2	10.3	3.8	6.5	1.6	1.1	7.0	—
	正課教育満足度×学生生活充実度○	31.9	15.2	18.8	13.0	16.1	13.9	12.9	7.5	4.5	2.9	0.3	13.0	—
	正課教育満足度×学生生活充実度×	29.7	15.9	15.7	10.8	18.9	11.1	13.4	7.6	5.1	2.3	2.1	15.0	—

※「全体【2017】」で降順ソート

+10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q46.03

● 留学経験の有無

留学経験者は9.2%。前回（8.3%）から微増。

● 留学意向（未経験者）

留学未経験者の33.2%は留学意向がある。

● 留学を考えない理由

理由のトップは「留学資金がない」。「興味がない」が前回調査より増加。「外国生活に不安がある」は大幅減少。

コメント

留学未経験者の33.2%は留学意向があるものの、実際の留学経験者は全体の9.2%に留まっている。前回（8.3%）に比べると、留学経験率はわずかではあるが増加している。

「留学を考えない理由」の1位は「留学資金がない」で非意向者の半数近く（47.7%）が理由に挙げており、留学を阻む大きな原因となっている。

留学経験の有無

◆ 留学経験者は9.2%。前回（8.3%）から微増。

- 留学経験が「ある」と回答した学生の比率は9.2%で、前回（8.3%）からわずかではあるが増加した。
- 女性の留学経験率は11.4%であり、男性を大きく上回る。学部系統別では、「人文社会系」「法律・政治・社会系」の同スコアが10%以上である。
- 学年別にみると、「2年」「3年」で前学年よりもスコアが大きく上昇している。特に「2年」での留学経験が多いことがわかる。
- 経済状況別にみると、「経済状況は余裕がある」層の留学経験率は11.7%であり、「経済状況は苦しい」層より4ポイント程度高い。
- 奨学金受給状況別には、奨学金受給者の留学経験率は8.0%。奨学金非受給者よりも低い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、学生生活充実度が「○」の層の留学経験率は10%前後であり、他の層よりも高い。留学経験が学生生活充実度に影響を与えていることがわかる。

■ 大学入学後の留学経験（全体／単一回答）

Q 4 7 大学入学後、留学をしたことがありますか。（一つだけ）

			ある	ない	無回答
●凡例					
全体 時系列	全体[2014]	(n= 6,791)	8.3%	91.0	0.6
	全体[2017]	(n=12,369)	9.2	90.8	
全体[2017]		(n=12,369)	9.2	90.8	
性別	男性	(n= 5,518)	6.6	93.4	
	女性	(n= 6,851)	11.4	88.6	
学部系統別	人文科学系	(n= 2,783)	12.1	87.9	
	法律・政治・社会系	(n= 2,378)	10.3	89.7	
	商・経済・経営系	(n= 2,346)	6.8	93.2	
	理・工学	(n= 1,597)	7.3	92.7	
	看護・保健系	(n= 278)	5.4	94.6	
	医・歯・薬系	(n= 714)	6.7	93.3	
学年別	1年	(n= 3,963)	3.0	97.0	
	2年	(n= 2,980)	9.2	90.8	
	3年	(n= 2,918)	13.1	86.9	
	4年	(n= 2,186)	13.2	86.8	
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	9.8	90.2	
	センター試験のみ	(n= 952)	10.3	89.7	
	AO・自己推薦入試	(n= 937)	8.6	91.4	
	推薦入試	(n= 4,555)	8.0	92.0	
	その他	(n= 427)	14.3	85.7	
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 3,729)	11.7	88.3	
	経済状況は苦しい	(n= 4,162)	7.6	92.4	
奨学金受給状況別	奨学金を受けている	(n= 4,909)	8.0	92.0	
	奨学金を受けていない	(n= 7,460)	10.1	89.9	
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	(n= 5,343)	10.9	89.1	
	正課教育満足度○学生生活充実度×	(n= 1,038)	7.2	92.8	
	正課教育満足度×学生生活充実度○	(n= 3,614)	9.4	90.6	
	正課教育満足度×学生生活充実度×	(n= 2,374)	6.1	93.9	

Q47.03

留学意向（未経験者）

◆ 留学未経験者の33.2%は留学意向がある。

- 留学未経験者に留学意向を尋ねると、全体では33.2%が「留学したい・する予定がある」（以下、「留学意向率」）と回答し、前回（32.5%）と同程度である。
- 留学経験率と同様に、男性より女性の留学意向率が高い。
- 学部系統別にみると、「人文社会系」「法律・政治・社会系」の留学意向率が高い。留学経験率の低い「看護・保健系」「医・歯・薬系」も30%を超えている。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」「推薦入試」に比べて、「一般入試（センター併用含む）」「センター試験のみ」の方が留学意向率が高い。
- 経済状況別、奨学金受給状況別にみると、経済状況や受給状況によって留学意向には大きな差はみられない。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、学生生活充実度が「○」の層は他の層に比べて留学意向率が高い。

■ 留学意向（留学未経験者／単一回答）

Q 4 8 今後留学してみたいと思いますか。（一つだけ）

			留学したい・する予定がある	留学は考えていない	わからない	無回答
●凡例						
全体 時系列	全体[2014]	(n= 6,180)	32.5%	52.0	12.5	2.9
	全体[2017]	(n=11,225)	33.2	52.9	13.9	
全体[2017]		(n=11,225)	33.2	52.9	13.9	
性別	男性	(n= 5,155)	28.4	55.6	16.0	
	女性	(n= 6,070)	37.4	50.6	12.0	
学部系統別	人文科学系	(n= 2,447)	37.6	51.1	11.3	
	法律・政治・社会系	(n= 2,134)	35.9	51.2	12.8	
	商・経済・経営系	(n= 2,187)	29.9	54.3	15.8	
	理・工学	(n= 1,480)	27.3	58.4	14.3	
	看護・保健系	(n= 263)	32.7	55.5	11.8	
	医・歯・薬系	(n= 666)	33.5	48.3	18.2	
学年別	1年	(n= 3,844)	43.5	41.0	15.6	
	2年	(n= 2,705)	35.3	50.6	14.0	
	3年	(n= 2,537)	25.0	63.3	11.7	
	4年	(n= 1,898)	21.5	65.6	12.9	
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 4,958)	35.2	52.0	12.9	
	センター試験のみ	(n= 854)	37.7	51.8	10.5	
	AO・自己推薦入試	(n= 856)	30.7	52.1	17.2	
	推薦入試	(n= 4,191)	30.4	55.1	14.5	
	その他	(n= 366)	35.8	44.3	19.9	
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 3,293)	33.9	52.7	13.4	
	経済状況は苦しい	(n= 3,846)	35.7	52.0	12.3	
奨学金受給状況別	奨学金を受けている	(n= 4,515)	32.7	53.4	13.9	
	奨学金を受けていない	(n= 6,710)	33.6	52.5	13.8	
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	(n= 4,760)	34.6	52.4	13.0	
	正課教育満足度○学生生活充実度×	(n= 963)	27.8	59.2	13.0	
	正課教育満足度×学生生活充実度○	(n= 3,274)	34.8	51.0	14.2	
	正課教育満足度×学生生活充実度×	(n= 2,228)	30.4	54.0	15.6	

Q48.03

留学を考えない理由

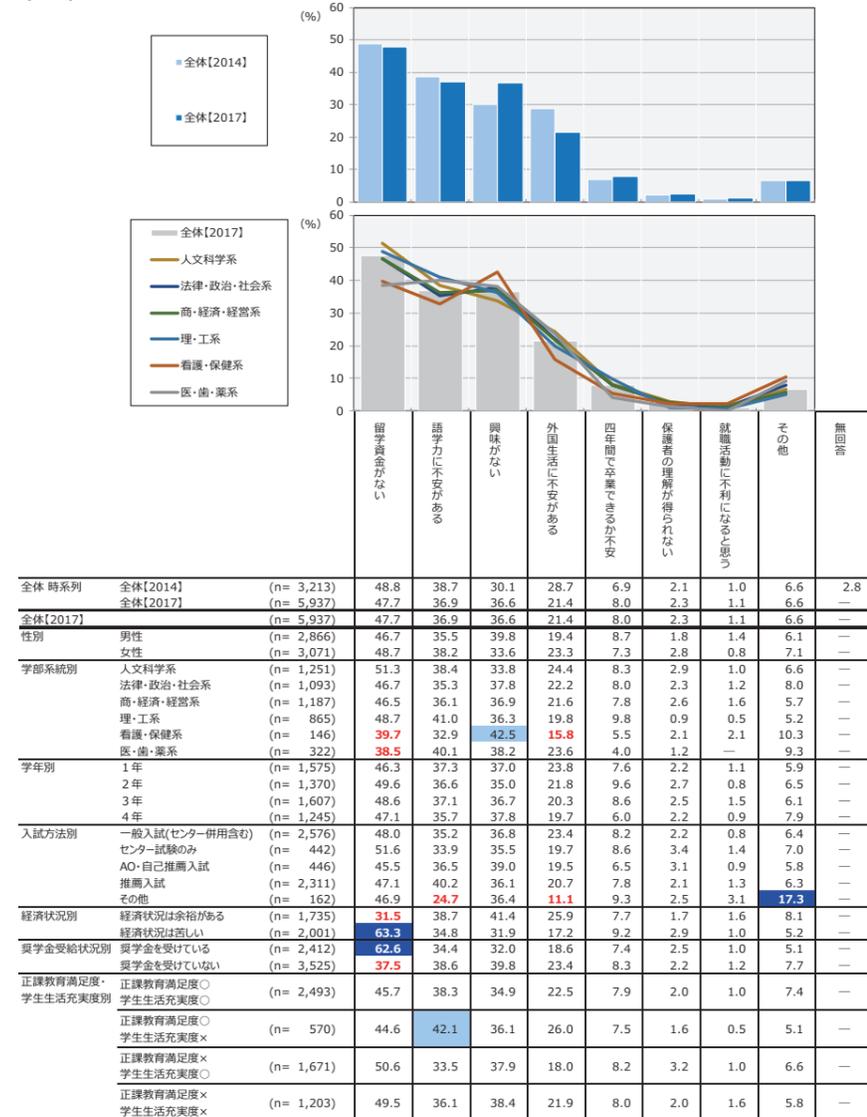
◆理由のトップは「留学資金がない」。

◆「興味がない」が前回調査より増加。「外国生活に不安がある」は大幅減少。

- 留学意向のない学生について、さらにその理由を尋ねたところ、「留学資金がない」（47.7%）が1位。次いで「語学力に不安がある」（36.9%）、「興味がない」（36.6%）が高い。「興味がない」は前回より増加（前回30.1%→今回36.6%）、「外国生活に不安がある」は前回より減少している（前回28.7%→今回21.4%）。
- 学部系統別にみると、「看護・保健系」では「興味がない」が高いという特徴がある。
- 経済状況別、奨学金受給状況別にみると、「経済状況は苦しい」層と奨学金受給者の「留学資金がない」のスコアが60%を超えている。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別では、留学経験率、留学意向率も低かった「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層の「語学力に不安がある」が高いという特徴がある。「興味がない」の比率は他の層と差がなく、語学力がひとつのネックになっていると推測できる。

■留学を考えない理由（留学非意向者／複数回答）

Q49 Q48で「留学は考えていない」と答えた方は、その理由を選んでください。（二つまで）



※「全体[2017]」で降順ソート

+10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

Q49.03

7章：不安・悩み

● 自分のことを何でも話せる友人の有無

自分のことを何でも話せる友人が「いる」と回答した学生は80.3%。前回（83.5%）から減少。

● 不安・悩みの内容

悩みの内容の1位は「就職や将来の進路」だが、前々回以降減少傾向にある。「友人等との対人関係」が、前回から大きく増加。

● 不安・悩みの相談相手

「友人」や「先輩」への相談は減少。

● ハラスメントについて

ハラスメントを「受けたことがある」は5.6%で、前回（9.3%）から減少。

● ハラスメントの内容

ハラスメントの内容で回答が多かったのは、「アカデミック・ハラスメント」（25.2%）、「セクシュアル・ハラスメント」（19.7%）、「いじめ」（17.2%）の順となった。

コメント

【不安・悩みの内容】の1位は「就職や将来の進路」だが、就職活動を取り巻く環境の改善からか、スコアは減少傾向にある。

1章・3章では人間関係・友人関係への興味が薄くなっている傾向が見られたが、一方で【不安・悩みの内容】では「友人等との対人関係」が、前回から大きく増加。また、自分のことを何でも話せる友人が「いる」と回答した学生は80.3%で前回から減少しており、【不安・悩みの相談相手】の「友人」「先輩」は減少している。

自分のことを何でも話せる友人の有無

◆自分のことを何でも話せる友人が「いる」と回答した学生は80.3%。前回（83.5%）から減少。

- 性別にみると、男性よりも女性の方が「いる」の割合が高い。
- 学部系統別にみると、「いる」の割合が最も高いのは「商・経済・経営系」（83.2%）、最も低いのは「理・工系」（77.1%）。
- 学年別にみると、学年があがるほど「いる」の割合は高く、「4年」で83.5%となる。
- 入試方法別にみると、比較的「いる」の割合が高いのは「AO・自己推薦入試」「推薦入試」。「いる」の割合が最も低いのは「センター試験のみ」の74.9%。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、学生生活充実度が「○」の層は「いる」が80%を超えて高いが、「×」の層は70%弱であり、両者の差が大きい。学生生活充実度には、「自分のことを何でも話せる友人」の存在が大きく関わっている。

■自分のことを何でも話せる友人の有無（全体／単一回答）

Q50 現在、自分のことを何でも話せる友人がいますか。（一つだけ）

		いる	いない	無回答
●凡例				
全体 時系列	全体【2010】 (n= 7,117)	82.7%	16.6	0.8
	全体【2014】 (n= 6,791)	83.5	15.9	0.6
	全体【2017】 (n=12,369)	80.3	19.7	—
全体【2017】	(n=12,369)	80.3	19.7	—
性別	男性 (n= 5,518)	78.3	21.7	—
	女性 (n= 6,851)	81.9	18.1	—
学部系統別	人文科学系 (n= 2,783)	78.8	21.2	—
	法律・政治・社会系 (n= 2,378)	81.1	18.9	—
	商・経済・経営系 (n= 2,346)	83.2	16.8	—
	理・工系 (n= 1,597)	77.1	22.9	—
	看護・保健系 (n= 278)	80.6	19.4	—
	医・歯・薬系 (n= 714)	81.9	18.1	—
学年別	1年 (n= 3,963)	79.0	21.0	—
	2年 (n= 2,980)	80.0	20.0	—
	3年 (n= 2,918)	80.4	19.6	—
	4年 (n= 2,186)	83.5	16.5	—
入試方法別	一般入試(センター併用含む) (n= 5,498)	78.6	21.4	—
	センター試験のみ (n= 952)	74.9	25.1	—
	AO・自己推薦入試 (n= 937)	82.4	17.6	—
	推薦入試 (n= 4,555)	83.1	16.9	—
	その他 (n= 427)	79.9	20.1	—
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○ 学生生活充実度○ (n= 5,343)	85.9	14.1	—
	正課教育満足度○ 学生生活充実度× (n= 1,038)	67.1	32.9	—
	正課教育満足度× 学生生活充実度○ (n= 3,614)	84.2	15.8	—
	正課教育満足度× 学生生活充実度× (n= 2,374)	67.6	32.4	—

Q50.03

不安・悩みの内容

◆悩みの内容の1位は「就職や将来の進路」だが、前々回以降減少傾向にある。

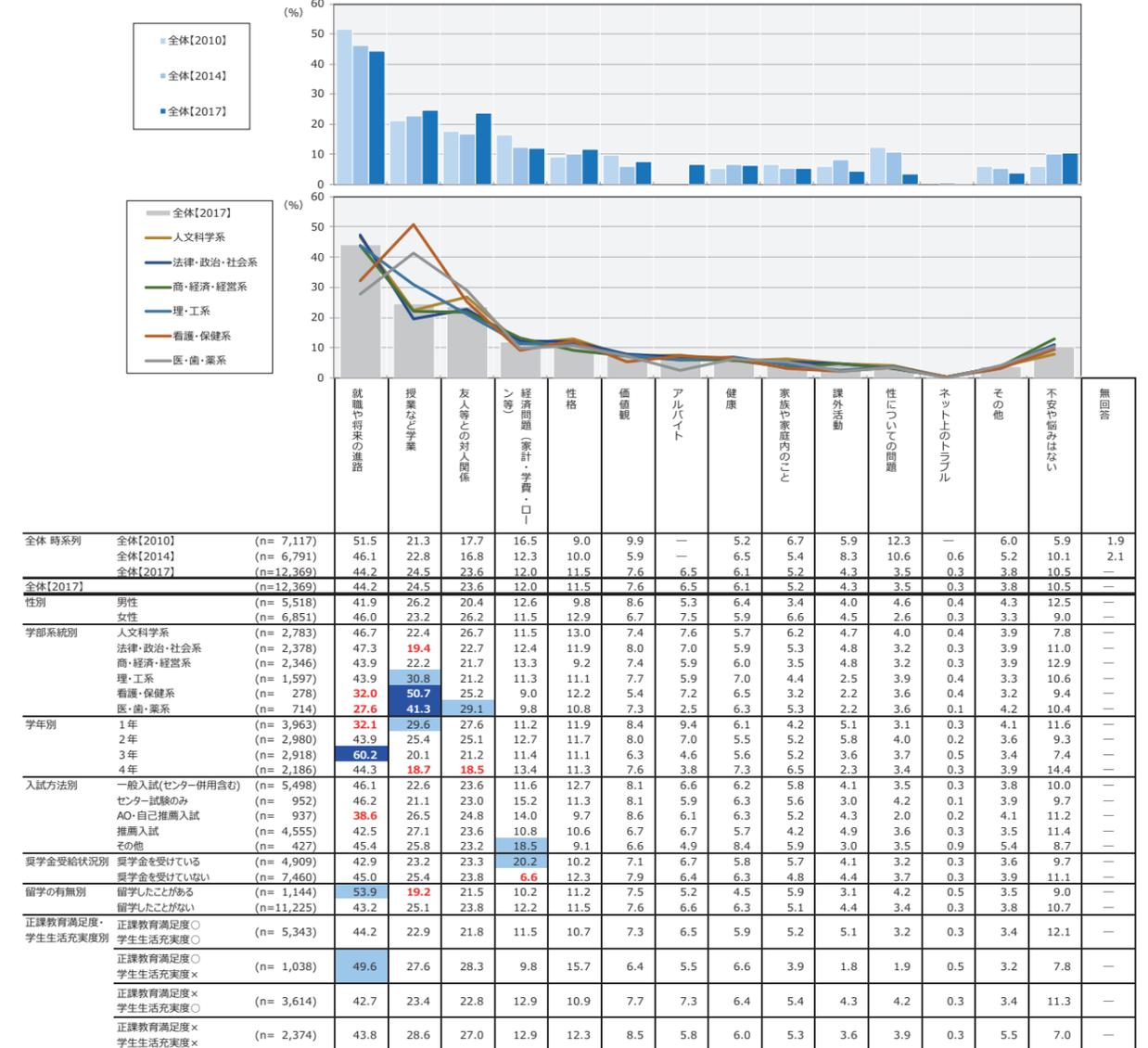
◆「友人等との対人関係」が、前回から大きく増加。

- 「就職や将来の進路」が44.2%で1位だが、前々回（51.5%）から減少傾向にある。同様に、「経済問題（家計・学費・ローン等）」も徐々に減少している。「授業など学業」や「性格」は増加傾向にある。また、「友人等との対人関係」（23.6%）は前回（16.8%）から大きく増加。景気変動に影響を受けると考えられる「就職や将来の進路」や「経済問題（家計・学費・ローン等）」の不安や悩みが後退し、眼前の学業や対人関係の不安や悩みがせりあがってきたとも推測できる。

- 学部系統別では、理系（「理・工系」「看護・保健系」「医・歯・薬系」）の「授業など学業」のスコアが高い。「医・歯・薬系」では「友人等との対人関係」が他の学部系統に比べて高い。
- 学年別にみると、「3年」は「就職や将来の進路」が60.2%と高く、就職活動を前に不安を抱えていることが分かる。
- 奨学金受給状況別にみると、奨学金受給者は「経済問題（家計・学費・ローン等）」が比較的高い。
- 留学の有無別にみると、留学経験者の「就職や将来の進路」も相対的に高い。この点については、77ページで確認する。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度×」の層の「就職や将来の進路」が他の層に比べて高い。

■不安・悩みの内容（全体／複数回答）

Q51 いま、あなたに不安や悩みがあるとすれば、それはどのようなものですか。（二つまで）



※「全体【2017】」で階層ソート
+10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け
※「ネット上のトラブル」は2014年追加／「アルバイト」は2017年追加
／「性についての問題」は2017年文言変更、2014年までは「異性問題」

Q51.03

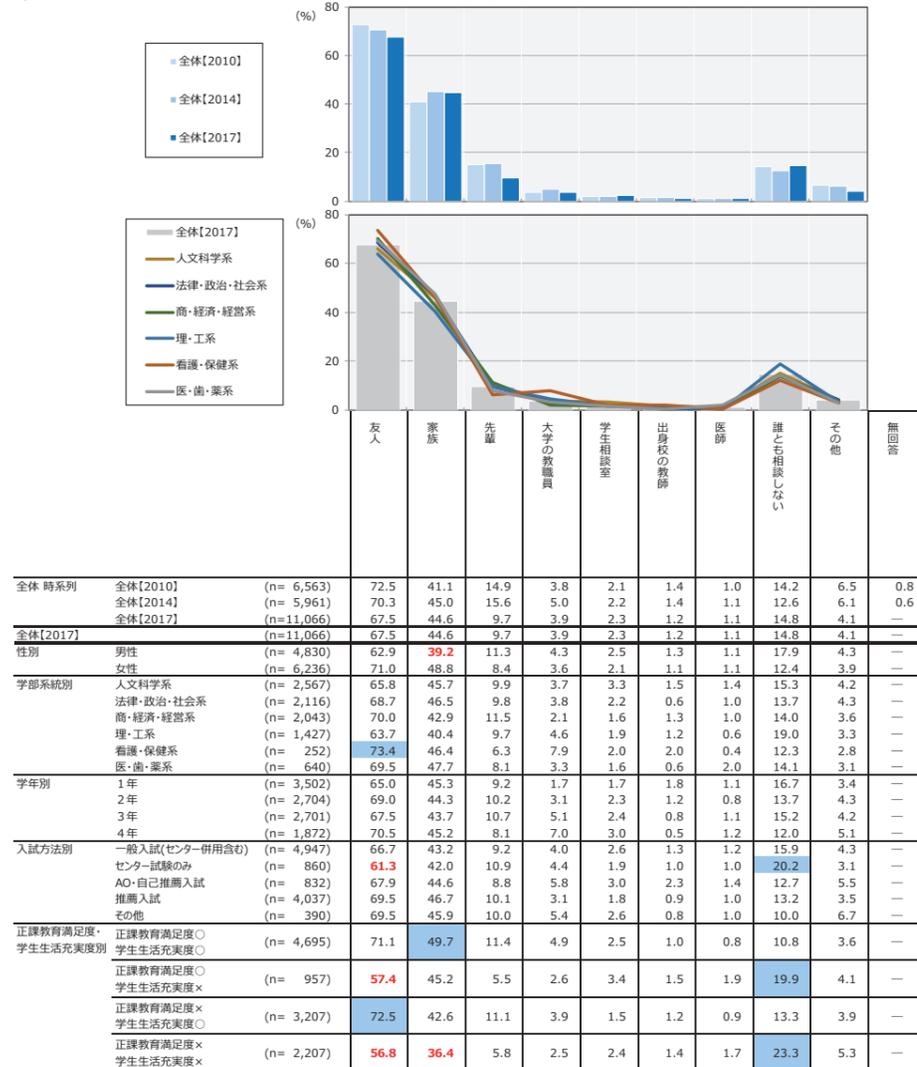
不安・悩みの相談相手

◆「友人」や「先輩」への相談は減少。

- 不安・悩みの主な相談相手の1位は「友人」だが、前々回以降減少傾向にある（前々回72.5%→今回67.5%）。「先輩」も前回から減少。一方で「誰とも相談しない」はわずかながら前回から増加している（前回12.6%→今回14.8%）。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「家族」が低い。
- 学部系統別にみると、「看護・保健系」は「友人」が他の学部系統に比べて高い。
- 入試方法別にみると、「センター試験のみ」は他の入試方法に比べて「友人」が低く、「誰とも相談しない」が高い。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度○学生生活充実度○」の層は「家族」、「正課教育満足度×学生生活充実度○」の層は「友人」がそれぞれ他の層に比べて高い。学生生活充実度が「×」の層は「誰とも相談しない」が20%近くと比較的高い。

■不安・悩みの相談相手（悩みあり回答者／複数回答）

Q 5 2 その不安や悩みについて誰に相談しましたか。または相談しようと思っていますか。主な相談相手を選んでください。（二つまで）



※「全体【2017】」で階層ソート
 +10 : 『全体【2017】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体【2017】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

ハラスメントについて

◆ハラスメントを「受けたことがある」は5.6%で、前回（9.3%）から減少。

- 大学生生活においてハラスメントを「受けたことがある」と回答したのは5.6%で、前回（9.3%）から減少。
- 学部系統別にみると、「医・歯・薬系」は「受けたことがある」が9.2%と他の学部系統に比べて高い。
- 学年別にみると、学年があがるほど「受けたことがある」の割合は高く、「3年」で7.1%、「4年」で7.3%となる。
- 正課教育満足度・学生生活充実度別にみると、「正課教育満足度×学生生活充実度×」の層の「受けたことがある」が7.7%と他の層に比べて高い。

■大学生生活でのハラスメント経験（全体／単一回答）

Q 5 3 あなたは大学生生活においてハラスメント<いやがらせ>等を受けた(感じた)ことがありますか。（一つだけ）

			受けたことがない	受けたことがある	無回答
●凡例					
全体 時系列	全体【2010】	(n= 7,117)	86.7%	7.2	6.1
	全体【2014】	(n= 6,791)	89.9	9.3	0.8
	全体【2017】	(n=12,369)	94.4	5.6	—
全体【2017】		(n=12,369)	94.4	5.6	—
性別	男性	(n= 5,518)	94.2	5.8	—
	女性	(n= 6,851)	94.6	5.4	—
学部系統別	人文科学系	(n= 2,783)	94.6	5.4	—
	法律・政治・社会系	(n= 2,378)	94.4	5.6	—
	商・経済・経営系	(n= 2,346)	95.1	4.9	—
	理・工系	(n= 1,597)	94.1	5.9	—
	看護・保健系	(n= 278)	95.3	4.7	—
	医・歯・薬系	(n= 714)	90.8	9.2	—
学年別	1年	(n= 3,963)	96.9	3.1	—
	2年	(n= 2,980)	94.9	5.1	—
	3年	(n= 2,918)	92.9	7.1	—
	4年	(n= 2,186)	92.7	7.3	—
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 5,498)	94.9	5.1	—
	センター試験のみ	(n= 952)	94.0	6.0	—
	AO・自己推薦入試	(n= 937)	93.3	6.7	—
	推薦入試	(n= 4,555)	94.7	5.3	—
	その他	(n= 427)	89.9	10.1	—
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○	(n= 5,343)	95.8	4.2	—
	正課教育満足度○学生生活充実度×	(n= 1,038)	94.3	5.7	—
	正課教育満足度×学生生活充実度○	(n= 3,614)	93.9	6.1	—
	正課教育満足度×学生生活充実度×	(n= 2,374)	92.3	7.7	—

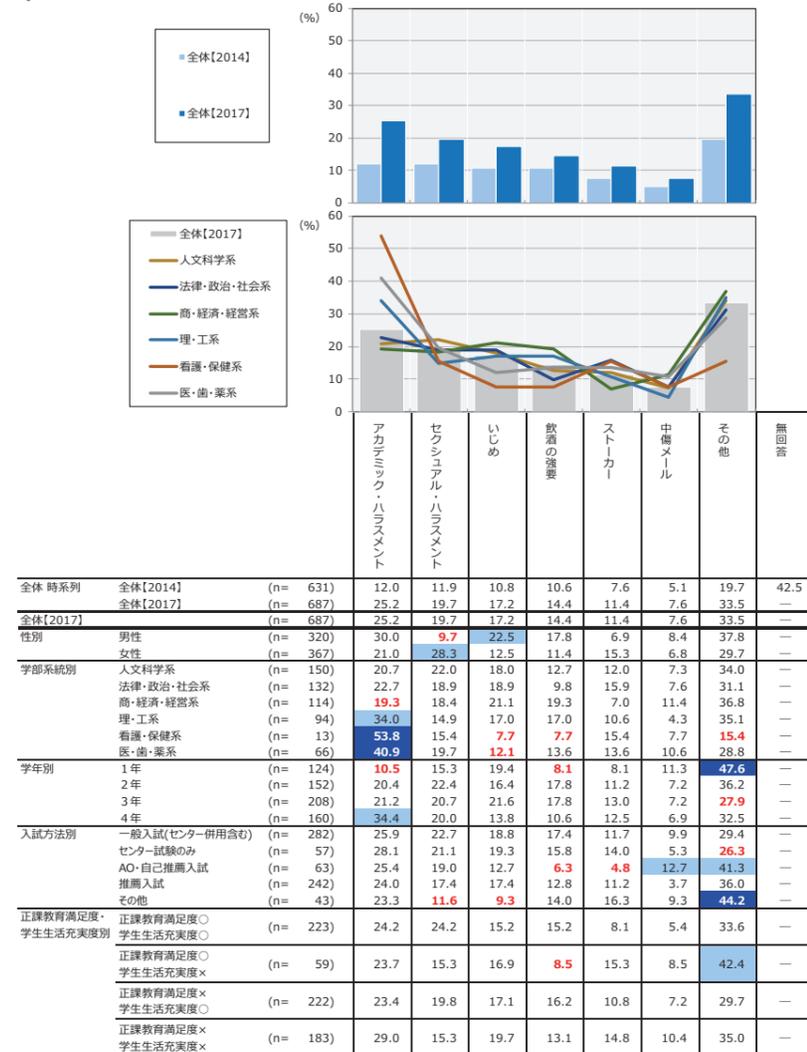
ハラスメントの内容（ハラスメント経験者）

- ハラスメントの内容で回答が多かったのは、「アカデミック・ハラスメント」（25.2%）、「セクシュアル・ハラスメント」（19.7%）、「いじめ」（17.2%）の順となった。
- 性別にみると、男性は「いじめ」、女性は「セクシュアル・ハラスメント」がそれぞれ高いという特徴がある。
- 学部系統別にみると、理系（「理・工系」「看護・保健系」「医・歯・薬系」）で特徴的に「アカデミック・ハラスメント」の割合が高い。
- 学年別にみると、「アカデミック・ハラスメント」は学年があがるほど高く、「4年」で34.4%。「飲酒の強要」は「1年」（8.1%）は最も低く、「2年」「3年」（ともに17.8%）で高い。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」は「中傷メール」が他の入試方法に比べて高い。

8章：進路・就職

■ハラスメント<いやがらせ>の内容（ハラスメント経験者／複数回答）

Q54 ハラスメント<いやがらせ>等の内容は次のとおりです。（すべて）



全体時系列	全体【2014】	(n= 631)	12.0	11.9	10.8	10.6	7.6	5.1	19.7	42.5
全体【2017】	25.2	(n= 687)	19.7	17.2	14.4	11.4	7.6	33.5	—	—
性別	男性	(n= 320)	30.0	9.7	22.5	17.8	6.9	8.4	37.8	—
	女性	(n= 367)	21.0	28.3	12.5	11.4	15.3	6.8	29.7	—
学年別	1年	(n= 124)	10.5	15.3	19.4	8.1	8.1	11.3	47.6	—
	2年	(n= 152)	20.4	22.4	16.4	17.8	11.2	7.2	36.2	—
	3年	(n= 208)	21.2	20.7	21.6	17.8	13.0	7.2	27.9	—
	4年	(n= 160)	34.4	20.0	13.8	10.6	12.5	6.9	32.5	—
入試方法別	一般入試(センター併用含む)	(n= 282)	25.9	22.7	18.8	17.4	11.7	9.9	29.4	—
	センター試験のみ	(n= 57)	28.1	21.1	19.3	15.8	14.0	5.3	26.3	—
	AO・自己推薦入試	(n= 63)	25.4	19.0	12.7	6.3	4.8	12.7	41.3	—
	推薦入試	(n= 242)	24.0	17.4	17.4	12.8	11.2	3.7	36.0	—
	その他	(n= 43)	23.3	11.6	9.3	14.0	16.3	9.3	44.2	—
正課教育満足度・学生生活充実度別	正課教育満足度○ 学生生活充実度○	(n= 223)	24.2	24.2	15.2	15.2	8.1	5.4	33.6	—
	正課教育満足度○ 学生生活充実度×	(n= 59)	23.7	15.3	16.9	8.5	15.3	8.5	42.4	—
	正課教育満足度× 学生生活充実度○	(n= 222)	23.4	19.8	17.1	16.2	10.8	7.2	29.7	—
	正課教育満足度× 学生生活充実度×	(n= 183)	29.0	15.3	19.7	13.1	14.8	10.4	35.0	—

※「全体【2017】」で階層ゾート
※2010年は設問の形式が異なるため、データ非掲載

● 就職への不安

「就職できるかどうか」の不安は減り、「就職すること自体」への不安が増加している。

● 希望する進路

希望進路の1位は「民間企業・団体」で変化はないが、前回から減少。「公務員（国家、地方）」は31.3%で安定。

● どんな民間企業を志望するか

“自分の能力”よりも“待遇”。「給与の高いところ」「福利厚生が充実しているところ」など、待遇の良さを重視する傾向が鮮明に。

コメント

就職活動を取り巻く環境の改善からか、「就職できるかどうか」の不安は減少。一方で「就職すること自体」への不安が増加している。

【どんな民間企業を志望するか】については「給与の高いところ」「福利厚生が充実しているところ」は増加しており、待遇の良さを重視する傾向が強くなっている。一方で、「自分の能力を活かせるところ」は前々回以降減少している。

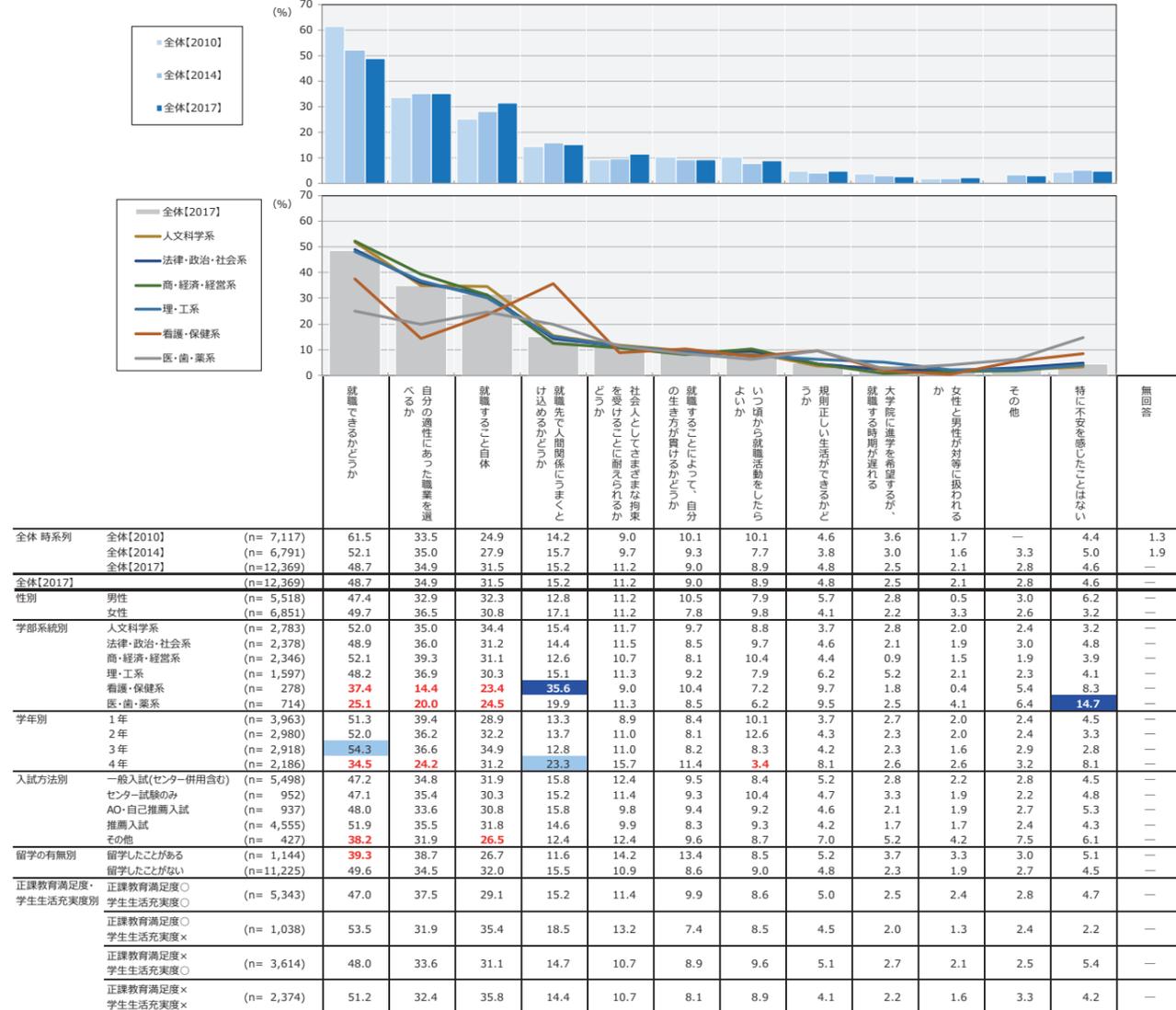
就職への不安

◆「就職できるかどうか」の不安は減り、「就職すること自体」への不安が増加している。

- ・「就職への不安」の1位は、「就職できるかどうか」(48.7%)であることは変わらないが、前々回(61.5%)から減少傾向にある。一方で、「就職すること自体」(31.5%)は前々回(24.9%)から大きく増加している。景況感の回復に応じた結果と推測される。
- ・72ページにおいて、「就職や将来の進路」の不安・悩みは、留学未経験者よりも留学経験者のスコアの方が高いことを確認した。留学の有無別にみると、留学経験者は未経験者に比べて「就職できるかどうか」の割合が低く(留学経験者39.3%、未経験者49.6%)、「自分の適性にあった職業を選ぶか」「社会人としてさまざまな拘束を受けることに耐えられるかどうか」「就職することによって、自分の生き方が買けるかどうか」などが高くなっている。つまり、留学経験者は、就職後のことも踏まえ、自分に合う就職ができるかどうか不安な学生が多いと推測される。
- ・学年別にみると、「就職できるかどうか」は「3年」までは学年が上がるほど高いが「4年」は34.5%と相対的に低い。一方で「4年」は「就職先で人間関係にうまくとけ込めるかどうか」が他の学年に比べて高い。
- ・学部系統別にみると、「看護・保健系」「医・歯・薬系」では他の学部系統に比べて「就職できるかどうか」「自分の適性にあった職業を選ぶか」「就職すること自体」は低い。一方で「看護・保健系」では「就職先で人間関係にうまくとけ込めるかどうか」が35.6%と高い。「医・歯・薬系」では「特に不安を感じたことがない」が高いことが特徴である。

■就職への不安(全体/複数回答)

Q55 就職について次のような不安を感じたことがありますか。(二つまで)



※「全体[2017]」で降順ソート
 +10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

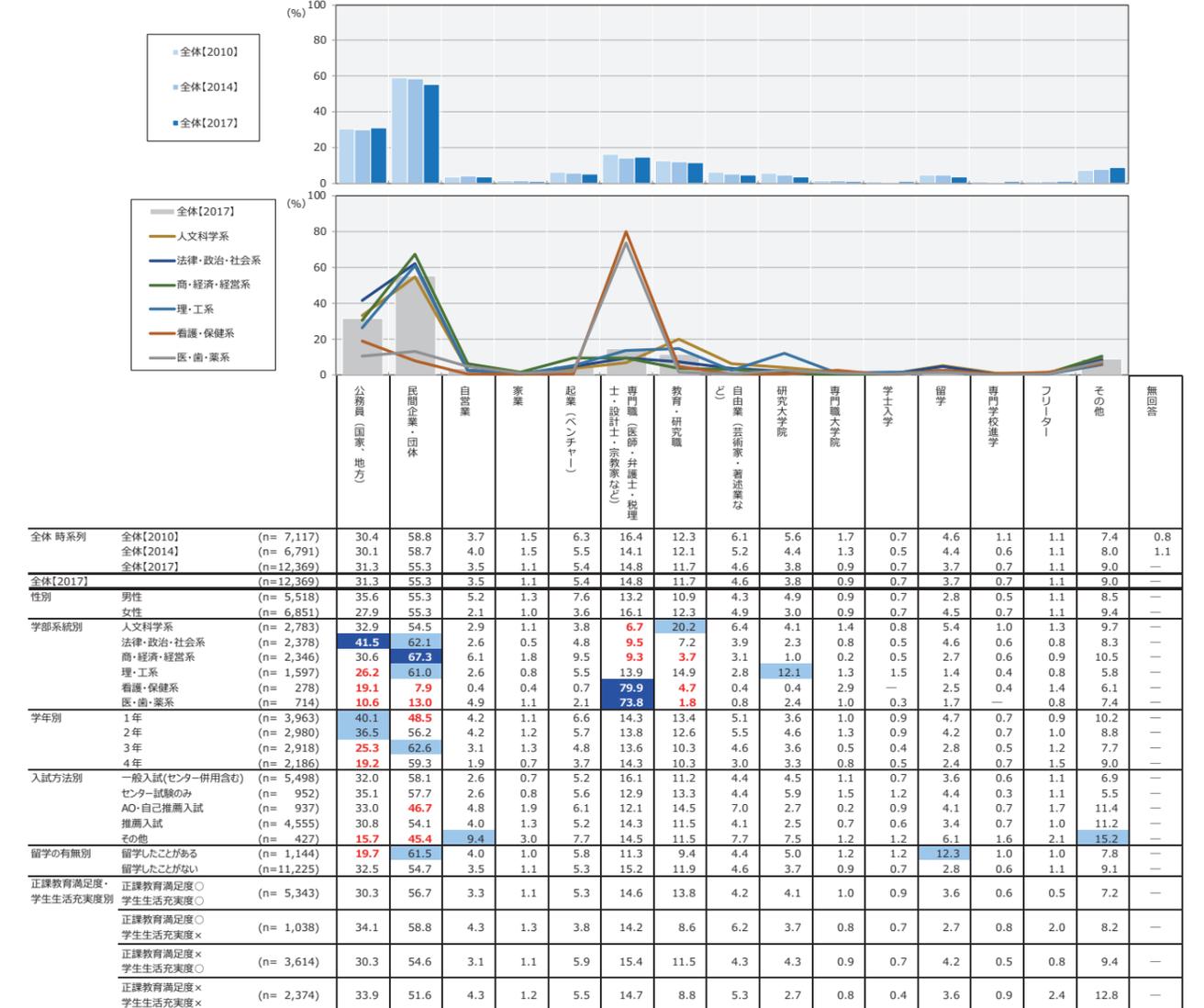
希望する進路

◆希望進路の1位は「民間企業・団体」で変化はないが、前回から減少。「公務員(国家、地方)」は31.3%で安定。

- ・全体では希望進路の1位は「民間企業・団体」(55.3%)だが、前回(58.7%)からは減少。一方、2位の「公務員(国家、地方)」(前回30.1%→今回31.3%)は前回から微増。過去の調査結果とほぼ同水準である。
- ・学部系統別にみると、「民間企業・団体」は「法律・政治・社会系」「商・経済・経営系」「理・工学」で60%を超えて高い。「人文科学系」では「教育・研究職」、「法律・政治・社会系」では「公務員(国家、地方)」、「理・工学」では「研究大学院」、「看護・保健系」「医・歯・薬系」では「専門職(医師・弁護士・税理士・設計士・宗教家など)」がそれぞれ高いという特徴がある。
- ・学年別にみると、「1年」「2年」は「3年」「4年」に比べて「公務員(国家、地方)」が高い。「民間企業・団体」は「3年」で60%を超えて高い。
- ・留学の有無別にみると、留学経験者のうち12.3%は進路でも「留学」と回答している。留学経験者は未経験者に比べて「公務員(国家、地方)」が低く、「民間企業・団体」が高いのも特徴である。

■希望する進路(全体/複数回答)

Q56 どのような進路を選択したいと考えていますか。(二つまで)



※「全体[2017]」で降順ソート
 +10 : 『全体[2017]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2017]』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け

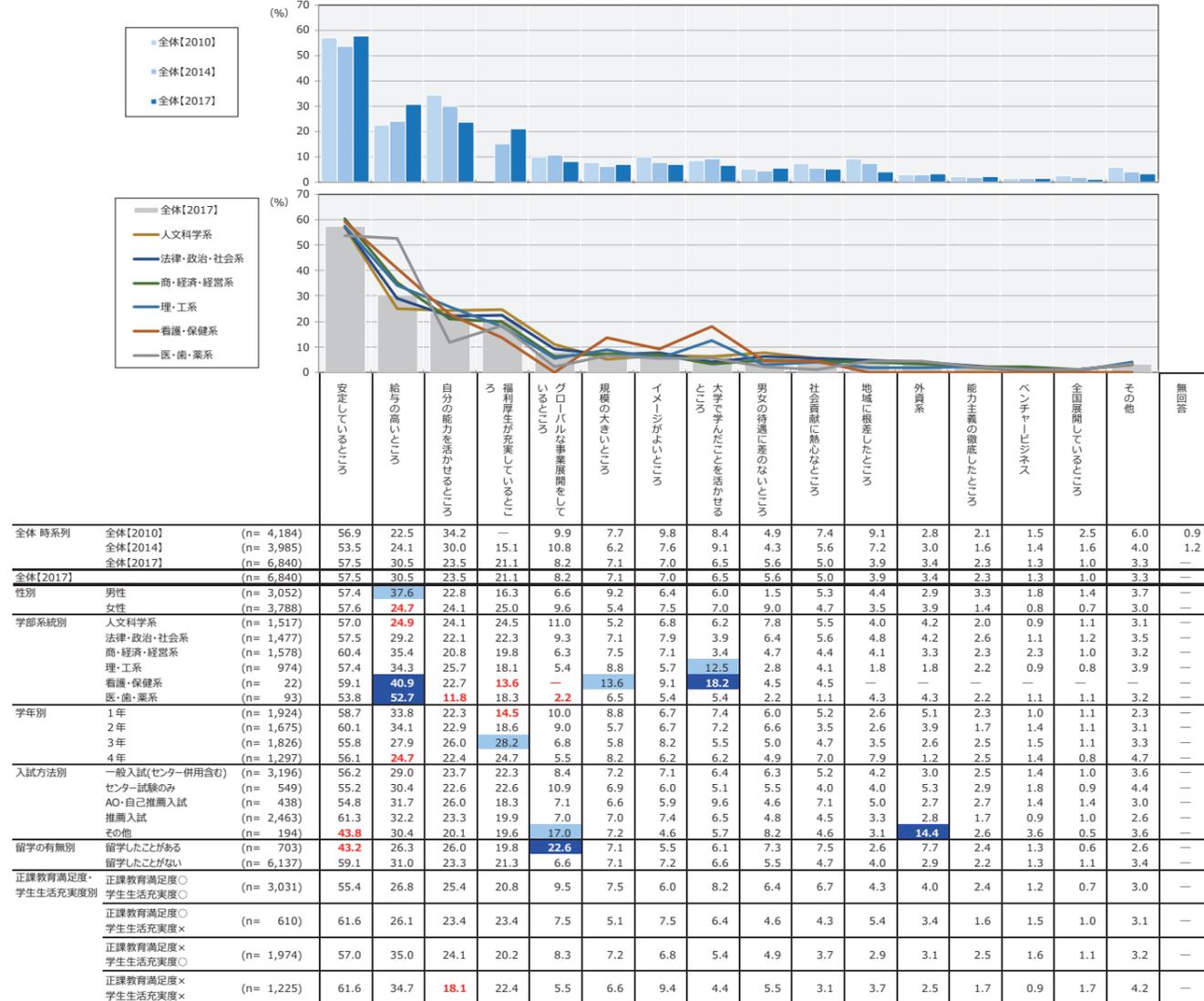
どんな民間企業を志望するか

◆“自分の能力”よりも“待遇”。“給与の高いところ”「福利厚生が充実しているところ」など、待遇の良さを重視する傾向が鮮明に。

- 全体では「安定しているところ」(57.5%)が1位。次いで「給与の高いところ」(30.5%)、「自分の能力を活かせるところ」(23.5%)、「福利厚生が充実しているところ」(21.1%)と続く。
- 「給与の高いところ」「福利厚生が充実しているところ」は増加しており、待遇の良さを重視する傾向が強くなっている。一方で、「自分の能力を活かせるところ」は前々回以降減少している(前々回34.2%→今回23.5%)。
- 性別にみると、男性は女性よりも「給与の高いところ」が高い。
- 学部系統別にみると、「理・工系」では「大学で学んだことを活かせるところ」、「医・歯・薬系」では「給与の高いところ」が他の学部系統に比べて高い(「看護・保健系」はサンプル数が少ないため、参考値)。
- 学年別にみると、「福利厚生が充実しているところ」は「1年」「2年」に比べて「3年」「4年」で高い。一方で「給与の高いところ」は「1年」「2年」に比べて「3年」「4年」が低い。
- 留学の有無別にみると、留学経験者は未経験者に比べて「グローバルな事業展開をしているところ」が高い。

■志望する民間企業・団体(民間企業・団体志望者/複数回答)

Q57 どのような民間企業・団体に就職したいと思いませんか。(二つまで)



※「全体[2017]」で増減ポイント
 +10 : 『全体[2017]』は10ポイント以上高い数値に顕著
 +5 : 『全体[2017]』は5ポイント以上10ポイント未満高い数値に顕著
 -5 : 『全体[2017]』は5ポイント以上10ポイント未満低い数値に顕著

9章：身についたこと

● 大学生活でこれまでに身についたと実感できる力

「身についたと実感できる力」のスコアは、前回に比べて全般に減少している。

「所属学部・学科の満足度」向上のカギは、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「専門的知識をもとに論理的に考える力」「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」。

● 今後、大学生活で身につけたい力

「専門的知識をもとに論理的に考える力」「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「パソコンやインターネットを使いこなす力」が増加。

「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」は、「1年」の50%前後が希望。

コメント

「大学生活でこれまでに身についたと実感できる力」について「4年」の回答を前回と比較すると、いずれの項目も減少。特に「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」「相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力」「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」は大きく減少した。

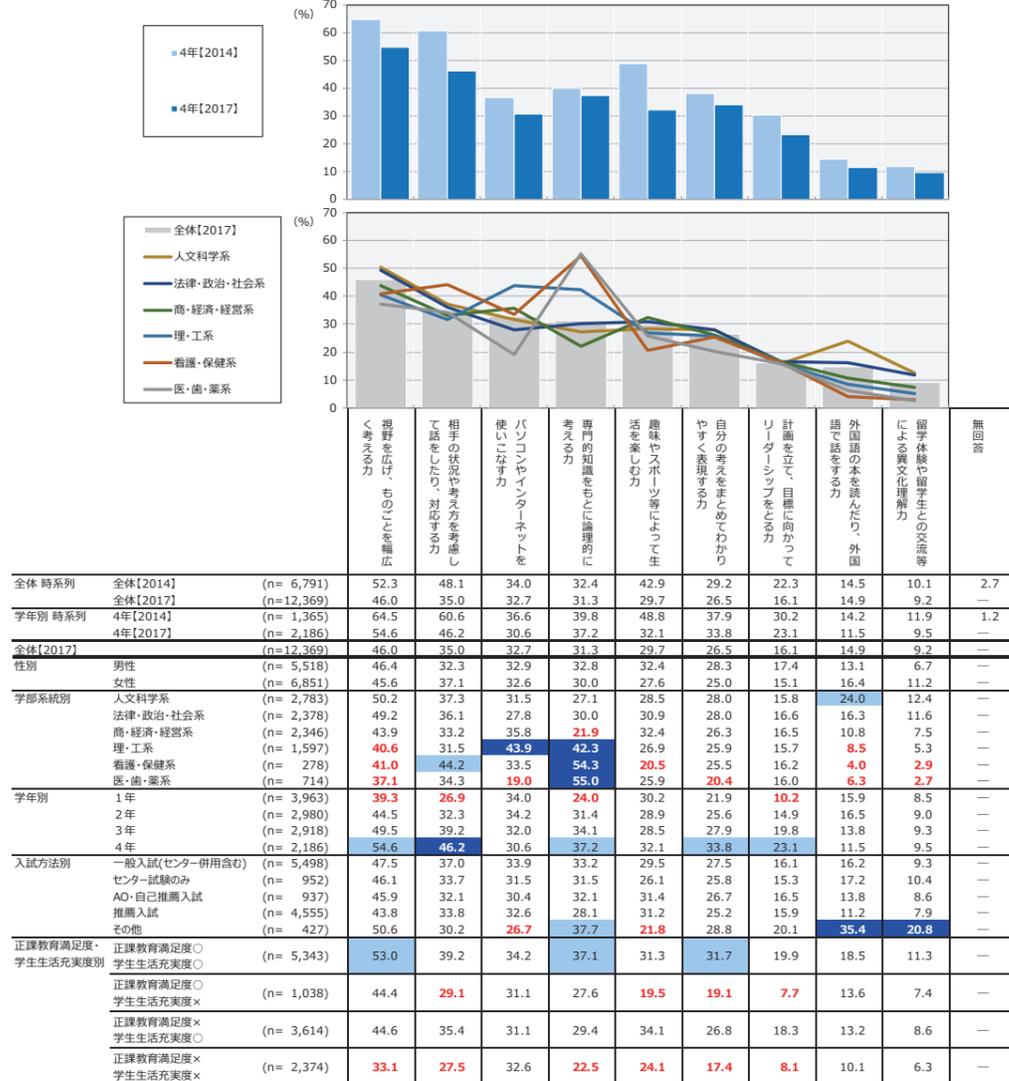
正課教育満足度・大学生活充実度の高いグループの傾向から推察するに、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「専門的知識をもとに論理的に考える力」「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」が身につくことが、満足度・充実度の高さにつながっている可能性が高い。

大学生活でこれまでに身についたと実感できる力

- ◆ [身についたと実感できる力] のスコアは、前回に比べて全般に減少。満足度・充実度の低下に影響か。
- ◆ [所属学部・学科の満足度] 向上のカギは、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「専門的知識をもとに論理的に考える力」「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」。

- ・大学生活でこれまでに身についたと実感できる力について、「4年」の回答を前回と比較すると、いずれの項目も減少。特に「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」(48.8%→32.1%)、「相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力」(60.0%→46.2%)、「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」(64.5%→54.6%) は大きく減少した。
- ・学部系統別にみると、理系(「理・工系」「看護・保健系」「医・歯・薬系」)は「専門的知識をもとに論理的に考える力」が高い。それに加えて、「理・工系」では「パソコンやインターネットを使いこなす力」、「看護・保健系」では「相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力」が他の学部系統に比べて高い。「人文科学系」では「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」が高いという特徴がある。
- ・正課教育満足度・学生生活満足度別にみると、「正課教育満足度○大学生生活充実度○」の層の「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「専門的知識をもとに論理的に考える力」「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」が他の層よりも高い。これらの力が身についたと実感できることが、総合的な満足度の高さにつながる可能性が高い。しかし、時系列でみると[身についたと実感できる力]のスコアは前回に比べて全般に減少していることから、総合的な満足度・充実度の低下につながったと考えられる。

■身についたと実感できる力(全体/複数回答)
Q58 大学生活でこれまでに身についたと実感できる力はどうなりましたか。(すべて)



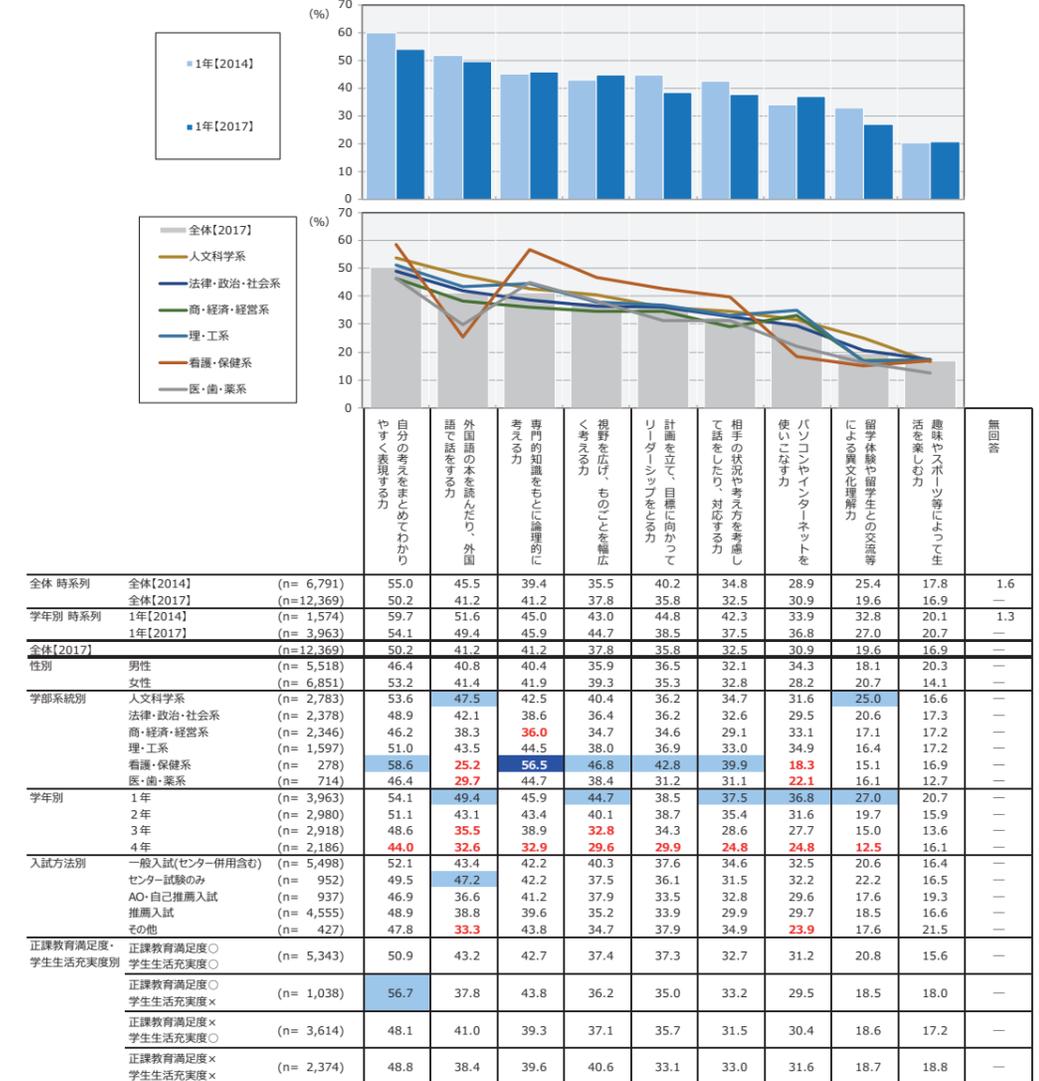
※「全体[2017]」で階層ソフト
※2010年は設問の形式が異なるため、データ非掲載

今後、大学生活で身につけたい力

- ◆ 「専門的知識をもとに論理的に考える力」「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「パソコンやインターネットを使いこなす力」が増加。
- ◆ 「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」「計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」「留学体験や留学生との交流等による異文化理解力」などは減少、内向き志向の表れか。

- ・ほとんどの項目において、「1年」のスコアが他の学年よりも高い。「1年」に絞ってみると「専門的知識をもとに論理的に考える力」「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「パソコンやインターネットを使いこなす力」が前回から増加しており、実利志向が高まっていることがうかがえる。
- ・一方で、「計画を立てて、目標に向かってリーダーシップをとる力」(44.8%→38.5%)、「留学体験や留学生との交流等による異文化理解力」(32.8%→27.0%)、「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」(59.7%→54.1%) は5ポイント以上減少。対人スキルとも関連するこれらの項目の低下は学生の内向き志向が表れている。
- ・学部系統別にみると、「人文科学系」では「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」「留学体験や留学生との交流等による異文化理解力」、「看護・保健系」では「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」「専門的知識をもとに論理的に考える力」「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」「相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力」がそれぞれ高いという特徴がある。
- ・入試方法別にみると、「センター入試のみ」の「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」が他の入試方法に比べて高い。
- ・正課教育満足度・学生生活満足度別にみると、「正課教育満足度○大学生生活充実度×」の層の「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」が他の層よりも高い。

■身につけたい力(全体/複数回答)
Q59 今後、大学生活で身につけたい力はどうなりましたか。(すべて)



※「全体[2017]」で階層ソフト

委員名簿

■学生委員会 委員

役名	氏名	学校法人名および役職等名
担当理事	土屋 恵一郎	明治大学 学長
委員長	神澤 信行	上智学院 学生センター長・理工学部教授
委員	森 正明	中央大学 学生部長・文学部教授
	上田 雅弘	同志社 学生支援機構・商学部教授
	永星 浩一	福岡大学 学生部長・商学部教授
	笹倉 淳史	関西大学 商学部教授・キャリアセンター所長
	山口 隆之	関西学院 学生生活支援機構長・学生部長
	千田 憲孝	慶應義塾 学生総合センター長・理工学部教授
	越川 芳明	明治大学 副学長（学務担当兼学生部長）・文学部教授
	北條 英勝	武蔵野大学 教務部長・人間科学部教授
	岡田 悦典	南山学園 学生部長・法学部教授
	庄司 貴行	立教学院 学生部長・観光学部教授
	佐々木 宏	立教学院 キャリアセンター部長・経営学部教授
	長澤 克重	立命館 学生部長・産業社会学部教授
	齊藤 泰治	早稲田大学 学生部長・政治経済学術院教授

■学生委員会 学生生活実態調査分科会 委員

役名	氏名	学校法人名および役職等名
分科会長	北條 英勝	武蔵野大学 教務部長・人間科学部教授
委員	久保倉 幹雄	明治学院 学生部次長
	真田 樹義	立命館 スポーツ健康科学部教授・学生部副部長
	阿藤 正道	専修大学 学生部長・商学部教授
	岩崎 日出男	園田学園 教学支援部長・人間健康学部教授
	窪 園 隆	東洋大学 学生部事務部長

■担当事務局 教学支援課

役名	氏名	
課長	相坂 太郎	
課員	千葉 謙太	
(事務局長付)	秋濱 里佳	
専門職	小金澤 亜矢	(2017.12～2018.9武蔵野大学より出向)

一般社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覧

(平成30年9月現在 124大学 大学名A B C順)

愛知大学	城西大学	武蔵大学	専修大学
亜細亜大学	城西国際大学	武蔵野大学	芝浦工業大学
青山学院大学	順天堂大学	武蔵野美術大学	白百合女子大学
跡見学園女子大学	関西大学	名古屋学院大学	昭和女子大学
梅花女子大学	関西学院大学	南山大学	園田学園女子大学
文教大学	関東学園大学	日本大学	創価大学
筑紫女学園大学	関東学院大学	日本女子大学	大正大学
中京大学	慶應義塾大学	ノートルダム清心女子大学	拓殖大学
中央大学	恵泉女学園大学	大阪学院大学	天理大学
大東文化大学	敬和学園大学	大阪医科大学	東邦大学
獨協大学	神戸女学院大学	大阪女学院大学	東北学院大学
獨協医科大学	神戸海星女子学院大学	大阪薬科大学	東北公益文科大学
同志社大学	皇學館大学	大谷大学	東海大学
同志社女子大学	國學院大学	追手門学院大学	常磐大学
フェリス学院大学	国際大学 ^(※)	立教大学	東京医療保健大学
福岡大学	国際武道大学	立正大学	東京情報大学
福岡女学院大学	国際基督教大学	立命館大学	東京女子大学
福岡女学院看護大学	駒澤大学	立命館アジア太平洋大学	東京女子医科大学
学習院大学	甲南大学	龍谷大学	東京経済大学
学習院女子大学	久留米大学	流通科学大学	東京農業大学
白鷗大学	共立女子大学	流通経済大学	東京歯科大学
阪南大学	京都産業大学	西武文理大学	東洋大学
姫路獨協大学	京都精華大学	聖学院大学	東洋英和女学院大学
広島女学院大学	京都橘大学	成城大学	東洋学園大学
広島修道大学	松山大学	聖カトリック大学	豊田工業大学
法政大学	松山東雲女子大学	成蹊大学	津田塾大学
兵庫医科大学	明治大学	西南学院大学	和光大学
兵庫医療大学	明治学院大学	聖路加国際大学 ^(※)	早稲田大学
石巻専修大学	宮城学院女子大学	清泉女子大学	山梨英和大学
実践女子大学	桃山学院大学	聖心女子大学	四日市大学
上智大学	桃山学院教育大学 ^(※)	仙台白百合女子大学	四日市看護医療大学

(※)国際大学は学部を設置していないため、調査対象外。平成30年4月加盟の聖路加国際大学、平成30年4月開学の桃山学院教育大学も調査対象外。平成30年3月退会の苫小牧駒澤大学は調査協力をいただいた。